Vol. 65通巻750号

昭和59年9月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE & SOCIETY

特集■高齢化社会と生活空間

9

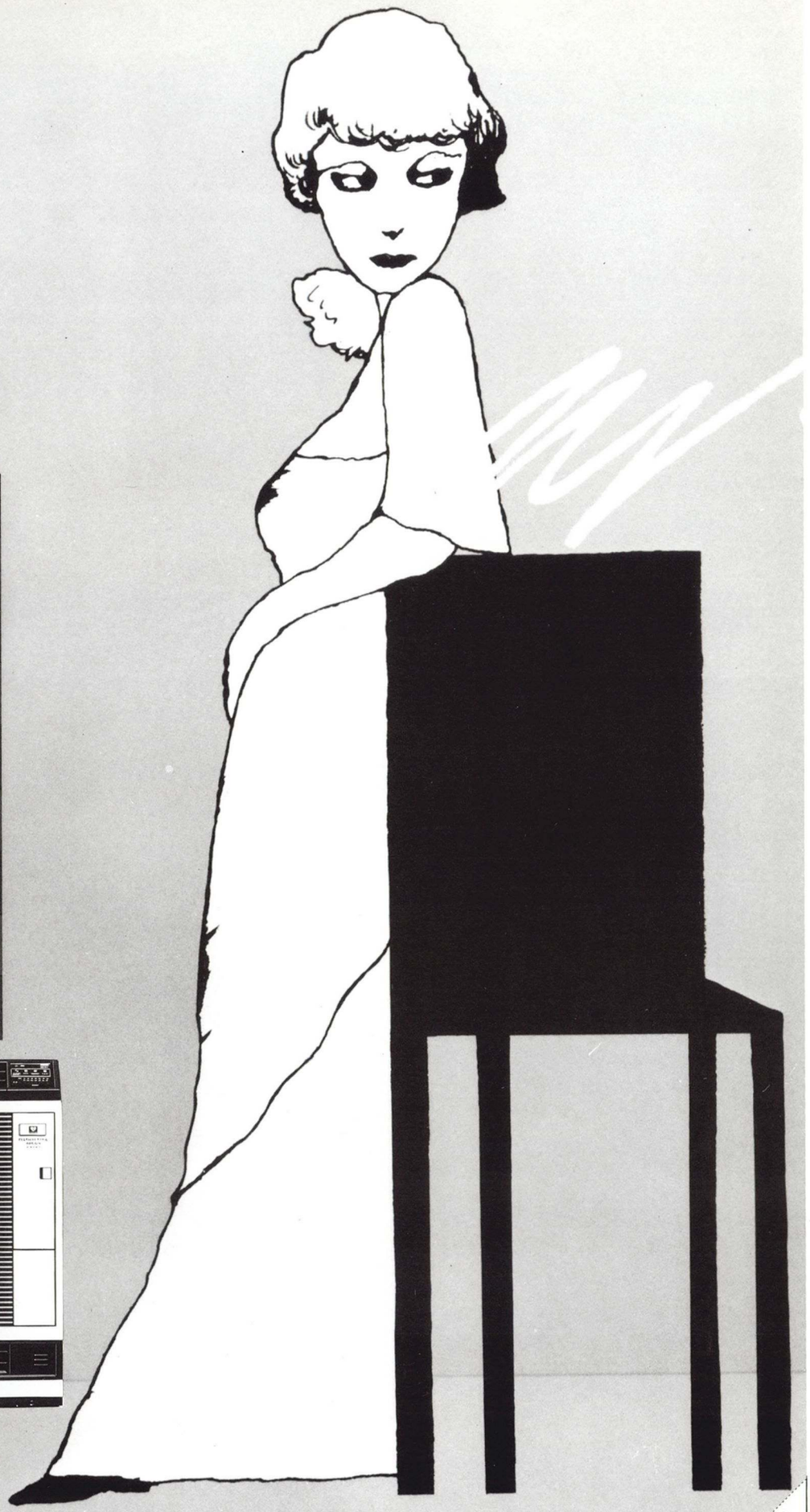
1984



日本建築協会

大阪ガス

ドアを開ければ大きな暖かさ ホットでグッドよ。

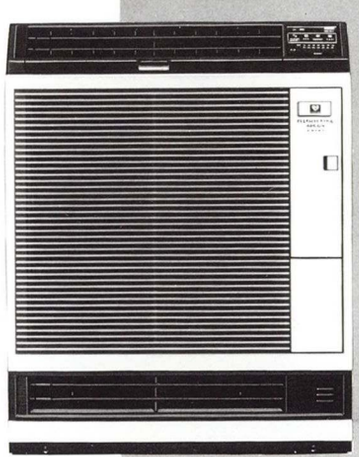


広いお宅に本格的なセントラルヒーティングの快適さを

暖ライフ150は、いままでの温水暖房のイメージを大きく変え、部屋数の多いお宅や大きなマンションにぴったりの多室暖房システムです。暖房熱源機で約80℃の温水をつくり、放熱器で温風にかえて暖房する方式ですから、身体にやさしく清潔でとても安全です。また、新しい暖房方式といま話題の床暖房やヘルシーライフにうれしい温水サウナなどのプランもかんたんに実現。もちろん、冷房もセットで組みこむことができます。

システムの一例





大型給湯プランをプラス。より快適な暮らしを

大きな給湯能力をもつガス湯沸器セントラルタイプ（33-152型）や温水ボイラ（33-312型）と組みあわせれば、各室暖房に加えて、たっぷりお湯も使える大型快適ライフが実現します。

新温水暖房システム

暖ライフ-150

15,000kcaℓ/h

※暖ライフ150についての詳しい資料をご希望の方は、ハガキに資料請求券を貼り、右記までご請求ください。〒541 大阪市東区平野町5-1 大阪ガス営業開発部「暖ライフ150」係

資料請求券
暖ライフ150

都市住宅を考える（第９回）

◀「建築不自由」の現在……五十嵐敬喜氏にきく



講師略歴

昭和19年　山形県に生まれる
41年　早稲田大学法学部卒業
43年　弁護士登録、現在に至る

●主な著書

「現代都市法の生成」（三省堂）
「日照権の理論と裁判」（三省堂）
「建築不自由の時代」（日経マグロウヒル社）
「現代都市法の状況」（三省堂'83年刊）

※現在、日経アーキテクチュアに「続・建築不自由の時代」を連載中。（'83．5．9号～'84．9．10号で19回。あと１回で完結）

今回は、建築に関連するさまざまな紛争に自ら弁護士としてかかわりつつ、法律家の目を通じて、建築ひいてはそれらの集積である都市のあり方について鋭いメスを入れ、論陣を張っておられる五十嵐敬喜氏をお招きします。

五十嵐氏の思想をひとことで表現する「建築不自由」ということばは、ご存じのとおり、今や広く建築界に話題を投げかけていますが、そうした氏の思想の〝現在〟について語っていただきます。

ところで、「都市住宅を考える」シリーズは、昭和53年６月の第１回「なぜ、今、タウンハウスか……」をはじめとして過去８回の講演会や見学会を企画してきました。今までのゲストは建築あるいは都市の設計・計画の専門家でありましたが、今回は今までとは趣をかえて、法律家の目で見た都市住宅論をお聴きするわけです。

五十嵐氏のかずかずの論文に指摘がありますように、建築界と法曹界との間には、いろいろな点で深いギャップがあり、建築界がより広い〝社会〟の中で、オピニオン・リーダーの一員となるためには、これらのギャップを埋める地道な努力が必要とされます。

当日は、氏のご意見を拝聴するとともに、許すかぎり質疑応答の時間を確保したいと考えています。氏の代表的な著書（紹介欄参照）に事前に目を通されて、当日臨まれれば、より有意義な時間が持てるものと思います。ふるってご参加下さい。

なお、この企画は、できるだけ親密なものにするために、参加人員を制限させていただきます。ご希望の方は、お早目にお申込をお待ちします。

日　時　10月17日(水)　開場　18：00
開会　18：30→閉会　21：00

会　場　大阪府立労働センター・６階・606号室
（大阪市東区京橋３丁目15番地　TEL．06－942－0001）

ただし、天神橋南詰近畿郵政局の東隣り。地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋駅」より西へ約400m。または、地下鉄堺筋線・京阪電鉄「北浜駅」より東へ約500m。

講　師　五十嵐　敬喜氏（弁護士）

定　員　100名

参加会費　会　員　1,200円（資料代含む
会員外　1,500円（当日受付でいただきます）

申　込　往復葉書１名に１枚限りとし、氏名・年令・勤務先名・所属部課名または役職名・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「建築不自由の現在」と明記の上10月11日(木)までに建築協会事業課へ。

◀「吉田保夫の世界」大阪展

最近、大阪を中心に異彩を放つユニークな建築活動を続けておられる吉田保夫氏の展覧会を本会ラウンジで開催します。

吉田保夫氏にとって建築は、自身の肉体、精神の発現の場であり、建築の存立する状況を呼吸しつつ、氏の視線を通し、肉体を通過させることにより空間を創造されています。

そこには「吉田保夫の世界」が確実に刻印されています。

――二次元の素描にすぎない設計図で判断することはできない。それは不完全な総合を代弁する像で、空想の散歩の旅程を示すだけだ。高さや厚さを同時に決定せずに、すべてにわたって基本的細部のどんなものでも決めずには、創造行為は不可能である。　――粗い石（フェルナン・プイヨン）より――

これは修道士がその土地で生活を営み、風土を呼吸しながら、自らの力で修道院をつくりあげていく過程を描いた小説の一文です。ここには吉田保夫氏の建築にむかう姿勢と共通するものがあると思われます。

今回の展覧会では、ドローイングや模型および珍しい真鍮の文房具などが展示されます。また、オープンの当日には最近の作品のスライドを交えての講演会も予定しております。吉田氏の人となりを知る絶好の機会ですので奮ってご参加下さい。

吉田保夫氏略歴

1947年４月　佐賀県に生まれる
1969年６月　大阪工業大学第二工学部建築学科中退
1971年11月　安藤忠雄建築研究所入所
（～1974年11月）
1974年12月　吉田保夫建築研究所設立、現在に至る



■展覧会「吉田保夫の世界」大阪展

開催期間　1984年10月27日(土)→11月２日(金)
午前10時～午後７時（入場無料）
ただし、初日（27日）は午後５時まで。

会　場　日本建築協会・ラウンジ（大阪駅前第３ビル・21階）
大阪市北区梅田１丁目1－3－2100（TEL．06-348-0633）

ただし、国鉄大阪駅、阪神電車梅田駅より徒歩５分。阪急電車梅田駅より徒歩10分。御堂筋と梅田新道交差点角の一番高いビル。

■講演会「住いにおける空気……」・スライド併用

日　時　1984年10月27日(土)　開会18：30→閉会21：00

会　場　日本建築協会・ラウンジ

講　師　吉田保夫氏（吉田保夫建築研究所所長）

定　員　50名

参加会費　会　員　1,200円
会員外　1,500円
当日受付にていただきます。（飲物代含む）

申　込　往復ハガキ１名に１枚限りとし、氏名・年令・勤務先名（学校名）・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「吉田保夫講演会」と明記の上10月20日(土)までに建築協会事業課へ。
ただし、会場の関係上定数に限りがありますので、定員超過の時は会員優先となります。会員、会員外の区別は必ず明記願います。

日本建築学会大会研究協議会
高齢社会に向けての住居・住環境の課題

とき　10月14日(日)
ところ　横浜国立大学

・21世紀に向けての住政策提言／森　幹郎
・高齢社会における居住環境の実態と課題／林　玉子
・住居周辺施設の現状と課題／小滝　一正
・地方自治体における住宅行政の課題／吉村　直樹

昭和59年度・第2回茶室見学会

◀錦秋の出雲路に名席・名勝とニチラスの本社工場を訪ねる

本会恒例の茶室見学会は、昨秋の犬山城と如庵を見学する一泊旅行が好評を博しましたので、今秋は出雲路に名席、名勝を訪ねる企画をしました。

加えて、永年にわたる岡田孝男先生のご指導とご案内による茶室見学会の25周年の記念すべき催しとして、先生のご出身地の出雲へ参ることにいたしました。

10月中旬の出雲は、空は青く澄み、日本海を渡ってくる空気は美味しく（これは大阪から行くとはっきりと違いがわかります）、1年中でもっとも良い季節です。戦災を免れた古い都市、松江市にある菅田庵、明々庵、八雲旧居、松江城。市郊外にある八重垣神社、神魂神社、古門堂などを巡る予定です。

また、行程の当初には米子市の、意欲的な新しいアイデアと行動力による旺盛な企業活動をされているニチラスの本社工場を見学いたします。

この、またとない島根の旅への絶好の機会に、皆さまの多数ご参加をお待ちします。

日　時　**10月19日(金)・20日(土)**　1泊2日（晴雨不問）
集合 19日(金)・8:00 → 解散 20日(土)・20:30ごろ
（全行程　貸切バス利用）

集合場所　大阪・国鉄・大阪駅西口ガード下（大阪中央郵便局の北側の高架下付近）・目標会旗

講　師　岡田孝男氏（工学博士　帝塚山学院大学教授）

定　員　40名（バス1台）

参加会費　会　員　20,000円
会員外　25,000円
（宿泊懇親会費、拝観料、昼食（2回）、バス代、その他・別に補助いたします）

主なスケジュール

〈第1日〉日本フェラス工業㈱本社工場（米子市）
清水寺、蓮乗院・古門堂の茶室(安来市)

〈第2日〉松江城、小泉八雲旧居、菅田庵、明々庵、八重垣神社、神魂神社、その他（松江市、市外）

宿　舎　松江温泉「松平閣」〈宍道湖畔〉
（松江市千鳥町　TEL.0852－23－8000）

申込方法　往復葉書1名に1枚限りとし、葉書には必ず氏名・年齢勤務先名及役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入し、「出雲路の見学」と明記の上10月15日(月)必着で建築協会事業課へ。定員超過の場合は会員優先にて抽せんの上お知らせします。

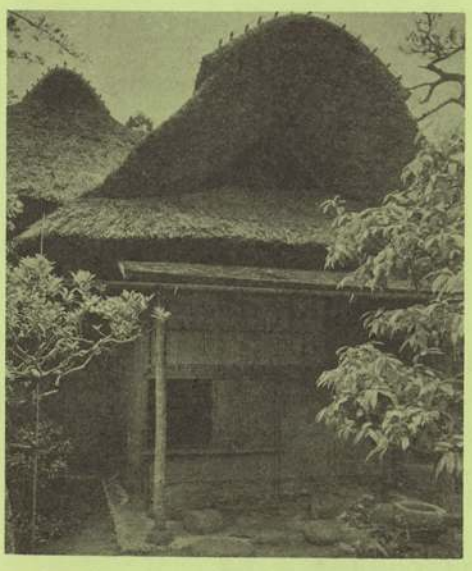
〔備考〕
(1) 1泊旅行のため、葉書には上記申込記載事項は必ず全部ご記入下さい。（会員、会員外の区別も明記のこと）
(2) 詳細スケジュール、参考資料は当日お渡しします。
(3) 宿舎の部屋割は恐縮ながら委員、事務局にご一任願います。
(4) 全行程貸切バス利用の関係上、移動・解散時間を多少変更する場合もあり、ご了承下さい。
(5) 会費は当日受付にていただきます。
(6) 無断欠席は厳禁。申込参加者で10月17日(水)までに欠席連絡のない方は欠席でも負担金（12,000円）を申し受けます。ただし、連絡の上、代人参加は可。
(7) 申込、連絡先→**大阪市北区梅田1－1－3（大阪駅前第3ビル・21F）**
日本建築協会事業課（TEL 06－348－0633）

◎今回は、下記各社のご賛助を得て、参加会費は格安になっております。誌上より厚くお礼申しあげます。
日本フェラス工業株式会社殿（米子市）、森崎建材有限会社殿（倉吉市）

● 資料のご提供
①岡田孝男先生著「松江の茶室」
②島根県大阪事務所（松江のイラスト地図その他）

■主な見学先のご紹介（順不同）

●菅田庵
松江市の東部、菅田町の有澤山荘にある。不昧公（松平家七代・文化文政頃の茶人大名）の好まれた1帖台目中板隅炉の名席で、不昧公の弟・瓢庵公の好まれた4帖半台目向切炉の向月亭、お風呂屋が付属し、いずれも、重要文化財に指定されている。



●明々庵
出雲藩家老、有澤家の殿町の本邸にあった2帖台目向切炉の席で不昧公好み。一時東京の松平家に移築されたが、松江に戻され、いま赤山町に移築され、書院百草亭も改築されて、盛んに使われている。

●古門堂
安来市、清水寺の蓮乗院にある2帖丸炉の席で、すぐ傍にある2帖隅切りの巌松軒とともに変化の多い茶室である。

●松江城
重文、慶長12年(桃山時代)、四重五階の望楼式複合天守。地下一階付、本瓦葺。別名千鳥城という。



●小泉八雲旧居
史蹟。明治の中頃、松江中学教師として、ラフカディオ・ハーン（松江ではヘルンさんと呼ぶ）が住んだ家。士族の屋敷で旧のまま保存してある。

●八重垣神社

八雲立つ　出雲八重垣　妻込めに
八重垣造る　その八重垣を

と素盞嗚尊命が日本最古の和歌を詠じて、八重垣姫と家庭を持った所。出雲では、真の縁結びの神はここだと信じている。

●神魂神社
重文。八重垣神社のすぐ近くにある数少ない大社造の一つ。正平元年(室町時代)。とち葺。境内に重文・貴布祢、稲荷両神社の流れ造もある。

●ニチラスの「フォームレス・フォーム・システム」とは……（メッシュ型枠工法）PAT.P
近年、土木建築業界において、品質管理および品質向上が問われる時代になってきました。日本フェラス工業㈱は、「ニチラス」の名のもとに耐震、防火、防音など数かずの特性に加えて、作業の省力化、工期の短縮、大幅なコストダウンを可能にする一連のラス製品を開発されていますが、このたび、従来の木製型枠に替わり、特別に開発した、メッシュを使用して型枠を組み、これにコンクリートを打設するという画期的な工法を発表されました。
このシステムの最大の特徴は品質の中でも、時間の品質を向上させる（工期の短縮を図る）ことを大きな目的として開発されたもので、すでに数多くの実績のもとに、業界内の各方面より「工期短縮」については高く評価され〝これからはメッシュの時代〟という声も聞かれて、ユニークな企業活動をされております。

すぐに役立つ建築技術者へのガイド　　昭和59年度

◀建築工事実務講習会開催（第40回）

日　時　昭和59年11月13日(火)　午前9時→午後5時

会　場　建設交流館・6階・603室
（大阪市西区立売堀2－1－2・TEL06－543－2551）
※お申込みいただいた方には、会場案内図を差し上げます。

科目講師　施工計画　金田　宏 氏　(株)大林組本店建築工務部次長）
仮設見積　安立　俊夫 氏　(株)大林組本店建築工務部工務課長）
積算業務　黒川征一郎 氏　(株)竹中工務店大阪本店見積課長）

定　員　100名

会　費　11,000円（テキスト代含む）
テキスト体裁：B5判・図表入り300頁（予定）。他に「モデル建物見積書集」、「モデル建物設計図及び施工計画図集」有り。

申込先　㈳日本建築協会
〒530 大阪市北区梅田1丁目1番3－2100
大阪駅前第3ビル21階　　TEL（06)348－0633
昭和59年11月6日(火)締切。（申込先着順）
会費を添えて本会総務課までお申込み下さい。（現金送金も可）引き替えに受講券を発行します。

※受講申込用紙ご希望の方は本会事業課までご連絡下さい。
折り返しご郵送いたします。

「質と環境の充実をめざして」

◀公共住宅写真展開催（再掲）

近畿の自治体と住宅都市整備公団、住宅供給公社、金融公庫で組織する近畿地方公共住宅建設事業者等連絡協議会は、創設5周年の記念事業として、メインテーマを「質と環境の充実をめざして」に、近畿一円で公共住宅写真展を開催しています。これは、事業主体から市民へ向けて、公共住宅の多様化と高度化の現状を、写真を通じてアピールしようとするもので、兵庫、大阪は9月中に行われましたが、10月から滋賀、和歌山、京都、奈良と巡回します。お立ち寄り下さい。

展示期間・展示場所

滋　賀	10月6日(土)～7日(日)	国鉄大津駅ビル2階（国鉄大津駅）
和歌山	10月12日(金)～15日(月)	国鉄和歌山駅ステーションビル4階（国鉄和歌山駅）
京　都	10月25日(木)～28日(日)	大丸京都店7階特設展示場（阪急烏丸駅）
奈　良	11月13日(火)～16日(金)	近鉄奈良駅コンコース（近鉄奈良駅）

〔問合せ先〕大阪府建築部住宅建設課　電話06(941)0351　内3043

◀「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06－348－0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外￥750(58年4月号以降は￥950)です。郵送料は実費いただきます。さらに欠号が出てきておりますので、購入時にお確かめ下さい。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和50年(56集)	＊図書館	＊東海の新建築	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	＊都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	＊騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76－建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	床工法と材料	＊建築防災と法	＊市街地整備	工場建築と設備	＊鉄骨構造のジョイント	＊集住体のハードとソフト	結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	＊設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向－部分と全体	兵庫県－その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	日影規制と法	身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題－大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向－新旧のコントラスト	水	医療施設－病院建築と情報システム	外壁塗装材料	電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD－設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築－まちづくりの歴史と展望	＊ ●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文－北京の都市計画	ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法－安全な環境をめざして	都市住宅－住まい手からの発想	●建築物と風－デザイナーのために ●日建設計作品集	住宅・都市整備公団－関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設－地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観－まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第1期）	音とホール建築	大スパン構造	昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と音
昭和59年(65集)	21世紀への関西－魅力あるまちづくりを問う	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展－	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	まちの活性化と商業空間	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテール	光応用システムと建築

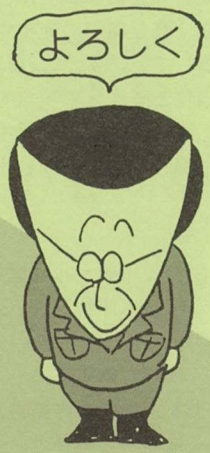
企画・日本建築協会

新シリーズスタート

実務に役立つノウハウを，わかりやすく見やすくまとめたニュータイプ

プロのノウハウ

- 2色刷…
- コンパクト編集
- 軽快なハンドブック

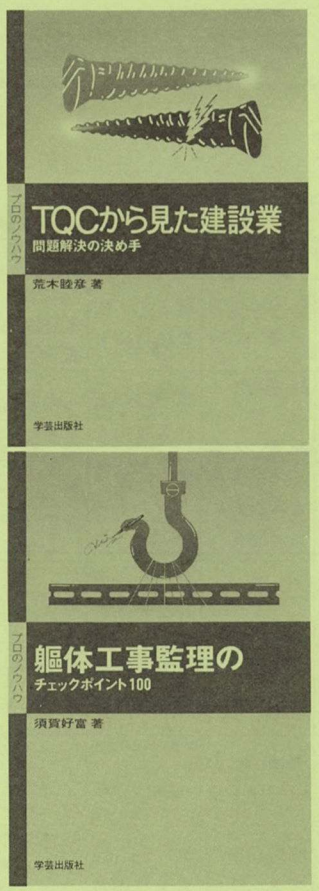


生半可な技術では用をなさない．営業的なセンスもなければプロではない．プロしか生き残れない時代．最先端のノウハウをまっ先に手に入れるための新シリーズ登場．各分野の大ベテランが本当のところを教える．よりわかりやすく，よく手早く楽しく読める！が本シリーズのモットー．協会ならではの，実務のポイントを押えた，すぐ役立つノウハウ集である．

●刊行にあたって（社団法人　日本建築協会）●

創立60周年を記念して刊行いたしました「建築技術選書」は，幸いにも，実務に役立つ技術書としてご好評を得ることができました．当シリーズは「建築技術選書」の姉妹版として，ここが決め手というところを，わかりやすく親しみやすくまとめたものです．プロを目ざす技術者，とりわけその第一歩を踏み出そうとしている方の良き友となれば幸いです．

まず2冊同時発行



TQCから見た建設業

問題解決の決め手

荒木睦彦著／四六・192頁・定価1600円



TQCはお灸のようなもの．成功例ばかり読んで，ともかく導入したのはよいが“つぼ”をはずして会社が大やけど，といったことにならないための必読書．建設業のTQCの表も裏も知りつくした著者による，実践のための手引き．

〔目次〕　はじめに　1建設業のTQC　2TQCとは何か？　3問題のとらえ方―現状把握　4QCサークル―問題を見つける訓練の場　5方針管理と社長診断―トップが問題を見つけ解決する場　6管理とそのポイント―CAPDの輪をまわせ！　7QC七つ道具―考え方と使い方　8おわりに

躯体工事監理のチェックポイント100

須賀好富著／四六・224頁・定価1800円

現場経験が少ないと，とんでもない失敗，恥かしいミスをすることがよくある．失敗してから知ったのでは遅すぎる監理の盲点など，躯体工事監理のノウハウを，最新の知見と豊富な経験から100のチェックポイントに凝縮した．1項目を2ページ見開きにまとめ，簡潔な説明と詳細な図で，深くも浅くも活用できるよう構成した．



躯体工事を「基礎工事」「コンクリート工事」「鉄筋工事」「鉄骨工事」にわけ，たとえば，「鉄筋メーカーと規格」「鉄筋の継手と定着」「鉄筋の圧接と溶接」「機械的継手」「かぶり厚さと鉄筋間隔」など，各工程の監理のポイントを明快に示した．図，表，イラストなど，全400点以上収録．



確かな内容を楽しく

難しいことをしかめっつらして読むのはもうやめよう．身につけるためには楽しむのが一番．2色刷になってわかりやすさは抜群だ．しかも，本を読むのがにが手な方や，仕事のあい間に読む人のために，肩が凝りそうなところでは“ノウハウおじさん(仮称なので名前募集中)”が登場する．技術書の殻をやぶった技術書．続刊にもご期待ください．

〈目録進呈〉

学芸出版社　京都市下京区本津屋橋通西洞院東入　☎075-343-0811

建築と社会
©1917年創刊
第65集・1984

通巻750号 9

表紙デザイン：
濱野節朗（京都工芸繊維大学）

特集予告
■10月号／床の構工法
■11月号／第31回青年技術者ディテール
■12月号／光応用システムと建築

会　長　福田朝生
副会長　足立　孝・市川　宏
　　佐野正一・松村雄二
編集委員会（昭和59年度）
編集委員長　　桑　學
井上　滉　　■施工材料分科会
編集理事　　阿川　清二
井上　滉　　荒木　弘之
今井潤之介　　田中　光紀
金多　潔　　西牧　恵吉
北澤　登　　水口　譲
竹中　錬一　　＊横井　征夫
武田　恭一　　■法令分科会
長谷部朔郎　　大西　博明
松村　慶三　　広江　雅樹
山本　晃　　＊松井　昭
渡辺　忠　　南出　和延
編集委員　　（作品作風小委員会）
（特集小委員会）　　浦山　哲
■計画分科会　　大泉　研一
足立　啓　　◎加藤　俊明
岡田　信幸　　北村　恭一
金澤　成保　　菊池　稔
榊　敏正　　黒川　省二
杉本　章子　　黒木　省二
＊田中　直人　　志方　敬育
中山　徹　　浜崎　彰
藤本憲太郎　　湯地　龍一
舟橋　國男　　（投稿欄小委員会）
本多　友常　　赤井　富弘
山根　勝利　　小林　正純
横井　眞朗　　◎中馬　博良
■構造分科会　　堀畑　裕一
足立　直行　　（広告企画小委員会）
日下部　馨　　◎伊藤　敬祐
西田　理　　池渕　俊男
＊真塚　達夫　　木原　幹雄
俣野　博　　駒田　哲男
八尾真太郎　　清水　修平
山田　裕治　　田上　章
■設備分科会　　○田中　功
磯田　憲生　　高橋　裕
遠藤　進　　原田　常介
川戸　敏雄　　平等　一之
河津　隆之　　本間　利雄
中曽　暁尚　　松村　孝治
＊橋本　邦彦　　◎渡辺　忠
◎副委員長　○副委員長代行　＊幹事

編集人　松　井　昭　光
印　刷　昭和59年9月20日
発　行　昭和59年9月25日
発行人　吉　田　悦　二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06—348—0635
振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111㈹
大信印刷株式会社
電　06—451—7631
定　価　950円（送料共）

会告
作品作風
スケッチブック
法令コーナー197
読者の頁
設計者のプロフィール
見学記
日本建築総合試験所だより
すまいづくり講座6
建築の眼
特集
1座談会
2アンケートA
アンケートB
3資料篇
レポート
構造の頁121
設備の頁120
施工材料の頁119
月報

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

CONTENTS

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集●高齢化社会と生活空間

SPECIAL FEATURES ON LIFE SPACE IN AGEING SOCIETY

都市住宅を考える（第9回）「建築不自由」の現在…五十嵐敬喜氏にきく．「吉田保夫の世界」大阪展．
昭和59年度・第2回茶室見学会—錦秋の出雲路に名席・名勝とニチラスの本社工場を訪ねる．
建築工事実務講習会開催．公共住宅写真展開催．「建築と社会」誌バックナンバーのおしらせ．…… 1
関西外国語大学クラブ館　　設計監理：A.R.I建築事務所　施工：栗本建設工業… 6
尾張旭市中央公民館
　設計：司設計事務所　監理：尾張旭市総務部管理課建築営繕係　施工：鴻池組名古屋支店… 8
最近竣工した新建築9点（No.1784～1792）…… 10
建築士法改正による建築士の責務（その3）／三木俊介 …… 11
イギリスでの生活点描6・ラジオ—LBCニュース・レディオを聞き、ラジオを修理する—／西村一朗… 13
吉村篤一氏（建築環境研究所）を訪ねる／本多友常…… 15
しなやかな対応、したたかな耐力—吉村篤一の一連の住宅作品に寄せて—／加藤力…… 16
受託試験における骨材の品質試験に関する調査結果／行貝光史…… 17
うまれ変わる街—まちなか・まちづくりの大規模実例—／山根勝利・千葉桂司…… 18
建築のメインテナンス／金多潔　ツインビル／恒成恒…… 20
米国のレストラン／横山誠一　　大阪の交通雑学／塩脇昭司

高齢化社会と生活空間

高齢化社会における生活空間とケアシステム …… 22
出席者：今田収／右田紀久恵／木下敏郎／中川倶子　　司会者：田中直人
高齢化社会の住環境整備を考える〝16の鍵〟…… 30
高田　真治—「家族としての生活」をとらえる
荒木兵一郎—千客万来の住まい—客間づくりのすすめ
高阪　謙次—シェルタード・ハウジングとコミュニティ・ケア
川村　雅憲—地域で生きる人の汗と匂いの空間化
馬場　昌子—老人と団地生活
岩井　一幸—高齢者を配慮した住空間の開発
平世　真一—高齢化社会の企業戦略
宮田　芳彦—「スープのさめない距離」と隠居のよさを生かす
石田　一一—地域と老人活動
木下　淳子—地域分散型ホームとコミュニティ・ケア
井上チイ子—老いと女性のかかわり
道井　忠男—老人の〝家庭〟
斉藤　幸子—施設は地域社会へ開かれたものへ
大国美智子—情報のネットワークを組み込む
児玉　桂子—欧米の高齢者対策から感じること
辻野　純徳—医療と福祉の狭間から
高齢化社会到来にむけた生協組合員の意識と生活／杉本章子…… 33
高齢者を対象とした生活空間の事例…… 38
ゆうゆうの里—神戸ゆうゆうの里、大阪ゆうゆうの里—、サン舞子マンション、VIVI有馬、中銀ライフケア熱海〔梅園台〕16号館、逗子ヘルス・ケア・マンション、ライフイン京都、熱海ゆとりあの郷、健光園、エリア会有野台ファミリー、羽曳野市立陵南の森総合センター、四天王寺悲田院、バプティスト・ガーデンズ、ロスモア・レジャーワールド

神戸・ポートアイランドを見る（第2回）ポートピア'81、その後…／庄野利博・松本明…… 46
書評・「近代建築ガイドブック—関西篇」／近野正男 …… 47
ＰＲＣの告示とその運用／鈴木計夫…… 48
ガスエンジンを利用したトータルエネルギーシステム／中川紀生…… 49
ステンレス防水の施工法と品質管理／高橋行雄…… 51
日本建築協会月間の動き（昭和59年7月分）…… 52



全景

撮影　黒田青巌

関西外国語大学クラブ館

設計監理　Ａ．Ｒ．Ｉ建築事務所

施　　工　栗本建設工業

所 在 地　大阪府枚方市北片鉾町16－１
敷地面積　33,000.00㎡
建築面積　622.74㎡
延床面積　3,693.79㎡
構造規模　Ｓ、８Ｆ(一部４Ｆ)、Ｐ１
工　　期　昭和58年１月～昭和59年２月
最 寄 駅　京阪電鉄本線 枚方市駅

関西外国語大学枚方キャンパスは、短大、大学、大学院からなる語学教育の総合大学で、アメリカ・ハワイ州にも分校をもつ海外交流の密度も非常に高い国際的な大学キャンパスであります。当計画は、キャンパス（≒33,000㎡）の南西角の公道に接した旧クラブ館跡地に、この敷地を高度に再利用することを主目的としたキャンパス再開発事業の第１弾として計画されたものであります。

学校側の要望は、クラブ館は学生のための施設であるから、学生課ならびに全学生のニーズが十分に満たされるものとなるようにとのことであった。

設計に当たり、旧クラブ館の利用状況ならびに現状における学生のスクールライフ及びクラブライフの充足度やキャンパスに於ける密度の高い部分等々を、設計者の角度からもマジョリティな要求の調査に約１年間をついやし、隣接する公園とその環境をも計算に入れた建築基準法上最大ボリュームを求めることで、年々増加の傾向にあるクラブ数と新しいクラブ活動の内容や、文化系と運動部系と一般学生とのゾーニングと同時に一体性の要求に応えるプランニングであることを基本とした。

実施設計に於ける基本構想としては、第一にメンテナンスフリーであること、第二に省エネであること、第三に周辺の環境をディスターブしないこと等々であった。

外部は、１Ｆ～４Ｆまで外壁にはＰ.Ｃ（タイル打込）、５Ｆ～８Ｆは断面図に示すごとく約２ｍのキャンテレバーとして張出し、その部分はホーロー鉄板（石綿板(ｱ)12＋トムレックス吹付(ｱ)20）、屋根及び庇は白色を基調とした外壁の汚れを防止するデザインとし、濃茶色のカラーステンレス板葺きとして環境に於けるスカイラインをひきしめると同時に、キャンパスのランドマークを目標とした。

内部は、１Ｆ軽食喫茶店、購買部等スクールライフスペースの増設を考慮し、２Ｆ～４Ｆはクラブルーム51室、５Ｆには防音空調設備のほどこされた多目的室、６Ｆ～８Ｆの上層部には構造上大きな空間を必要とする武道場を配置した。

設計者として、このクラブ館が、一人ひとりの学生が悔いのないスクールライフをエンジョイ出来たと思い出に残るような建物であってほしいと念願しながら、設計業務を担当した。

（Ａ.Ｒ.Ｉ建築事務所／亀井晃治）



北東面全景

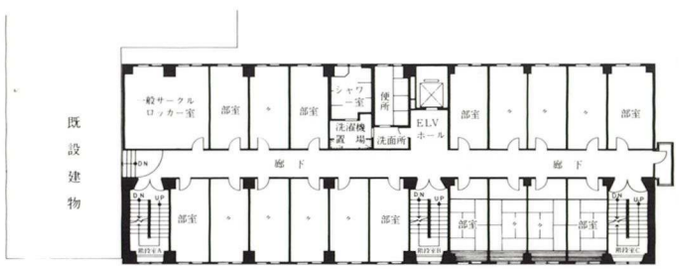


玄関ホール・ＥＶホール



８階武道場





主な協力業者

施　　工	栗本建設工業	大阪市西区南堀江1-11-1　TEL 06-531-5801	鋼製建具	浪速建材工業	大阪市西区新町1-4-26　TEL 06-533-6601
鉄骨・ホーロー薄　板	川鉄商事	大阪市北区小松原町2-4　TEL 06-315-4371	内　　装	田島応用化工	大阪市西区京町堀1-10-5　TEL 06-441-5951
プレコン	オリエンタルコンクリート	大阪市北区芝田2-6-23　TEL 06-372-0104	電気設備	東光電気工事	大阪市東区高麗橋5-28　TEL 06-202-0325
アスロック	ノザワ	大阪市北区曽根崎新地1-3-16　TEL 06-345-1031	給排水設備	若林設備工業	枚方市渚南町341-4　TEL 0720-40-0721
タ　イ　ル	国代耐火工業所	大阪市東区南本町5-13　TEL 06-245-5181	空調設備	関西菱電冷熱	吹田市江ノ木町30-31　TEL 06-380-0821
鋼製建具	住友ウォールシステム	大阪市東区南本町5-14　TEL 06-244-0761	ＥＶ設備	扶桑	大阪市浪速区日本橋西1-8-17　TEL 06-643-2411

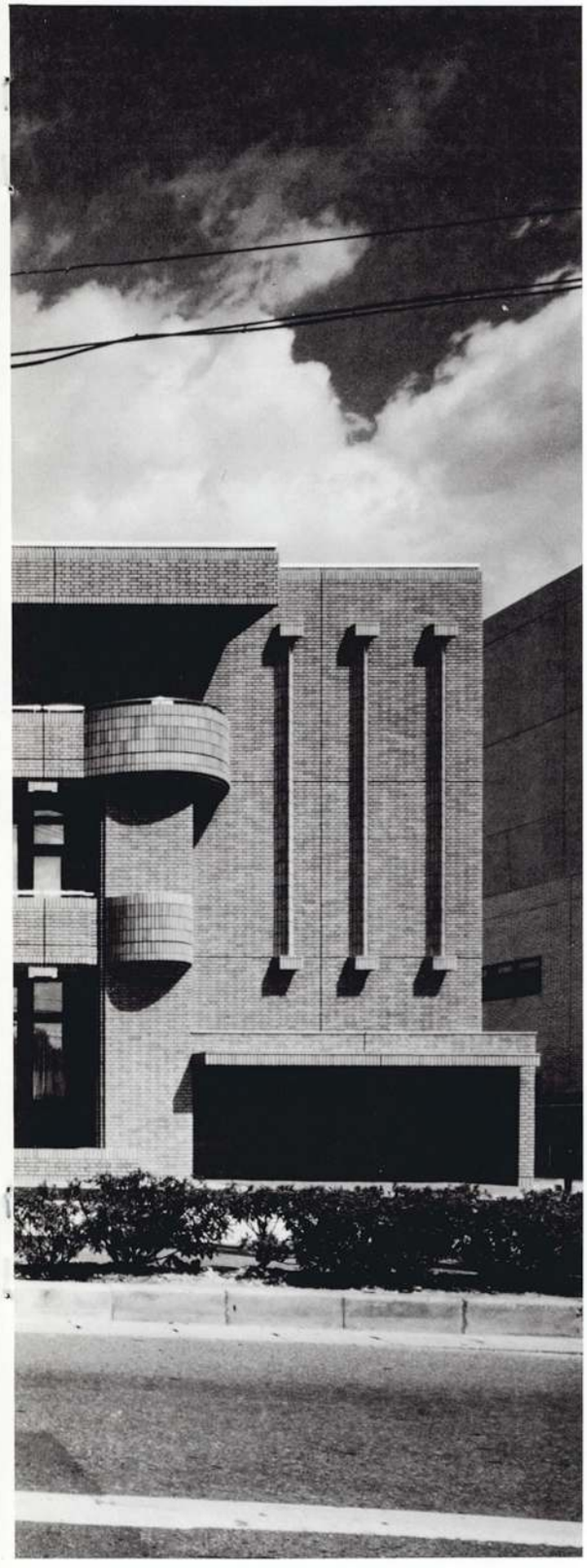
尾張旭市中央公民館

設計　司設計事務所
監理　尾張旭市総務部管理課建築営繕係
施工　鴻池組名古屋支店



正面外観（撮影 加藤敏明／ＳＳ名古屋）

所 在 地　愛知県尾張旭市東大道町山の内2410
敷地面積　15,107.00㎡
建築面積　　797.12㎡
延床面積　2,258.58㎡
構造規模　ＲＣ、３Ｆ、Ｐ１
工　　期　昭和58年９月～昭和59年７月
最 寄 駅　名古屋鉄道瀬戸線 尾張旭駅





外観全景



１階玄関ホール



３階研修室

この中央公民館は、尾張旭市市民の文化的役割を担うゾーンの一画に有り、既に市民に利用されている青少年ホームと併せて有機的に使用出来るよう考慮し、計画したものである。市民文化会館、図書館に隣接し、前面に中規模の駐車場を持っている。

平面計画は、正面玄関を入ると広いホール、資料コーナーよりなり、市民の社会教育の場として二つの研修室を持っている。２階は料理実習室、工作室、視聴覚音楽室であり、１階と同じく市民の社会教育の場の中心となっている。３階は二つの大型研修室(100人収容、150人収容)を持ち、建物全体が有効的に中央公民館の機能を果たすよう配慮した。

尾張旭市の社会教育の中心としての施設にふさわしいように重厚且つ近代的な市民の利用しやすい建物を目指し計画した。

（司設計事務所）



１階平面図

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1784 香川県大川合同庁舎

設　計：香川県土木部建築課
施　工：高岸工務店
a．香川県大川郡津田町津田930－2
b．4,954.11㎡
c．1,178.66㎡
d．2,851.13㎡
e．RC、3F
f．昭和58年7月～昭和59年3月
g．国鉄高徳線津田駅



1785 母と子の島野外活動施設中央管理棟

設　計：兵庫県都市住宅部営繕課・設備課
施　工：平錦建設
a．兵庫県飾磨郡家島町西島東尾友
b．54,986.00㎡
c．1,564.74㎡
d．1,614.54㎡
e．RC、2F
f．昭和58年3月～昭和59年3月
g．山陽本線姫路駅



1786 葉山村役場

設　計：宮地建築設計事務所
施　工：鹿島建設四国支店
a．高知県高岡郡葉山村永野471－1
b．3,379.63㎡
c．1,111.66㎡
d．2,436.77㎡
e．RC、3F、P1
f．昭和58年5月～昭和59年2月
g．国鉄土讃線須崎駅下車バス30分



1787 兵庫県立成人病センター、兵庫県立検診センター

設　計：兵庫県都市住宅部営繕課・設備課
施　工：前田建設工業
a．明石市北王寺町
b．23,477㎡
c．8,104㎡
d．20,432㎡
e．SRC、B1、6F、P2
f．昭和57年3月～昭和59年3月
g．国鉄山陽本線明石駅



1788 戸坂福祉センター

設　計：広島市・中電技術設計コンサルタント
施　工：下岸建設
a．広島市東区戸坂大上1－4－22
b．1,999.70㎡
c．592.30㎡
d．1,496.40㎡
e．RC、4F
f．昭和58年5月～昭和59年2月
g．国鉄芸備線戸坂駅



1789 学校法人大阪工業大学寝屋川学舎総合体育館

設　計：石本建築事務所
施　工：村本建設・不動建設ＪＶ
a．寝屋川市池田中町433－1
b．85,954.84㎡
c．2,718.93㎡
d．6,091.16㎡
e．RC(一部PC)、4F
f．昭和58年5月～昭和59年2月
g．京阪線寝屋川市駅



1790 清風ビル

設　計：松田平田坂本設計事務所
施　工：佐藤工業名古屋支店
a．名古屋市中区丸の内3－21－25
b．756.58㎡
c．603.82㎡
d．6,423.95㎡
e．SRC、B2、9F、P1
f．昭和57年10月～昭和59年3月
g．東海道線名古屋駅、地下鉄栄町駅



1791 京都府立視力障害者福祉センター

設　計：京都府営繕課・内藤建築事務所
施　工：宝・あめりか屋ＪＶ
a．京都市左京区下鴨森本町21
b．3,915.37㎡
c．2,072.62㎡
d．3,369.21㎡
e．RC、2F
f．昭和57年12月～昭和59年2月
g．国鉄京都駅よりバス20分



1792 広島ナショナルビル

設　計：フジタ工業広島支店一級建築士事務所
施　工：フジタ工業広島支店
a．広島市中区国泰寺町2－3－23
b．1,079.92㎡
c．891.94㎡
d．7,147.40㎡
e．SRC、B1、8F、P1
f．昭和57年10月～昭和59年1月
g．山陽本線広島駅

日本建築協会法規委員会
編集委員会法令分科会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

197

建築士法改正による建築士の責務（その3）

管理建築士

建築士事務所は、専任の建築士が管理しなければならないこととされているが、開設者と管理建築士が異なる場合（開設者が管理建築士を兼ねるのでなく、出資者が開設者で、技術の責任者が管理建築士となる場合等）の、両者の権限、責任分担が不明確であった。改正法では、管理建築士の権限が明確化された。

たとえば、建築設計や工事監理業務等において、建築士事務所の開設者に対し、業務の管理の観点から必要な意見を述べることができ、開設者は、管理建築士の意見を尊重しなければならないこと。また、管理建築士は、建築士事務所の業務に係る技術的役割を認識し、管理建築士としての義務を十分に果たさなければならないこと。

建築士事務所の帳簿

この改正は、設計、工事監理等の適正化を図るため、建築士事務所の開設者に対し、当該業務に関する帳簿の備え付け等および図書の保存の義務を果たすものである。このことは、本社、支店、建設業との併業等にかかわらず、建築士事務所ごとに単独で行うものと思われる。

なお、建築士事務所の業務とそれ以外の業務を合わせて帳簿を作成することはできず、また、一つの業務を分けて帳簿を作成することはできない。帳簿の様式は定められていないが、綴じ合わせて冊子とすること。

工事監理報告書は、複本でもよい。

建築士事務所の処分

建築士法は技術者の法律であり、一生に一度くらいしか建築をしないような一般の人々が、あまり詳しく知らないのも無理からぬことである。

そのために、建築の専門家である建築士、建設業者、宅地建物取引業者等の職能分野があり、これらの者は、職業上諸法令について、専門的な知識が要求されている。しかし、現実には、これらのいわばプロの人達が半ば公然と法令違反を行っている。建築に関する法令等に違反した建築士、建設業者、宅地建物取引業者等は、それぞれの監督法によって監督処分を受ける建て前になっているが、府下では、実際には年間数件程度しか建築士法上の処分例はなく、違反件数の1％にも満たない有様である。

そこで、今回の改正内容には、建築士事務所の開設者に対して戒告を与えることができるものとする監督処分を積極的に行うこととした。これにより、当該建築士達にも相応の処分が与えられ、連鎖的に処分庁である行政も忙しくなるであろう。しかし、罪を裁いて人を裁かずのごとく、建築物等の違反是正が主目的の昨今の建築行政であるならば、雇用関係等の社会的背景もよく勘案し、適切なる判断（処分）が要求されよう。

改正法では、建築士事務所の開設者に対して戒告を行うことができ、また、所属建築士が戒告処分を受けたときにも建築士事務所の監督処分ができることになった。

なお、開設者に対しての戒告処分は、聴聞や建築士審査会の同意等の手続きを得なくともでき、一級建築士事務所、二級建築士事務所および木造建築士事務所の監督処分については、それぞれ、同じである。

ところで、ここ数年、監督処分の内容で気付くのは、国、大阪府ともいくぶん共通していることであるが、――確認には、建築基準法第5条の2による工事監理者の選定届を出さないと確認が下りないため、その場しのぎの名儀貸しが多いことである。このこと事態が違反行為であるが、このような場合、後日、実態と異なる確認内容となることが多い。違反建築物となり、当該建築士はきつく処分されるのである。

工事監理

工事監理とは、工事が設計図書どおりに施工されているかを確認することである。

改正法では、工事監理を終了したときは、建築基準法施行規則第4号の2書式によるB4判の工事監理報告書を、検査済証の交付後に、建築主に提出する。その場合の記入事項および要点としては、

(1)工事監理報告書の各欄に記入する。
(2)工期変更、設計変更の内容を記述する。
(3)設計図書に定める試験方法による試験結果の内容および成績を記述する。
(4)施工段階について、現場で立ち会い、または工事記録写真等の資料を提出させ、確認した内容を記述する。
(5)工事期間中の未確認事項、指示事項の整理および工事完了時の形状、機能の検査結果等の概要を記述する。
(6)工事施工者に注意を与えた場合には、注意の概要、また、注意に対する対応等を記述する。
(7)建築設備に係る工事監理において、意見を聴いた建築設備の分野、名称等を記述する。
(8)備考欄には、工事監理に関して特記すべき事項、見解等を記述する。
(9)その他

なお、士法では、工事施工者と工事監理者とは同一人でもよいことになっているが、一般的には非常にクレームの発生が多いといわれている。

また昭和59年6月21日付け建設省住指発第214号による「建築基準法第7条の2に規定する建築物の建築の工事であることの確認について」の通知が出された。その概要は、法第7条の2の規定に基づき、法第6条の2第1項各号に掲げる建築物でその工事が建築士である工事監理者によって設計図書のとおりに実施されたことが、規則第4条の2の規定により規則第4条に定める工事完了届を審査し、必要に応じ法第12条第3項の規定による報告を求めることによって、確認されたものについては、検査の特例が認められることとなった。なお7月1日から、改正後の工事完了届の様式を全面的に使用することとなり、これに伴い工事完了届の裏面に工事の概況を記載させることとしたが、これは検査に際してその記載内容を参考とするためであるので、記載について適切を期するよう、建築主、建築士等に対し十分に指導されたい、というものである。

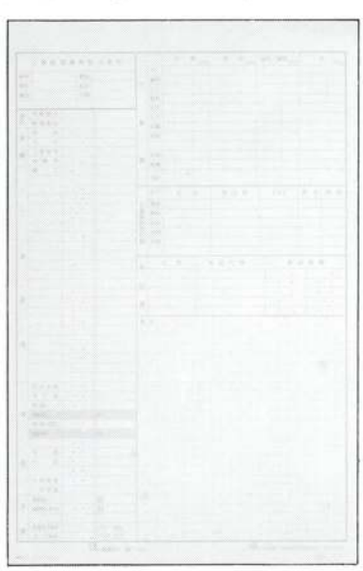
その他

(1)木造建築士の創設に伴う、各条文の改正。
(2)建築士受験手数料および建築士事務所登録手数料およびその納付方法の改正。
(3)その他

なお、大阪府では条例の改正もあわせて行われた。

（大阪府建築部建築振興課　三木俊介）





（参考）
士法第24条の2に該当する備付帳簿とし、㈳日本建建築士事務所協会連合会において「業務記録台帳」が作成された。

―60歳からは自分の人生―



大阪の守口駅前の都心に住む
◀京阪守口駅前再開発事業完成予想図

⊙募集概要
所在地／大阪府守口市河原町
交通／京阪電鉄守口市駅下車徒歩２分。地下鉄谷町線守口駅下車徒歩７分
建築面積／3,350㎡
建築構造／鉄骨鉄筋コンクリート造12階建（ゆうゆうの里は３階が共用施設、５～12階が専用住居）
総戸数／172戸
専用住居面積／29.3㎡～68.1㎡（12タイプ）
入居金(終身利用権)／1人入居1,680万円～3,403万円・２人入居2,469万円～4,192万円
管理費／４万７千円～７万５千円
共用施設／診療所、大食堂他
入居条件／60歳以上
開設／昭和60年10月(予定)
※食費､水道光熱費､冷暖房費など実費
入居／昭和60年10月(予定)

日本初の駅前高齢者コミュニティ――大阪〈ゆうゆうの里〉

日本最大規模を誇る高齢者コミュニティ―神戸〈ゆうゆうの里〉



⊙募集概要
所在地／神戸市北区鳴子３－２
交通／神戸電鉄栗生線西鈴蘭台駅下車徒歩10分
敷地面積／80,773㎡
建築構造／鉄筋コンクリート造５階建
総戸数／291戸(残戸数85戸)
専用住居面積／Ａタイプ32.2㎡、Ｅタイプ64.4㎡
入居金(終身利用権)／Ａタイプ（単身)1,443万円、Ｅタイプ(単身)2,336万円・(夫婦)3,054万円
管理費／３万５千円～５万６千円
共用施設／診療所、大食堂他
入居条件／60歳以上
開設／昭和58年９月
※食費・水道光熱費・冷暖房費など実費

◀神戸〈ゆうゆうの里〉全景
神戸の新興住宅地西鈴蘭台の緑に囲まれて

財団法人 日本老人福祉財団

●お問い合わせは　☎06(315)8231
〈ゆうゆうの里〉大阪事務所

大阪事務所　〒530 大阪市北区曽根崎2-15-24 曽根崎東ビル
☎ 06(315)8231(代表)
本　　部　〒104 東京都中央区銀座4-12-15 歌舞伎座ビル
☎ 03(542)3991(代表)

読者の頁

イギリスでの生活点描 6

西村 一朗

ラジオ——LBCニュース・レディオを聞き、ラジオを修理する——

私はラジオも良く聞き流していました。テレビと同様、ラジオもBBC中心ですが、チャンネルは4つもあって、それぞれ独特の違った味を出していました。Radio-1はNHK第一といったところですが、一つの番組の時間は長く、担当者が自由に料理している様でした。Radio-2は、軽音楽とスポーツで、このチャンネルは24時間放送の様でした。続いて、Radio-3は、クラシック音楽専門で一日中堪能出来ます。最後に、Radio-4は、NHKの第二に似て教育番組中心でOpen University（放送大学）も主にここで放送されます。

大陸も近いのでフランス語の放送も良く聞えました。私には「馬耳東風(?)」でしたが。民放も各地にある様です。しかし、新聞の放送欄に小さくしか載っていないので、結局あちこちダイヤルを回して探さねばなりませんでした。その中に、イギリスに行かれたら是非聞く事をお薦めする放送があります。それがLBCニュース・レディオなのです。

これは、文字通り一日24時間ニュースを中心に放送しています。6月(1983年)に総選挙がありましたが、選挙速報も詳しくしていました。この放送に、スタジオの司会者及び専門家と聴取者とを電話で結び、意見を聞いたり討論したりする番組がありました。これは、私が好んで聞いていたものの一つです。何故、好んでいたかと言うと、第一に、イギリス国民の生の意見を肉声で聞けるという事です。第二に、現代的トピックスに関し会話型・討論型の英語の勉強になるという事です。そして第三に、第二の延長ですが、特に平常聞き取りにくい電話での会話ヒヤリングの練習にもなるのです。帰国直前、6月9日の総選挙後のその番組は録音して、今も時々耳慣しに聞いています。そのテープでは、総選挙後のため「女性は指導者に適しているか」(サッチャー首相を念頭に置いている）という討論と、「高速道路での許容時速を70マイル(115キロ位)以上にするのは是か非か」という討論をしています。前者では、「サッチャーは例外」、「彼女は女性というより男性ホルモンが多過ぎるのでは」等という意見もあり、苦笑させられました。後者の問題は、当時改訂が議論になっていたのです。「ドイツのアウト・バーン（制限スピードなし）等と比べて見劣りするから上げていくべきだ」というものと、「今のまま上げると事故が増えるばかりだから、イギリス風現状でよい」とする意見が対立している様でした。

私は、夜、寝際に風呂（といってもシャワー）に入り、ベッドにもぐりこんで、この放送を聞きながら眠りにつくのが一つの楽しみでした。時々、朝までスイッチ入れっ放しで「Good Morning, Seven o'clock, Now the News, Headlines」という風な声で目覚める事もありました。この放送のお蔭で、大分耳慣しが出来、同時に皆が今何に関心を抱いているかも少しは理解出来た、と思っています。

ところで、このラジオ受信機は、カセットも使えるいわゆるラジカセだったが、ある時、机の上から床に落としてカセットの蓋がこわれ、テープがうまく入らなくなってしまいました。娘は「トップ・オブ・ザ・ポップス」を録音したがっていたし、私は、先のLBCニュースを録音したいと思ったので電気屋に出して修理してもらう事にしました。

このラジカセを買ったのは、「ブレント・クロス・ショッピング・センター」のDixonsでした。値段は25ポンド（約一万円当時）で、安かったのは、Made in「発展途上国」のためでした。



「ブレント・クロス・ショッピング・センター」内部、ホール。ドームの下に噴水のある「広場」がある。向うにDixonsの看板が見える。

修理にかなりの日数を要すると聞いていましたし、交渉する英語も大変と思いましたが、何せイギリス来たての故障でしたし、一年間の保証付の製品でもあったので修理に出したのでした。

交渉には妻があたり、まず家で一緒に英作文をし、保証書とラジカセを持ってDixonsに出掛けました。結果を聞くと案外簡単にO.K.となった様です。ただ、案の定、修理期間として4週間から6週間要すると言われた、との事です。

最近の日本でもこれ位のものの「修理需要」は減って、修理機構が弱まり案外日数を要する様ですが、4週間もかかるという事はない、と思います。この事で一遍に「イギリスは、能率のあまり良い国ではない。」との印象を持ってしまいました。「せっかち」の日本人のこと、きっちり4週間目に行ってみましたが、やはりダメで、結局6週間かかりました。その後は、又修理となると大変なので、床の上に置いて慎重に使いました。お蔭で以後は快調で、先述のLBCニュースを数本テープに取る事が出来ました。

帰国際に、逆に2年滞在予定で若手のO君家族がロンドンに来たので、彼にこのラジカセを譲って来ました。（電池だと日本でも使えるが、電源だと220Vで、日本で使用不能）今ごろ、はたしてうまく働いているだろうか、とふと気になる此の頃です。

（続く）

（にしむら いちろう／奈良女子大学助教授・住居学）

Edited by Peter Davalle

BBCラジオ番組例
(The Times, 1983. 7. 15)

Radio 4

6.00 News Briefing.
6.10 Farming Today. 6.25 Shipping.
6.30 Today, including 6.45 Prayer for the Day. 6.55, 7.55 Weather. 7.00, 8.00 Today's News. 7.25, 8.25 Sport. 7.30, 8.30 News Summary. 7.45 Thought for the Day. 8.35 Yesterday in Parliament. 8.50 Your Letters. 8.57 Weather; Travel.
9.00 News.
9.05 Desert Island Discs Julian Bream, the guitarist.†
10.00 News.
10.02 International Assignment.
10.30 Morning Story: 'Dusk and Mrs Packlelide's Tiger' by Saki.
10.45 Daily Service.†
11.00 News; Travel.
11.03 You the Jury. The motion: Free nursery school education should be available for all under-5s.
11.48 Natural Selection. The Trent Piranha and the Barbond Crocodile.
12.00 News.
12.02 You and Yours.
12.27 My Music. Quiz.† 12.55 Weather.
1.00 The World at One; News.
1.40 The Archers. 1.55 Shipping.
2.00 News.
2.02 Women's Hour from Bristol. Includes advice on wine buying; and an interview with Mrs Council Secretary General Luke Rittner.
3.00 News.
3.02 The King Must Die by Mary Renault. Episode 6 – The Anger of Poseidon.†
4.00 News.
4.02 Just After Four. Peter Aliss with golfing memories.
4.10 By Jupiter! Music, prose and poetry for St Swithin's Day.
4.40 Story Time: 'Judgement Day' by Penelope Lively (last of 10 parts).
5.00 News Magazine. 5.50 Shipping Forecast. 5.55 Weather.
6.00 The Six O'clock News.
6.30 Going Places.
7.00 News.
7.05 The Archers.
7.20 Pick of the week.†
8.10 The Week in Synod. A recon by Rosemary Hartnell from this week's C. of E. General Synod.
8.30 Any Questions? from Harwich, Essex.
9.15 Letter from America.
9.30 Kaleidoscope. Includes a preview of a BBC 2 season of Elizabeth Taylor films.
10.00 The World Tonight. News.
10.35 Week Ending. A satirical review.†
11.00 A Book at Bedtime. 'The Pavilion on the Links' by R. L. Stevenson.
11.15 The Financial World Tonight.
11.30 Alan Jones (a regular contributer to Women's Hour) in the BBC Sound Archives.
12.00 News; Weather.
12.15 Shipping Forecast; Inshore Forecast; England VHF with # above except: 6.25–6.30 am Weather; Travel 1.55–2.00 pm Listening Corner 5.50–5.55 PM (continued) 11.00–12.00 Study on 4.

Radio 3

6.55 Weather
7.00 News
7.05 Morning concert Sacchini (Overture 'La Contadina in corte) Albrechtsberger (concerto B flat for organ, strings) Rameau (suite 'Les Indes Galantes). Records.†
8.35 Morning Concert (continued) Wagner (Rienzi overture). Satie (Three Gymnopedies). Honegger. (cello concerto). Prokofiev. (Classical symphony). Records.†
9.00 News.
9.05 This Week's Composer Edmund Rubbra; records. Includes Symph No 10 and Mass (St Dominic) Op 66 (St Margaret's Westminster Singers).†
10.00 Martin Hughes Piano recital: Mozart (Rondo A Minor K511). Schubert (Sonata in A. D959).†
10.55 Music for Strings Northern Sinfonia of England. Stravinsky (concert in D). Walton. Bach. Grieg. The Walton is the Henry V film music; the Bach is the Cantata in D minor for 2 violins and orchestra..†
11.50 French songs Jean Rivier. Faure, Duilleux, Ravel. Recital by Brian Rayner Cook (baritone), with Keith Swallow (piano).†
12.30 Midday concert USSR Symphony Orchestra. Part 1: Lyadov. Tchaikovsky (Fantasy: Francesca de Rimini, Op 32).
1.00 News.
1.05 Six Continents.
1.20 Midday concert Part 2: Borodin (Symph No 1). Record.†
2.00 Northern Sinfonia of England Ensemble Chamber music: Cyril Rootham (soprano–first broadcast performance) Bax (piano). Howard Ferguson (octet).
3.00 The British Symphony Humphrey Searle (symphony no 2). Vaughan Williams (symphony no 6). Records.†
4.00 Choral evensong from Winchester Cathedral.†
4.55 News.
5.00 Mainly for Pleasure. A selection presented by Christopher Stone.
6.30 Music for Guitar Julian Bream – Albeniz, Turina, Granados, Berkeley (sonatina), Mompou (Suite compostellana). A celebration of Bream's 50th birthday.†
7.30 The art of our necessities. (See Choice).
8.00 The composer conducts. Alun Hoddinott directs the BBC Welsh SO in a programme of his own music. Includes his Concerto No 1 for piano, wind and percussion and his Night Music, Op 48?.
9.00 The Girl on the Hill. Music by Haydn (Arianna a Naxos) and Alexander Goehr (Das Gesetz der Quadrille first broadcast).†
9.45 The Mind of the Church of England. Discussion chaired by Michael Charlton (2) The Church and the Third World, with the Bishop of London, Rev Paul Burrough, Lord Coggan and Canon Peter Selby.
10.45 The English Madrigal. Francis Pilkington. The Consort of Musicke, Madrigal ensemble.

Medium frequency/medium wave as vhf above except: 10.55am–6.30pm Cricket: first Test.
VHF only – Open University: 6.15am to 6.35 and 11.40pm to 12.20.

Radio 2

News on the hour every hour (except 6.00pm and 9.00) Major Sulletins: 7.00am, 8.00, 1.00pm, 5.00 and 12.00 midnight (MF/MW). 5.00am Ray Moore†. 7.30 Terry Wogan†. 10.00 Jimmy Young†. 12.00pm Music While You Work†. 12.30 Gloria Hunniford including 2.02 Sports Desk. 2.30 Ed Stewart including 3.02 Sports Desk. 4.00 David Hamilton including 4.02, 5.30 Sports Desk. 6.00 John Dunn including 6.45 Sport and Classified Results. 7.28 Cricket Desk. 7.32 Barn Dance in the Radio 2 Ballroom.† 8.15 Friday Night is Music Night from Hippodrome, Golders Green.† 9.30 Ralph McTell and Friends† 9.57 Sports Desk. 10.00 Listen To Les. 10.30 Brian Matthew presents Round Midnight (stereo from midnight). 11.22 Athletic Desk. 1.00am Night Owls†. 2.00 Patrick Lunt presents You and the Night and the Music (cont on vhf)† 3.30–5.00 Test Match Special Wireless Fourth Test from Eden Park, Auklond – New Zealand v British Isles.

Radio 1

6.00am Adrian John. 7.00 Mike Smith. 9.00 Simon Bates. 11.30 Andy Peebles, including 12.30 News. 2.00 pm Gary Davies. 4.30 Peter Powell's Select-A-Disc. 5.30 Newsbeat. 5.45 Roundabout. 7.00 Andy Peebles direct from Silverstone on the eve of the British Grand Prix. Talkabout. 10.00 The Friday Rock Show.† 12.00 midnight Close

WORLD SERVICE

6.00 Newsdesk. 6.30 The Gentleman of the Chapel Royal. 7.00 World News. 7.08 Twenty-Four Hours. 7.45 Anthology. 8.00 World News. 8.09 Reflections. 8.15 World Today. 8.30 Thirty Minute Theatre. 9.00 World News. 9.09 Review of the British Press. 9.15 World Today. 9.30 Financial News. 9.40 Look Ahead. 9.45 Album Time. 10.15 Merchant Navy Programme. 10.30 World News. 11.09 News About Britain. 11.15 In the Meantime. 11.30 Over Newsdesk. 11.30 Mexican. 12.00 Radio Newsreel. 12.15 Jazz for the Asking. 12.45 Sports Roundup. 1.00 World News. 1.09 Twenty Four Hours. 1.30 Cricket. 1.45 Simenon's Maigret. 2.30 Cricket. 2.45 Letterbox. 3.00 Radio Newsreel. 3.15 Outlook. 4.00 World News. 4.09 Commentary. 4.15 Science in Action. 4.30 World News. 4.09 Twenty-Four Hours. 5.30 Thirty Minute Theatre. 5.00 Network UK. 5.15 Music Now. 5.45 Letter from Everywhere. 10.00 World News. 10.09 World Today. 10.09 World Today. 10.25 Book Choice. 10.30 Financial News. 10.40 Reflections. 10.45 Sports Roundup. 11.00 World News. 11.09 Commentary. 11.15 From the Weeklies. 11.30 Surviving Nuclear Attack. 12.00 World News. 12.09 News about Britain. 12.15 Radio Newsreel. 12.30 About Britain. 12.45 Sean and Company. 1.15 Outlook. 1.45 The Towers of Trebizond. 2.00 World News. 2.09 Review of the British Press. 2.15 Network UK. 2.30 People and Politics. 3.00 World News. 3.09 News about Britain. 3.15 World Today. 3.30 Summer Excursions. 4.45 Financial News. 4.55 Reflections. 5.00 World News. 5.09 Review of the British Press. 5.15 About Britain. 5.45 World Today

All times in GMT

あなたの「声」をお寄せください

○内容は、建築・しごとのこと、近況、「建築と社会」へのご意見・要望など何でも結構です。
○原稿は500～2000字程度でお願いします（ハガキ使用可）。原則として原稿は返却いたしません。掲載分には謝礼をさしあげます。
○氏名、住所、職業・会社、年齢を明記して、（社）日本建築協会編集部宛（〒530 大阪市北区梅田1－1－3－2100大阪駅前第3ビル21階）お送りください。

函館市庁舎(函館市)●設計／㈱日建設計●施工／鹿島建設㈱ ㈱大林組 ㈱高木組・共同企業体



空気のブリッジで、ヒートブリッジを断つ！

厳冬の函館で実証された、優れた省エネ性と結露防止性能……

●函館市庁舎の建設にあたって、開口部に与えられた「過去の最低気温－13℃、室内温度22℃、湿度50%の状態でサッシの枠廻りに結露が発生しない」という設計仕様――この厳しい条件に、当社の断熱サッシはみごとに応えました。

●西ドイツHUECK社との技術提携によるブリッジ方式を採用。断熱形材を二重に使用し、その間に空気層を設けることによって、複層ガラス(5－6－5)に匹敵する断熱性を発揮することに成功しました。

●冬・夏期の冷暖房エネルギーの節約と結露防止、さらに採光・通風という窓本来の機能を充分満足させるヘビーデューティな高性能サッシの登場で、建物の断熱設計に新しいページが開かれます。



高性能断熱サッシ(K＝3.2Kcal/m²・h・℃以下)

3A100-SAT断熱・3A70N断熱

きびしく選べば

三協アルミ

㈱三協アルミニウム工業株式会社　〒933 富山県高岡市早川70 ☎(0766)22－5030

吉村篤一（よしむらとくいち）

建築環境研究所

聞き手・編集委員　本多友常（竹中工務店）
プロフィール撮影　島　修一（STUDIO A・T）



略歴

生年月日	昭和15年3月27日生(44歳)
出身地	京都市
最終学歴	京都工芸繊維大学建築学科 昭和38年卒業
職場	建築環境研究所代表
事務所所在地	〒541 大阪市東区伏見町2-22青山ビル
教職	関西女子美術短期大学講師
おもな受賞	新住宅社賞（下京の町家・1982）
代表作品	大山崎の家（京都府）大龍堂書店（京都市）新田辺の家（京都府）七本松通の家（京都府）
好きな空間	年輪が感じられる都市空間あるいは建築群



大龍堂書店



大山崎の家

京都の風土の中で

「建築は、そこにたずさわった人々みんなが、これは、自分のやった仕事だと、胸をはれるようでなければいけない」と語る。「だから、自分のデザインを無理やり依頼主や職人さんに押しつけるようなことはできないし、それに建築のデザインにとって、これしかないというものはありえない」ともいう。もし現場で大工さんが、これはむずかしいといえば、けっして無理することなく、大工さんの問題を自分のものとしてとらえ、その場その場で、設計意図を変えない範囲で最善の方法を見つけ出すことが大切なことだと考えている。そのために、現場での打合せや、考えたりする時間には、おしみなく時間をあてることにしているのだそうだ。こうして「よい建築をつくることによってわずかでも生活環境の悪化をくいとめてゆこう」と願いつづけて造りつづけてきた。だから、建築を個人的な理論構築の場としたり、思弁的展開の道具にしたりということはなく、ひたすら〝良い建築〟となるように導びいていくのが設計者の役割りと考えている。「依頼主の要望にはさからわない。素直に作る。希望はほとんど実現させる」。例えば「コンクリートの打放しがよいと思っても、無理やりにそうさせるのではなくて、予算的に足りないという理由などで結果としてそうなっただけ」などと、ユーモアをこめて、設計における抱擁力を説いてくれる。〝建物は施主が半分はつくる〟ともいう。さらに〝流れに〟さかわらない思想が大切とも語る。「形はいろいろなものができるからあまりこだわらない」。

それでも坂倉事務所を独立して以来の一連の作品をみると。あうようで、暖かみのある個性が浮び上がり、一貫した流れのようなものが感じられる。これに対しても「よく人からそういわれるが、自分としては格別意識はしていない。皆がそういうからそうなんでしょう」とあくまで自然流。

坂倉事務所には12年在席。「5年もいたら、そこの手法が身につく」。したがって事務所での設計の進め方は坂倉の手法を踏襲している。「担当者が〝みずからの仕事〟と自覚することが何よりも大切」「お手伝いという意識ではなく、あくまで個人が責任をもつという形で仕事を進める」という。「どのようにしたら良いかを聞かれた時にだけ、こうしたら良いと答えることにしている」と仕事の進め方についても、これまた自然流をつらぬいている。坂倉事務所では先輩に太田隆信、山崎泰孝、東孝光らがいて、また下からのつきあげもあったという。しかし今日、建築を造るよりどころを次のように考えているという。「建築は設計者自身の姿をあらわすもの。自然に人柄があらわれる。自分がそこに立っていると思えば、恥かしいものは建てられぬ」。「そうした意識で建てられた建物がたち並んでいけば、街は自然とよくなる」。また「建物は風土を反映するもの」との確証をもっている。「建築は土に根ざすもの。どこでも何んでもできるという傾向はよくない」「したがって外国のものに影響されることもない。京都の風土の中で、素直に建築する」と、あくまで自然。風土、人間関係などにおいて柔軟なる姿勢をもち続けることをモットーとしている。

祖父は現在でいう室内装飾業を生業とし、父親は東京高等工芸出身の家具デザイナー。小さい頃から製図板や三角定規の中で育った。京都で生まれ、京都で育った、この建築家が今、京都の有志とともに「京都建築フォーラム」という会を主催し、活動を開始している。建築を通じて京都を考えていこうとのメッセージを送りはじめているのである。

建築関係専門書店の大龍堂を拠点にしたこの小さな建築の活動を、小さなグループの活動だけに終らないように賛同の意をもって見まもっていきたいものである。　〔次号の登場者は藤縄正俊氏(大林組)〕

しなやかな対応、したたかな耐力

—吉村篤一氏の一連の住宅作品に寄せて—

加藤　力

坂倉建築研究所を独立したのは昭和50年のことである。これ以後、吉村篤一の手がけた仕事の多くは、いわゆる庶民の小住宅である。立地は京の町屋が小さく建て混んだ所か、新興の住宅分譲地の一隅。敷地もわずかで、規模も小さい。工事費もそう多くが費やされたものはない。むしろローコスト住宅の部類が多い。普通の人間が、普通の生活とそれにふさわしい住まいとを手に入れる。ただそれだけのことであるが、手に入れるに当っては、他人では押しはかれぬ思惑、迷い、葛藤、期待、観念、興奮、失意、苦悩、駈引、試練……個人のさまざまな小歴史を背負って手に入れられた。平凡がゆえの、小さいがゆえの悩みや期待をもって造りあげられた住宅である。

作品と言ってしまえば作品であるが、住み手にとっては、ごく日常の生を営む棲み家でもある。生活の弾力を吸収すべき器の一つでもある。そういった小住宅に吉村篤一の技量、躍如たるところがある。

いずれも目立つ建物ではない。通りすがりにフッと目にし、そのまま通りすごせばやりすごせる。専門家であれば、しかし心の隅でどこか気になる。ひっかかるものがある。後に話題でもあがれば、〝ああアレが〟と合点がいく。あるいは引き返えし、しばし目を留める。見やっていくうちに、やがてしみじみとした感慨を胸の内に収めて納得する。誠実でおおらかな造りの中に、成り立ちの違いを見せつけられて、万一批判でもすれば、こちらの胸の内をすっかりと見透されて、逆に批判する者が批判の側にさらされる。一歩さがって、奥まったところでじっと耐えているような建物である。

一つ一つの印象はむしろ浅い。街の雑踏の中で、すぐにでも消え逝ってしまうような小ささである。小さいのだから外に向っては、もう少し主張しても良いと思わせる。が、格別に個を主張したところもない。控え目である。堅実さが滲みでている。京都の、あるいはその土地の空気の流れを機敏に感じとって、自ずからをたしなめている風がある。周辺から浮き立つことを、飛躍することを、一途に律しているところがある。妙なデザイン心をちらつかせて、小手先の器用さだけで土地に切り込んでいく、そこだけが浮わつくことを承知で、いささか訳ありの顔をした住宅とは本質を異にする。自ずからを押し留めている建物である。むろん、押しつけがましさなど少しも見せず。誠実にそれぞれ固有の要求に答えている。土地の求めるもの、人の欲するもの、時代の流れに応じて、素直というべきか。

表情をとってみても一つ一つが異なっている。形も違えば素材も異なる。特別の、あらかじめ用意された型をおし進めているわけでもない。しかし、型が全くないといえばウソになる。一連の住宅を見通した時に、はじめて浮き出てくるものがある。通じて見ていくうちに次第に印象の中に沈澱してくるものがある。まぎれもなくそれは吉村篤一の視線と意識と手のうごきの中に生きている。一つ一つの住宅からは読みとれぬ、相互に連結した姿勢とでもいうべきものである。

住まいは住み手の生活と意識とをうつし出す。一方それと同程度の力で造り手の足跡や姿勢をもきざみ込む。建物にあらわれる住み手の姿がうすければうすいだけ、その分造り手の姿も浮き出てはこない。見えてはこまい。住まいは住み手と造り手の双方の姿を反映させるものである。現在大阪でこそ事務所をかまえているものの、吉村篤一は京都で生まれ、京都で育った京都の建築家である。京都の街の臭いと本性とがしみついて見える。一連の作品の中から見て取れるもの、それは京の街から派生した尺度と比例か？「京都の町屋の格子など実測したこともない」というが、それならば無意識に街の中から体得し、昇華されたスケールと形であろう。詳細から全体を構成するものの中まで、長い年月かかって築きあげられた街の旋律と同じ調子がみてとれる。埋没もせずに、目立たずに、主張もせずに存在を示す。周辺の環境との微妙な関係を保っているのもこの点である。

もう一つは皮膚感触とでも呼ぶべきものか？人の身体とそれを包み込む建物の内の表層と、その間に内在する空気とが同じ質の繋がりをもっている。人との関連を断ち切るような突ばねた扱いはどこにもない。建物の内にあって素材はあくまで穏やかで、あたたかい。生物としての人がホッとなじむような温和な皮膜に覆われている。やわらかな膚でつつまれている。清潔で健康な内部の膚である。住み手の感触のおよぶところすべてにわたって、血の通い合える材料が用いられている。人に対して誠実というべきか、これもまた京都の古い街の成り立ちの中から学び身につけた感覚かも知れぬ。都市に建つ住宅にはどこか生物のにおいに欠ける面をもつ。人が生物として住まっていくには、生物の香が必要である。せめて内にだけでも感触のなじみが求められる。吉村篤一の住宅にはいずれもその内側に本質を秘そめている。内に入って光も感触も空気も軟化するようなおおらかな素材のあたたかみがある。

さらにもう一点、一連の住宅には耐える部分がうかがえる。一歩前進し、半歩ゆずる。あるいは半歩を預けて一歩を踏み込む。住み手とのあるいは既存の街との微妙なやりとりの中で、決して後退することのない歩みをみせる。しかし３歩は踏み出すまいとする、ひたすら自己をおし留めつつ、じわりじわりとくい込んでいく耐力がある。日常の京都の街の中には無言のうちの抗力がある。人と街とが積年、築き耐えてきた抗力である。したたかな庶民の力である。京都で建築をするにはこのしたたかな抗力を上回るだけの耐力がいる。しなやかな、柔軟な耐力が必要である。抗力に耐えるだけの精神の力である。一連の仕事の中には多くの改装が含まれている。見える部分をそのまま維持し、内の機能を変えていく。地味で目立たぬ作業である。ムダや労苦の多い仕事でもある。しかし人の生命と生活が連鎖する限り、住まいや環境は連続する。一切、御破算、反古として無から始めることなど不可能である。生活と意識が連綿として生きる街の中で建築を造るには柔軟な対応としたたかな耐力がいる。

一つ一つの作品を訪ね歩くうちに、この古い街の中で建築することの難かしさを、つくづくと思い知った。

（かとう　つとむ　京都工芸繊維大学・住環境学科　講師）



七本松通の家



新田辺の家

受託試験における骨材の品質試験に関する調査結果

1．集計対象

集計の対象とした骨材は、当試験所で昨年度（昭和58年４月～昭和59年３月）の一年間に受託した細骨材、粗骨材で、そのうち普通骨材のみとした。試験項目は、(1)洗い損失量、(2)粘土塊量、(3)塩分量、(4)粗粒率（粗骨材は最大寸法20㎜のみ）、(5)単位容積重量、(6)絶乾比重、(7)吸水率の７項目で、試験方法はＪＩＳまたはＪＡＳＳ ５によった。

2．集計方法および集計結果

上記の各試験の結果を、骨材の種類および産地別にデータ個数（試験件数）：n，平均値：$\bar{x}$，最大値：$x\max.$および最小値：$x\min.$を求め、**表－１．１**および**１．２**に示す。

3．まとめ

(1) 細骨材の品質　海砂でもっとも問題とされている塩分量では、約94％の試料がＪＡＳＳ ５のＩ級の規定値（0.04％以下）を、約99％の試料がII級の規定値（0.1％以下）を満足している。粘土塊量については、海砂では約94％の試料がＪＡＳＳ ５のＩ・II級の規定値（1.0％以下）を満足し、山砂では約98％の試料がＩ・II級の規定値を満足している。しかしながら現行の試験方法では、貝殻に付着している細砂、骨材に付着している微粉末などを含めて粘土塊量の試験結果としてしまう問題点を含んでいる。

洗い損失量については、海砂では約89％の試料がＩ級（2.0％以下）を、約98％の試験料がII級（3.0％以下）を満足し、泥分量が問題になる山砂では、平均値で海砂の２倍強と大きな値を示しており、約45％の試料がＩ級を、約７％がII級の規定値を超えている。絶乾比重については、海砂ではＪＡＳＳ ５Ｉ・II級（2.5以上）を下廻るものは８試料（63試料中）、山砂では９試料（49試料中）がＩ・II級を下廻っている。吸水率については、海砂では全試料がＪＡＳＳ ５Ｉ級（3.0％以下）を満足し、山砂では48試料（49試料中）がＩ級を満足している。

(2) 粗骨材の品質　粗骨材の大半を占める砕石について述べる。粘土塊量については、約92％の試料がＪＡＳＳ ５Ｉ・II級の規定値（0.25％以下）を満足している。しかしながら、砕石においても、骨材に付着している石粉や泥分が含まれており、ＪＩＳでいう粘土塊量はきわめて少ない。洗い損失量については、Ｉ・II級（1.0％以下）を超えるものが全体の約３％で、それ以外は満足している。絶乾比重については、すべてＩ級（2.5以上）を満足している。吸水率については、II級（3.0以下）を満足するものは全試料（86試料）で、残り85試料はＩ級（2.0％以下）を満足している。

なお、詳細は当試験所機関誌「ＧＢＲＣ」**35号**を参照されたい。

（堺分室　行貝光史）

表－１．１　細骨材の集計結果

（n：データ個数、$\bar{x}$：平均値、$x\min.$：最小値、$x\max.$：最大値）

種類および産地		洗い損失量（％）				粘土塊量（％）				塩分量（％）				ふるい分け（F.M.）				単位容積質量（kg/ℓ）				絶乾比重				吸水率（％）			
		n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max$
海砂	室木	36	0.92	0.18	3.88	583	0.30	0.01	1.87	912	0.015	0.001	0.218	10	2.68	2.39	2.86	16	1.59	1.54	1.64	221	2.52	2.48	2.54	21	1.99	1.74	2.45
	日比	8	0.66	0.33	1.58	216	0.30	0.05	1.46	354	0.013	0.001	0.074	3	2.59	2.54	2.68	0	——	——	——	3	2.55	2.51	2.58	3	1.88	1.76	1.98
	大槌島	3	0.54	0.35	0.80	80	0.33	0.03	5.58	148	0.019	0.001	0.114	2	2.61	2.30	2.61	2	1.52	1.43	1.61	6	2.51	2.49	2.52	6	2.22	1.84	2.77
	豊島	1	0.34	——	——	113	0.27	0.02	2.73	159	0.019	0.001	0.167	1	2.85	——	——	0	——	——	——	5	2.51	2.50	2.54	5	2.12	2.02	2.22
	その他	18	0.77	0.19	2.24	646	0.35	0.04	3.91	996	0.014	0.001	0.287	25	2.78	2.16	3.77	17	1.56	1.40	1.73	28	2.52	2.48	2.57	28	1.93	1.12	2.44
	合計	66	0.85	0.18	3.88	1,638	0.32	0.01	5.58	2,569	0.015	0.001	0.287	41	2.74	2.16	3.77	35	1.57	1.40	1.73	63	2.52	2.48	2.58	63	1.99	1.12	2.77
山砂	城陽	172	1.87	0.33	3.77	896	0.45	0.03	1.90	798	0.001	0.001	0.006	26	2.80	2.52	3.11	15	1.62	1.58	1.66	22	2.53	2.47	2.60	22	1.69	1.02	2.10
	枚方	6	1.52	0.70	3.26	78	0.31	0.14	0.64	84	0.001	0.001	0.002	1	2.72	——	——	1	1.60	1.60	1.60	5	2.55	2.55	2.56	5	1.32	1.08	1.53
	その他	27	1.37	0.57	7.91	126	0.39	0.08	1.90	104	0.001	0.001	0.005	13	2.84	2.60	3.15	5	1.66	1.56	1.73	22	2.52	2.42	2.62	22	1.75	0.85	3.83
	合計	205	1.79	0.33	7.91	1,100	0.43	0.03	1.90	986	0.001	0.001	0.006	40	2.75	2.52	3.15	21	1.63	1.56	1.73	49	2.53	2.42	2.62	49	1.68	0.85	3.83
混合砂	城陽＋室水	16	0.67	0.09	2.32	321	0.39	0.04	4.05	362	0.008	0.001	0.387	0	——	——	——	0	——	——	——	0	——	——	——	0	——	——	——
	城陽＋日比	0	——	——	——	47	0.14	0.07	0.28	51	0.002	0.001	0.033	0	——	——	——	0	——	——	——	0	——	——	——	0	——	——	——
	その他	24	1.09	0.05	3.16	431	0.31	0.02	2.07	551	0.010	0.001	0.081	8	2.81	2.64	2.94	1	1.57	——	——	2	2.55	2.52	2.57	2	2.17	2.12	2.21
	合計	40	0.94	0.05	3.16	799	0.33	0.02	4.05	964	0.009	0.001	0.387	8	2.81	2.64	2.94	1	1.57	——	——	2	2.55	2.52	2.57	2	2.17	2.12	2.21
川砂		16	1.78	0.18	3.51	41	0.55	0.01	1.42	68	0.002	0.001	0.022	19	2.75	1.68	3.07	9	1.60	1.48	1.69	9	2.56	2.54	2.60	9	1.54	1.32	1.92
その他[1]		21	4.99	0.91	7.96	21	1.29	0.14	3.93	22	0.001	0.001	0.002	20	2.72	1.32	3.47	17	1.62	1.51	1.74	17	2.56	2.48	2.82	17	2.02	0.37	3.25
総合計		348	1.72	0.05	7.96	3,599	0.36	0.01	5.58	4,609	0.010	0.001	0.887	128	2.75	1.32	3.77	83	1.60	1.40	1.74	140	2.53	2.42	2.82	140	1.85	0.37	3.83

注１）砕砂、陸砂、湖砂等

表－１．２　粗骨材の集計結果

（n：データ個数、$\bar{x}$：平均値、$x\min.$：最小値、$x\max.$：最大値）

種類および産地		洗い損失量（％）				粘土塊量（％）				ふるい分け（F.M.）[4]				単位容積質量（kg/ℓ）				絶乾比重				吸水率（％）			
		n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$	n	$\bar{x}$	$x\min.$	$x\max.$
砂	高槻	47	0.24	0.04	2.92	520	0.13	0.00	0.78	2	6.78	6.69	6.87	3	1.57	1.46	1.64	6	2.68	2.66	2.70	6	0.73	0.57	1.04
	茨木	7	0.57	0.10	2.02	340	0.12	0.01	0.85	8	6.67	6.43	6.83	5	1.59	1.47	1.68	17	2.66	2.57	2.71	17	1.03	0.54	1.48
	赤穂	15	0.14	0.04	0.42	261	0.09	0.01	0.55	3	6.66	6.58	6.83	6	1.60	1.58	1.63	7	2.61	2.58	2.62	7	0.55	0.38	0.77
	和泉山系[1]	20	0.46	0.12	1.49	473	0.15	0.00	1.74	17	6.69	6.48	6.88	12	1.54	1.50	1.58	18	2.57	2.53	2.62	18	1.73	1.36	2.16
	家島諸島[2]	3	0.30	0.07	0.42	285	0.12	0.00	0.92	4	6.69	6.54	6.87	3	1.57	1.53	1.60	3	2.62	2.59	2.64	3	0.76	0.58	0.95
	長尾山	2	0.57	0.54	3.60	148	0.11	0.02	0.55	2	6.60	6.57	6.64	2	1.63	1.61	1.64	3	2.68	2.68	2.69	3	1.16	0.88	1.40
石	その他	57	0.26	0.04	1.71	420	0.16	0.01	0.96	9	6.66	6.43	6.91	21	1.60	1.51	1.72	32	2.65	2.57	2.90	32	0.94	0.42	1.94
	合計	151	0.33	0.04	3.60	2447	0.13	0.00	1.74	45	6.68	6.43	6.91	52	1.58	1.46	1.72	86	2.63	2.53	2.90	86	1.08	0.38	2.16
山砂利合計		11	0.18	0.04	0.28	56	0.11	0.01	0.47	0	—	—	—	4	1.66	1.62	1.70	3	2.58	2.55	2.60	3	1.06	0.52	1.46
川砂利合計		5	0.17	0.07	0.35	27	0.09	0.00	0.21	1	6.82	—	—	6	1.59	1.48	1.63	3	2.65	2.63	2.68	3	0.86	0.81	0.95
その他[3]		10	0.26	0.10	0.39	26	0.23	0.03	2.31	0	—	—	—	8	1.63	1.59	1.80	8	2.61	2.59	2.63	8	0.85	0.63	0.98
総合計		177	0.31	0.04	3.60	2556	0.13	0.00	2.31	46	6.68	6.43	6.91	70	1.59	1.46	1.80	100	2.63	2.53	2.90	100	1.05	0.38	2.16

注1）山中渓、打田、信達等。
2）家島、西島、男鹿島等。
3）混合砂利、スラグ骨材等。
4）骨材の最大寸法20㎜のみ。

本試験所●所 在 地……〒565 吹田市藤白台5－125（阪急北千里駅より北西約１㎞、国立循環器病センター西隣）
●電　　話……(06) 872－0391(代)
●営業時間……平日：午前９時～午後５時、土曜日：午前９時～正午

うまれ変わる街（その2）
―まちなか・まちづくりの大規模実例―

山根勝利／千葉桂司

前回では「小さなまちづくり」から「大規模なまちづくり」まで、これまで公団が取り組んできた「まちなか・まちづくり」の一端をお話ししたわけですが、流れをもう一度整理してみると、つぎのようになろうかと思います。

①単一開発から複合開発へ――→②上もの（建物）建設から、上ものと下もの（都市基盤施設）との一体的整備へ――→③住宅フローの供給主体から、ストック改善を含んだ住宅と環境のセット整備へ――→④全面改造・建設型（スクラップアンドビルド）事業から、修復・共存型（リハビリテーション）事業へ

それぞれの事業がそれぞれの時代に役割を担い、併存しつつまちづくりに貢献してきたといえるでしょう。

それでは、公団の都市再開発部門が、現在どんな「まちなか・まちづくり」事業に具体に取り組んでいるのかについて、実例を中心にお話しを進めてみたいと思います。

大規模なまちづくりの展開

まず、大都市の中心的な市街地にあって、大規模なまちづくりを行う主要な三つの事業、①特定住宅市街地総合整備促進事業、②法定都市再開発事業、③特定再開発事業、について述べてみましょう。ただ大規模な開発、まちづくりとはいえ、以前のような全面改造型とは、随分その内容が変わっている点に注意する必要があるでしょう。

1. 住建モデル事業（略称）によるまちづくり

54年に発足した特定住宅市街地総合整備促進事業（略称 住建モデル事業）制度は、それまでの「まちなか・まちづくり」にとって画期的な手法となり、総合的なまちづくりの展開を可能としました。どんな点が従来の大規模開発と異なっているかと言いますと、

①指定された地区全域をスクラップアンドビルドするのではなく、事業化の可能な部分のみで事業を行うこと

②住宅・施設建設と都市基盤施設（街路、公園、下水等）の整備を一体的・総合的に行うこと、しかも両者が補助対象となること

③一つの事業手法だけでなく、他の手法（たとえば、住宅地区改良事業、住環境整備モデル事業、都市防災不燃化促進事業等々）と合併できること

④大規模な空地（3 ha以上）を種地にして、整備事業を展開でき、転居者のための受け皿住宅が建設できること

などです。この制度では、首都圏、近畿圏の各都市等にあって、地方公共団体と共同して、主に工場等の集積した約25ha以上の地区で、3 ha以上の種地を活用して、周辺民地を含めたまちづくりを行うものです。全国で6地区が事業実施中（**表－1**）で、関西では、淀川リバーサイド、高見、桜之宮中野の3地区で事業が進んでいます。

(1)淀川リバーサイドタウン　当事業の第一号地区です。地区一帯は住工混在密集地区で、戦前長屋も多く、市の総合計画でも、良好な中高層住宅地への再開発地区として位置付けられていたところです。ここでの事業の特長は、

㈠都市計画道路、公園、下水等の整備

㈡住宅地区改良事業の合併施行（現況約3.6ha・482戸――→改良住宅450戸建設）

㈢高層化により防災避難拠点としてのオープンスペースの確保

㈣従前居住者対策として、公団による低家賃の受け皿賃貸住宅の建設（108戸）

㈤市、公団、公社により1DKから5LDKまで多様な住宅の供給

表－1　特定住宅市街地総合整備促進事業・実施地区概要

地区名	木場地区	神宮東地区	淀川リバーサイド地区	大川端地区	高見地区	桜之宮中野地区
所在地	東京都江東区	名古屋市熱田区	大阪市大淀区	東京都中央区	大阪市此花区	大阪市都島区
面積	77.1ha	52.6	35.6	27.0	51.0	28.0
住宅建設	約3,000戸 住宅・都市整備公団 都住宅供給公社 他	約2,400戸 住宅・都市整備公団 他	約3,200戸 大阪市 住宅・都市整備公団 市住宅供給公社	約2,100戸 東京都 住宅・都市整備公団 都住宅供給公社 他	約3,400戸 大阪市 住宅・都市整備公団 市住宅供給公社	約1,500戸 大阪市 住宅・都市整備公団 他
公共公益施設整備	都計街路 河川 その他(小学校等)	都計街路 公園 河川 その他(小学校)	都計街路 公園 下水道 その他(中学校等)	都計街路 公園 河川 文化施設	都計街路 公園 下水道 その他(小学校等)	都計街路 公園 その他
関連事業	都市防災不燃化促進事業	同左	住宅地区改良事業	－	未定	未定
総事業費	約 1,650億円	約 1,080億円	約 1,300億円	約 1,750億円 (除文化施設)	未定	未定
整備計画承認	55年6 月3 日	54年12月21日	同左	57年2 月25日	59年度(予定)	59年度(予定)



写真－1　淀川リバーサイドタウン(手前)と桜之宮中野地区(左上)



写真－2　高見地区現況

住宅・都市整備分団協力業者(PR)

建設は未来へおくるメッセージ――

大林組

東京本社 〒101　東京都千代田区神田司町2－3　電話　03-292-1111
本　店 〒540　大阪市東区京橋3－37　電話　06-943-1131

株式会社 熊谷組 大阪支店

専務取締役大阪支店長　星野晴彦

大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号
電話　06-352-1151(大代表)

等々であり、58年度末現在で1,380戸が建設済みで、残り約半分の事業化に向けて着々と作業は進んでいます。（**写真－1**）

(2)高見地区　当地区は大阪駅を中心にしてちょうど淀川リバーサイド地区と反対側3.5kmに位置し、広域避難地として指定されています。すでに公団が取得した10haの用地を中心に、民地整備を含め中高層住宅約3,400戸による計画的なまちづくりが、大阪市と共同でスタートすることになります。59年度に必要な都市計画の決定と、整備計画の承認をとる予定です。（**写真－2**）

(3)桜之宮中野地区　関西での積極的な当該事業の展開が認められ、大阪市内で早くも三つめの地区が採択されました。国鉄淀川貨物駅の廃止に伴い、隣接した市有地を含んだ広い地区で、環状線桜之宮駅に近接した交通至便の地区です。ちょうど淀川リバーサイドタウンの斜め対岸にあたり、大川（旧淀川）をはさむ両岸は、新しい都心住宅地として生まれ変わろうとしています。

2.　市街地再開発事業（法定）によるまちづくり

公団の再開発事業には二つのタイプがあります。一つは、住宅の建設にあわせた地区の再開発です。もう一つは「特定再開発」と呼ばれる副都心づくりのための再開発で、商業・業務施設の整備が中心となるものです。

現在施行中の地区は駅前シリーズの再開発が多いわけですが、その中でも、従来の事業内容に無い色々な工夫をしながら事業を進めています。たとえば、つぎのような具合です。

①組合施行再開発の一部を引き受ける建設代行方式（ＣＡＲ方式）の開発（後述）
②公共団体施行再開発への公団参画方式の開発
③組合事務局等への公団職員派遣による事業の促進
④法定再開発、任意の再開発（共同化等）、いずれにも対応しうる多様な事業手法の用意

(1)住宅系再開発によるまちづくり　住宅を中心とした公団の再開発事業には、「直接施行方式」と「参加組合員方式」とがあります。公団が直接施行者となる前者は現在全国9地区で実施中で、関西では**逆瀬川駅前東地区**（**写真－3**）の事業がこれに当たります。また、組合施行などに権利者として参加し住宅を取得する後者の方式では現在11地区で事業中です。関西では**上六ハイハイタウン**（昭和52年度）で事業が完了しているほか、実施中の主な地区は**表－2**のとおりです。

ところで、この組合等への参加方式でも、前述のように従来と異なった方法を採り入れ、公団の事業範囲の拡大が期待されています。

その一つは、組合施行の再開発事業の中で組合からの要請によって建設工事を公団の住宅建設工事として代行する方式を編み出した点です。これはＣＡＲ方式（Construction Agency of Renewal）と呼ばれ、一般組合による不馴れな事業の一部と資金調達を公団で代行するもので、**川西能勢口駅前地区**（**写真－4**）が第一号となり、新聞でも「駅前再開発引き受けます！」というタイトルで注目を集めました。これにより、再開発事業に不安の多い組合は、公団を技術的・資金的・人的なパートナーとして、安心して事業を進めることが可能となり、組合施行の新しい道を開いたわけです。（本誌1984・5月号P41参照）

もう一つは、従来参加が困難とされていた公共団体施行の再開発事業にも、参加組合員方式に準じた形での事業参画できる道を開いた点です。この結果、現在多くの公共団体から協力要請を受けるに至っています。

こうした公団の再開発事業の動きに対して、信頼できる事業パートナーとして、今まで以上に企画の段階からも多くの協力要請を受け、すでに数地区で事業化段階に入っています。

(2)特定再開発によるまちづくり　「特定再開発」という耳馴れない言葉は、新公団になった56年に生まれたものです。公団は従来の住宅系の再開発や土地区画整理事業のほかに、都心部において土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新とを目的として、商業・業務施設を中心とした再開発事業または土地区画整理事業を施行できることとなりました。これを総称して特定再開発と呼んでいます。ここに公団は非住宅系の都市整備事業も可能となったわけです。

関西ではまだ具体の事業地区はありませんが、現在関東の3地区（立川基地跡地関連地区、横浜都心臨海地区、西新宿六丁目東地区）で事業中です。

表－2　法定再開発事業・実施地区概要（関西支社）

地区名		上六地区（上六ハイハイタウン）	寝屋川市駅前地区	池田駅北地区	逆瀬川駅前東地区	川西能勢口駅前地区
所在地		大阪市天王寺区	寝屋川市	池田市	宝塚市	川西市
面積		0.9ha	2.1	1.3	0.7	0.6
施行者等		第一種再開発事業 組合施行 公団参加組合員	同左 市施行 公団参画	同左 市施行 公団参画	同左 公団施行	同左 組合施行 公団参加組合員 建設代行
権利者数（含借家人）		約180名	約110名	約 80名	約 90名	約100名
従前	容積率	159%	109%	49%	117%	68%
	棟数	150棟	57棟	51棟	55棟	81棟
従後	容積率	795%	651%	463%	394%	344%
	施設延面積	約42,000㎡	約35,300㎡	約 7,200㎡	約14,000㎡	約 5,700㎡
住宅建設戸数（　）公団住宅		287(287)戸	80(80)戸	64(52)戸	66(45)戸	126(24)戸
事業計画認可		52年2月(完了)	55年2月	57年3月	57年2月	55年3月



写真－3　逆瀬川駅前東地区完成予想図

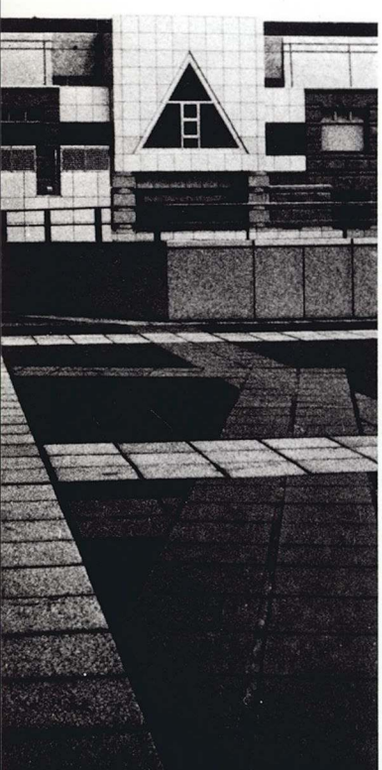


写真－4　川西能勢口駅前地区完成予想図

フジタ工業株式会社
取締役社長 藤田一暁
専務取締役大阪支店長 志賀修一
大阪支店　〒530　大阪市北区西天満2丁目9番8号
電話　06-361-1133

三井建設株式会社 大阪支店
取締役支店長 高尾清次
大阪支店　〒530　大阪市北区中之島3丁目4番18号　三井ビル2号館
電話　06-446-1535

けんちくの眼



金多　潔（かねた きよし）
京都大学工学部教授

恒成　恒（つねなり ひさし）
大阪府建築部営繕室長

横山誠一（よこやま せいいち）
安井建築設計事務所常務取締役
大阪事務所長

塩脇昭司（しおわき しょうじ）
錢高組常務取締役

7月号から12月号まで上記の4氏が担当

建築のメインテナンス

建物の屋根に落葉が溜まり、砂塵が風に運ばれてくる。そのうちに草が生え、樋のドレーンがふさがれ、水溜まりができる。陸屋根の一部分に、雨が降ったあとしばらくは水浸かりのところが拡がり、それがやがては防水層の破損につながる。また、例えば国公立の学校などでは、校舎の新設は比較的順調に行われても、建物の補修のための予算は必ずしも潤沢ではない。そのため、一昔前の建物の窓にはめられたスチールサッシの塗装がはげたままで、赤茶色の錆が流れ出している個所も少なくない。

これらの例は、いずれもそのまま放置すると建物の寿命を著るしく縮める原因となるから、建物の所有者は、そのような不都合が起らないよう、建物の各部分についてほぼ定期的な点検を怠ることなく、メインテナンスに万全を期すべきであろう。

欧米の街を歩くと、人々が美しい木造の窓枠のペンキを塗りかえるなど、まめに手入れをしている様子を見ることができる。建物の外装に使われている木や鉄の部分の塗装自体は耐久性に乏しいので、その補修が手遅れにならないように心掛けている訳だが、この点、伝統的建造物に当初施されていた塗装がはげ落ちてもそのままに「わび」だ、「さび」だと称して放置しているわが国の場合とは考え方が大分異なるように思われる。　（K．K）

ツインビル

大阪21世紀計画の関連事業として、大阪城の北東にあるＯＢＰ（オーサカ・ビジネス・パーク）に、民間の会社が延べ床面積約15万２千㎡、地上38階の「ツイン21」を建設することになり、現在10層を超える鉄骨が建ち上りつつある。

ツインビルとしては、ＮＹのワールドトレードセンター（1976）が有名であるが、印象に残るものとしては、シカゴのマリナシティ（1964）を挙げたい。

ツイン（双子）の概念が、何時から形に表されるようになったのかはよく分らないが、東洋でも西欧でも紀元前には遡れるようである。薬師寺における東塔と再建された西塔が、われわれの拝観することのできる古い実例である。寺院の塔が双塔になったのは、仏教思想の変化によるものと説かれているが、双塔の寺院の荘厳さは当時の人々に感銘を与えたのではないだろうか。

高層建築物は、たとえそれが、独立（１棟）したものであっても竣工すると、都市の景観と環境に影響を及すものである。新しい活力が期待されているＯＢＰの中心であるツインビルにより、大阪のスカイラインはどのように変るのであろうか。　（H．T）

米国のレストラン

米国の離婚率は約50％で、女性の約57％が職をもっている。まともな料理をつくれない女性も多く、外食産業が活況を呈し、レストランの種類も多彩である。

テイクアウトレストランは持ち帰って家で暖めれば喰べられるものを売る店で、日本でいえば、さしづめ「ほかほか弁当」である。ファーストフード・レストランはハンバーガー、チキン、ピザ、メキシカンフードなど、それぞれたくさんのチェーン店をもつ。コーヒーショップの概念は日本とすこし違って、朝、昼、夜のフルメニューで24時間営業の店をいう。すべての階層に利用されているが、55歳以上の利用が目立つ。老人の朝食をとっている姿も目につく。ファミリータイプ・レストランは昼と夜のメニューをもっており、中年層以上の家族に利用される。家族をもたない単身の中年男女のよく集まるのがカジュアル・レストランで、酒と音楽があり、バーで親しくなった男女が夕食を一緒にする。夜だけのディナーハウスは雰囲気もあり高級である。最近は豪華なインテリアのカフェテリアや野菜料理専門のレストラン、各国料理のレストランも増え、ニーズも多様化し、ＴＰＯでレストランを使い分けている。

（S．Y）

大阪の交通雑学

梅新交差点は、７つもの道路の終起点であることは、あまり知られてはいない。梅新の駅前第３ビルの道路沿い「梅新西北側角」に金ピカの下げ振りの鐘がある。これが「大阪市道元標」である。国道１号、25号、176号の終点であり、また国道２号、163号、165号の起点でもある。起点とされる場所も、明治９年に高麗橋東詰に設置され、その後大正11年に市庁舎前に、そして昭和28年に現在のところに移設されたと銘板に記されている。

また、市内でもっとも車の交通量の多い交差点はどこかというと、各国道の一大集散地の梅新交差点のように思われがちであるが、実は２番目で、西本町交差点が１分間に122台で一番多く、梅新、瓜破、抗全町各交差点の順であって、堺筋線、四ツ橋筋線の車の停滞とはまったくかかわりが無く、逆に水の流れるように、定速で順調に走行できるところが一番交通量が多いわけである。

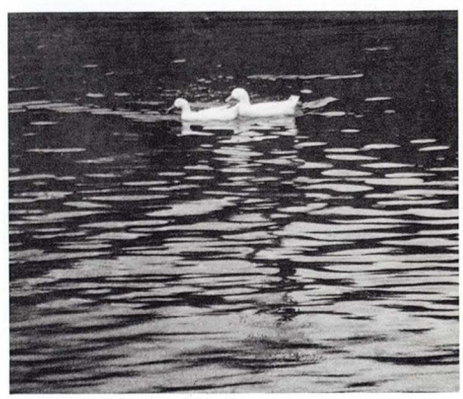
人のもっとも生活に必要とされる便利な道路を、車にあけわたし、私達は歩道橋や地下道で不便を忍んで、建物から建物へ、足を運んでいる手前、市内の車くらいは、混雑の情報をきちっと集約し掌握できる部署ができ、コントロールした上で、スムースに流れるよう統轄できないものかと、とくに混雑して動きのとれない５．10（ゴトー）払いの日なぞ考えさせられる。　（S．S）

特集

高齢化社会と生活空間

ここ数年来、にわかに21世紀社会に関するテーマがとりあげられるようになった。
未来を指向した華々しいプロジェクトが数多く紹介されている。
その反面、人口問題や資源問題等
将来の社会生活の中で解決してゆかねばならないテーマも多く指摘されている。
とりわけ我が国においては、戦後のベビーブームの世代、いゆわる〝団塊の世代〟が
社会の中軸戦力として活動する時代から中年、老年へと推移する中で
未曽有の高齢化社会が到来することがクローズアップされてきた。
老人、高齢者、お年寄り…いずれの表現をとるかはさておき
人口白書によると30年後には65歳以上の人口が約５人に１人の割合になるという。
これまでと様子が違うのは、
単に保護されるべきマイノリティ（少数派）としてどのような対策が講じられるのか
ということではなく、よりマジョリティ（多数派）に近い存在として
むしろ積極的にその存在を前提として
社会全体のシステムを考えていかねばならないという点であろう。
したがって高齢者階層の問題というより、それ以外の人口階層も含めて
いかに調和ある社会ができるかという問題であるともいえる。
高齢化社会から高齢社会へ、
着実に変化していく中で、建築と社会をとりまく諸問題としても
僕たちが考えていくべきテーマも生活空間とのかかわりで多く存在すると思われる。
このような背景の中で僕たちは、本特集の企画に臨んだ。
これから展開していく高齢化社会、さらに高齢社会に対する
僕たちの視座を整えるために、本号を位置付けたい。
したがって、本特集テーマは今回だけのものではなく、
これからの社会の情勢の変化に応じて、その都度
新たにシリーズの一環として設定されていくことを期待している。
本号が高齢化社会への問題を議論する際の参考になれば幸いである。

（編集幹事　田中直人）



本号特集編集幹事：足立啓／岡田信幸／杉本章子／田中直人／本多友常

高齢化社会における生活空間とケアシステム

出席者
今田　　収(前・大阪市立弘済院院長)
右田紀久恵(大阪府立大学社会福祉学部教授)
木下　敏郎(財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課長)
中川　倶子(兵庫県建築士会女性部会長)
司会者
田中　直人(編集委員・神戸市開発局計画課)

司会(田中)　建築空間を問題としているわれわれの「建築と社会」でも、高齢化社会の問題を、その中でもとくに従来のバリアフリーといいますか、いわゆる障害者に同列視されるような老人問題としてではなくて、老人をとりまくすべての人々の社会的な問題、生活空間の問題として広く取り上げてみたいと思いました。そういった意味で、テーマとしましては「生活空間とケアシステム」ということで、ソフトのほうについてもイメージを求めております。

それで、これまで取り組んでこられてきたこと等をまじえながら、高齢化社会というものに対してどのようなイメージをお持ちか、お聞かせいただきたいと思います。

バラ色のイメージの地域福祉への警鐘

右田　初めて「現代の地域福祉」を公にしたのは、もうすでに10年ぐらい前のことですが、それを書いたのは、社会福祉の原理やそれを支える一般社会の状況が固まらないうちに財政事情によって揺り動かされていく諸状況を見ておりまして、制度・政策を研究する側から警告すべきだと考えたからです。とくに最近、地域福祉が非常にバラ色のイメージでもって語られるものですから、これはやはり一定の評価といいますか、分析をしておかなければならないと思ってこの4月に、重ねてミネルヴァ書房から「地域福祉―今問われているもの」を出したわけです。

たしかに社会福祉は戦後30余年を経て、いろいろな意味で問い直すべきときにきていると思います。しかし、地域福祉をたんにバラ色のものとして受けとめるのではなくて、社会福祉の内容を豊かにするための一つとして、地域福祉をつくり上げていくためには何を考えなければならないか、という問題意識を持っています。その場合、老人や障害者がいかにして地域社会の中で自立的な生活をしていくことができるのか、その条件を問うことが結局地域福祉の課題であり、同時にその基本には住宅が一番重要かつ不可欠の条件であることから、住宅についても強い関心を持っています。また、イギリスには何度か出かけておりますので、イギリスの実態等と比べて、日本の社会福祉の遅れ、とりわけ地域福祉というところまで到達するにはずいぶん課題があるんじゃないかと痛感しています。そこには政策的な課題ももちろんのこと、国民一人一人の意識の問題の重要性を感じます。その両方が車の両輪のように今後本格的に展開されない限り地域福祉というのは確立し得ないんじゃないか、というふうに思っております。

最近は、社会福祉が一つの転換期であるという意味をこめて、〝施設ケアから在宅ケアへ〟の政策誘導的スローガンがかかげられています。高齢化社会になると大変なんだ、だからよりよい方法としての在宅ケアをすすめようという動きです。この動きには地域福祉と在宅福祉が短絡的に結びつけられてる面もあります。きわめて政策誘導的な形で結びつけられている面があります。

社会福祉が転換期を迎えているときに、最も基本的認識として、今後の施策の原点にすえるべきは『自立』ということだと思うわけです。自立というのはセルフ・ヘルプを強調していく概念ではなく、人間の主体性という意味で重要だと考えます。それは精神的自立、肉体的自立、経済的自立とその三つを内容とするものだと思うのです。経済的自立だけを言うのではありません。高齢化社会を考える場合に、いままで日本の社会福祉というのはこの経済的自立または経済的な条件の悪さへの援助のみに焦点をあててきたわけですが、高齢化社会と福祉の問題を自らのものとして、自らの問題を切り開いていくという活動の視点とか運動の視点を持つために、すなわち、主体的人間として行動するためには、どうしてもこの精神的自立ということが必要になってくるでしょう。まさに、精神的自立を核にして経済的自立、肉体的自立が両方に張りついていてこそ、真の意味の人間としての社会的な自己実現が可能になるのではないかと思っています。ですから高齢化社会における社会福祉の中心課題は、人間としての社会的自己実現をいかにして図り得るのか、ということだと考えます。

地域の中の施設福祉……転換期を迎えて

司会　大阪市のほうで弘済院の院長をお務めになられました今田さんにまず、弘済院がどういう施設であるか、その理念なり活動状況を簡単に紹介していただきたいと思います。

今田　もういまは野人ですが、今年の4月までいまお話しの大阪市立弘済院というところに勤めておりました。

弘済院は、福祉と医療といったものがドッキングした形の総合福祉施設、しかも公設公営ですね。まあ東京の養育院というのがございますが、西の弘済院、さらに名古屋の厚生院、この三つが公設公



今田　収氏
いまだ　おさむ

昭和26年大阪市に就職。市長室、財政局、教育委員会事務局（社会教育部長）、北区長、大阪八尾開発事業団専務理事。昭和56年大阪市立弘済院院長就任。昭和59年4月大阪市退職。



右田紀久恵氏
うだ　きくえ

大阪府立大学社会福祉学部教授。著書に、『現代の地域福祉』『地域福祉の法と行財政』『地域福祉―今問われているもの』等。



木下　敏郎氏
きのした　としろう

昭和42年神戸市に就職。区役所、企画局、市民局、経済局、神戸市イタリアミラノ駐在員、民生局等を経て現在、こうべ市民福祉振興協会。



中川　倶子氏
なかがわ　ともこ

昭和37年神戸市に就職。住宅局営繕部学校建設課・住宅建設課で特目住宅等を担当、審査課を経て、昭和54年神戸市を退職。同年いるか設計集団を設立。

営の大きな福祉施設と言われています。

福祉と医療、この異種のものを一本にまとめて経営するというのはいろいろと問題がございます。従事職員のほうも27職種、400人近くの人々が24時間交代でやってるわけですから、なかなか大変な感じですけれども、お互いに自分たちの前にはクライアントがあるということで一生懸命になってやっておるのが日常でございます。

現在、大阪市では21世紀に向けての高齢化社会の研究会をつくり、これから具体的な映像をつくり上げようと努力しておるわけですが、この中で、弘済院の問題を総合的にどう考えていくか、とくに高齢化社会に向けてのどういう活用を図っていくか……、大筋としてはやはり老人の楽園としての方向づけをしていって、うまく組み立てをせんけりゃならんだろうということなんですが……、具体的にどのような詰めをしていくかということは大変むずかしい問題です。それを一番身近な問題として、多少時間はかかりますが、職員自身の問題としても、考え出す必要があると考えてきました。

いまや人生50年が80年時代へと大きく変わってまいっておるのですから、その中で何を施設の福祉として考えるべきかということです。福祉として考えなければならん問題はやはり最終的には、行政の問題としてやらねばならぬ段階のものは当然やらなければなりませんですけれども、しかしそれだけに、施設福祉という形はシビアに考える必要があるんじゃないか、その意味でもっと地域福祉のためにも役に立つ方向での施設のあり方を考えるべきだろうと、職員もそういう気持ちでがんばってくれるような方向でございますので、これからが楽しみだなと思って卒業してまいりましたんです。

右田先生もおっしゃってましたが、施設福祉から地域での福祉ということに大きく時代は変わっていくと思いますし、また現実にまちの中には老人がこれからふえてまいるわけでございますから、まあこれは言葉が悪いかもしれませんけれども、人生の個人化と言われる時代にあって、老人を隔離から、地域に包み込むような形で、しかもそれがすばらしい老後といいますか、楽しい老後が、……きれいごとで言っておりますけれども……、気持ちよくそこで終わりを全うできるようなそういうまちづくりがほしいなと。その条件設定をこれから21世紀に向けて着実にやっていかなきゃならんのと違うかなと。もうやるべき時代が来たんと違うかなという気がしますね。福祉から文化へいって、またさらにほんとの意味の福祉、こういった転換が地域の中で実現してほしいなと思いますね。

私がおあずかりしておったお年寄りは、人生50年の設計で歩いてこられた方ですが、心ならずも80年になっていってるわけです。私自身の父親でも、心ならずも90になってるわけです。どうしたらいいのかわからんのが本当ですね。自分の思いと違う未知の恐怖がどうもあるような感じがしますね。ですからいま言ったようなことがこれから地域で実現をできるように期待したいと思うのです。

司会　今田さんは退職されてるんですが、これから何か具体的にやられるご予定はあるんですか？それとも、もう終わりですか？（笑）

今田　いまのだったら50年設計ですね、ですから80年設計が必要なんで、あと追加が要るんですね、追加プランニング。40から手習いを始めて60で実るということわざがありますね、だからいまから考えたんじゃ遅いかなと思うんですけれども、しかし何か遅まきながらでも追いついていけるようなことを考えて……せっかくお世話になったんですから、少しでも世の中のためにお役に立つようなことが設計できればと思ってるんです。

市民とともにすすめる福祉へ向けて

司会　多彩な、およそ老人と関係のないような派手なところを歩いてこられた木下さん、神戸市で話題になってます高年マンション等やっておられますので、その辺の経緯等も含めましてご紹介いただきたいと思います。

木下　神戸市役所に入って17年になるんですが、5年前に民生局に来まして調査担当の仕事をやってました。ここでは、神戸市独自のものだと思うのですが、市民福祉条例という条例を持っており、そのアフターケアをやっておりました。そのときの仕事の一つに、条

●弘済院

明治42年に大阪の北区で発生した大火を契機に、大正元年8月、財団法人弘済会は大阪慈恵病院を母体に大阪市内で養老と児童の養護を二つの事業とした救済施設を設立した。大阪市内の開発につれ、三島郡山田村（現・吹田市古江台）にも場所を求め、在来の生野事業所とともに、救済事業にあたってきたが、戦争の終わる直前の昭和19年4月には、経営の悪化もあり、大阪市が引き継ぎ「大阪市立弘済院」と改めている。
昭和41年には特別養護老人ホームをつくり、さらにアルコール中毒者や精神病の寛解者の社会復帰の生活指導を事業に付け加えている。
養老ホーム・特別養護ホーム合わせて約600名、欠陥家庭の子供100名前後、精神病・アルコール依存者の生活訓練が50名ずつ100 名、附属病院は診療全科200床、総じて1,000名余りがここで生活している。

例の一環としてのこうべ市民福祉振興協会という、いまぼくがいるところとの連絡窓口みたいなことをやってたわけです。

昭和51年に神戸市に「こうべ市民の福祉をまもる条例」ができたわけですが、これからの福祉は、単にいままでみたいに対象が限定された老人だとか障害者だとか児童だとかそれだけでは十分ではないんじゃないか、やはりすべての市民が福祉の対象になり得る、つまり福祉の対象になることもあるし担い手の側にもなり得るような時代がくるんじゃないか、いままでのようないわゆる税金だけでやっていく制度上の福祉では十分でないんじゃないかという考え方が基礎にあって、家庭と地域を中心にして、もう一度福祉を見直すという認識から、条例がつくられたんですね。その条例の基本的な考えは、自立ということと連帯という二つの基本的な考え方を調和させながらやっていこうということと、これからの福祉は行政だけではやれないんじゃないか、市民も、それから事業者といいますか、いろんな企業も行政と一緒になってやっていく必要がある、と。

で、それを具体的に表すものとして、市だけでなく市民それから事業者から寄附を集めまして、その寄附をベースにして一つの基金をつくり、その基金を経済的な基盤にした団体をつくって、その団体で、行政でやれない福祉の事業をやっていったらどうかと、こういう発想が出て、こうべ市民福祉振興協会ができたわけです。

最近完成しました「サン舞子マンション」、結局これも行政ではやれないけれどもある程度公的に関与してやったほうが、民間だけでやるよりも、一つの方向づけなりができるんじゃないかということで建設・運営をしてるわけです。直接の動機は、昭和55年でしたかに東京で民間の老人マンションが倒産をして、入ってる人が追い出しを食うというようなことがあったので、神戸市では多少公的に関与して、そういうことのないようにというので計画したわけです。

最終的に私どもが考えてますのは、「しあわせの村」というのを神戸市で企画をしてまして、神戸市の地理的に中心にあたるところに200ヘクタールの土地を確保しまして、いくつかの福祉施設あるいはスポーツレクリエーション施設、あるいは医療施設等が、総合的に機能するようなゾーンにしたい、と。中核になると考えてますのは、やはりハーフウェイ・ハウスといいますか、中間病院と言ったらいいんでしょうか、そういう格好の医療センターですね、それと社会参加の一つである授産だとか福祉工場だとかそういうものを中心にスポーツレクリエーション施設とあわせて配置をしたいと考えてるわけです。神戸市のほうで建設プランをやって、振興協会ではそれを総合的に管理するのを受ける、ということで考えてます。

●こうべ市民福祉振興協会

神戸市の市民福祉基金30億円の金利を財源に、行政ではやれない福祉事業をすすめている。

最初に手がけた**「マミーハウス」**は、1歳前後の子供を毎日朝9時半から午後4時半までの平均3～4時間あずかる施設である。母親の社会参加や学習、地域活動、買い物などのために設けられ、スタート時は月平均1名ぐらいだったものがいまは月平均13名をあずかっており、開設して3年、口コミで浸透しはじめている。

「市民福祉人材基金」は、高齢者が培ってきた技能を生かしてボランティアをする場合のコーディネートをし、あるいは**「福祉の店」**では、障害者や老人がつくったものを売るためのスペースを無料で提供している。

いま一番大きな事業は、**老人マンションの建設・運営**で、「サン舞子マンションが完成している。

適切な身障者住宅の設計のためには

司会　中川さんお願いします。とくに神戸市役所におられたときに特目住宅等の設計をされていますが……。

中川　神戸市にいましたときは特目住宅の中で身障者住宅、車いす専用の人のための住宅の設計を担当していました。ハーフメイドで、その人に適切な住宅を設計したいと、住宅局では考えていました。

右が悪いのか左が悪いのか、人によって違います。取っ手のつけ方とか便器の高さとか流し台とか細々したところが……。しかし、入居者が設計完了したあとで決定するということで、標準設計を作成しました。車いすでも使える流しをつくったり、車いすから便器に移れるように手すりを設けたり、お風呂と便所を広くしてワンルームにするとか、扉も引き手にするとか、二方向避難でバルコニーからじかにスロープで外部へ出るとか、いろいろ工夫をしました。

あとでできてから住んでる方に聞きにいきますと、やっぱりぴったりきてないようですね。自分はこっちが悪いんだけれど、こっちに手すりがあってやりにくいとかね。その辺、本当は入居者を先に決めていただいて、右にするか左にするかとかを決めていく……、高さが5センチ違っても使用者には、使用勝手が違うわけですね。だからその辺、もう少しやわらかく入居者を応募するところがあって、設計者と連絡をとりあってぴったりした設計をしていくと、お金もむだじゃないなと思います。それで、身障者の方も自立してやっていくといいますか、そういう行政にまかせっきりというのではなく、少し補助金を出してもらって個別に設計する方が、適切な身障者向けの住宅ができるのではないかと思います。

友情のネットワークづくり

中川　話は飛びますが、去年の2月に兵庫県の建築士会で女性部会を設立し、私はそこのお世話をしていまして、30人の会員がいます。

女の人は三度老いを迎えると言われてます。両親の面倒を見て、夫を見て、つぎに自分自身、と。だから高齢化社会というと女の問題だなと思います。その中で女の人がほんとに生き生きとしたいい生き方ができるかどうかというのが、いま私たちの周辺の友達が皆考えていることです。そういうこともあって、女性部会をつくったのですが、建築相談、住宅の増改築の相談、まちづくりの提案等のボランティア的なことを始めたいと思っています。

今後は、年を重ねても現在の住宅でずっとそのまま住み続けたいと思ったら、少し体が悪くなっても仲間で助け合ってやっていくとか、病気になったら友達が買い物にでも行ってくれるとか、そういうグループづくりとか、ネットワークをつくっていかざるを得ないと思います。そうすると、やっぱり近隣のコミュニティをうまくつくっていくというか、そういうことで今後の生活を豊かに暮らさないとしようがないんじゃないかと思うのです。経済優先で、お金もうけお金もうけでなくて、友情のネットワークみたいなのをうまくつくっていかないと、惨めな老後じゃないかなと思います。

ケア付きマンションはなぜ求められるか

木下　「サン舞子マンション」は60歳以上の人が入れるようになってるわけですが、ご夫婦だと、片方だけが60歳以上であればいいんです。そうすると60歳ちょうどの御主人と54歳の奥さんが入ってくるというので面接したんですが、見てると、すごい元気そうなんですね、別にこんなとこへ入らなくても、という感じがしたものだから……。おせっかいだけれどもやめたらどうですかと言ったら、その奥さんが、いやいや、私はいいんだけれども、私にもし万一何かあったときに主人がその日から何もできない、食事もつくれないし風呂だって沸かせないし、極端にいったらお湯だって沸かせない、そのためにこういうところにいれば一応、食事はちゃんと食堂で食べられるし、お風呂も入れるし、何かあるとそれなりのサービスがしてもらえる、だから入るんだとおっしゃるわけです。それから考えますと、ケア付きマンションは結局は独り暮らしの問題なんです。独り暮らししたときの不安だとか、それから不安定さ、不便さとか、そういうものをカバーするサービスがあるのを求めてマンションに入るという、そういう感じがしますね。

中川　女の人はまだ独り暮らしで暮らせるんですね、経済的な援助さえあれば。男の人が惨めなんですね(笑)。

木下　マンションに入ってくる動機なんですが、女の人は食事とか洗濯とかから解放されてここで伸び伸びと暮らしたいというんで入ってくるんです。男性の方は、自分は何にもできないから、ここに入ったら何とかじっとしながらでも生きていけるだろうという、どちらかというと消極的な理由。女の人はそうでなくて、ここで最低限のことを他人がやってくれるから、自分は残った人生を楽しみたい。だから男と女で入ってくる動機ははっきり違う感じがしますね。

日本人の老人問題の捉え方

右田　痴呆老人になったときの問題が大変ですね。何もしないといっそう痴呆が早くなるわけですが……、男性にそういう痴呆が多いということがよく言われますね、自立できてない男性……。

今田　第一の節目は、勤めている場合は定年なんですね。だから、お前危ないぞって言われるんですよ(笑)。いくつかの節目を経て、やっと向こうへいけるわけで、スッといけませんからね。これからやはり高齢者教育を生涯学習の中で大きく位置づけて、早くやらなければいけませんね。

この間、私テレビで見ましたが、外国ではもう学校のカリキュラムの中でそういう高齢学習を始めたそうです。いいと思いますね。

司会　サラリーマン社会でしたら、定年までとにかくがむしゃらに働いて、辞めてから考えるというパターンが多いですからね。もう40過ぎたら考えておく、と。絶えずつぎのステップをにらみながらチャージしていくといいますか、そういうシステムが社会的にも必要になるんじゃないかという感じがするんですがね。

右田　いまの高齢化社会というのは、福祉の領域のみで片づく問題ではありません。むしろ日本人がどういう生活を選びとるのか、また三度老いを迎える女性も、男性も共に、高齢化予備軍のみならず、日本人全体の生き方の問題ですね。年齢的には65歳になってからでは間に合わないわけですし、領域的にも、福祉の領域だけでもないし、住宅の領域だけでもないし、もう社会の基本的な問題そのものとして、すべての社会のしくみについて、いままでのあり方を問い直していくということだと思いますね。

司会　そういう点、日本と海外では大きく違うんですかね、社会体制とか考え方というのは。

右田　海外といっても、一口で言いつくせませんが、少なくとも地域福祉という考え方だけに焦点をしぼりましたら、やっぱり歴史が違いますね。イギリスのコミュニティケアは1913年ぐらいから始まってる。今日まで80年ぐらいの歴史の中で、基本的条件の整備が着々と進められてきたわけです。たとえば老人住宅に関する82号通達、……老人住宅に関して居住する老人の状態をカテゴリー、ワン・ツーに分け、85のチェック項目を入れた通達……を1969年の時点で出しているわけですね。だけど日本はそういうことをやらないままに、急に地域福祉・在宅福祉を叫び始めているわけですから、公的または行政的なサイドで考えるべき課題もまだまだ残されていると思うのです。それが一足飛びにボランティア論だとか私的な部分にドッと押し込められていくあたりにやはり問題があるでしょうね。

司会　そういうものが社会問題化してくる速度もかなり違うんじゃないですか。よく経済とか産業革命なんかで言いますけれど、欧米はゆっくりやってきたのが、日本はパッと短期間にやったと。いまの老人問題も最近になってワッと出てきてますね。

右田　確かにスピードは速いかもしれませんが、国民も、真の意味で自立していないで、あなたまかせの政策に安んじていたのではないでしょうか。いま、一人一人が精神的に自立し始め、そしていまの政策について一定の考え方や批判を持ち始めたら、大分変わってくると思うのですよ。そうでないから大変だ大変だということだけで終わっている。個人的努力と社会的解決の方法をもっと真剣に考えるべきでしょう。個人的努力は、少しでもお金をためることだけを考え、いまの働ける間にパートに出よう、それが経済的自立につながるから、というようなことで追いまくられる。その結果、女性は男性の1.5倍ぐらいの仕事をしないと働きバチの日本の男性と同じようになれませんから、ますます悪循環で、考える時間を失う、男性もそうなる、そしてお年寄りもせき立てられる、人間の本来の生活する姿を見失ってゆくというようなことになってるんじゃないかと思うのですね。やっぱり、ゆっくりリズムの意味が問われるべきでしょうね。

長くなった余生

木下　いまや余生のほうが長くなったりする可能性があるわけです。老後とかなんかいう言葉でもう言えなくなってくる。

外国だと大体みんな60歳になると年金をもらえるわけですから、60歳になるのを楽しみにするわけです、もう働かなくてもいい、と。ということは、その働かないでいい時間を何かに使えるというのが

片一方であるわけです。ところが日本の場合は、年金もらって好きなことができるといっても、50過ぎて何するかといったら、それまで会社で机突き合わせてた仲間と何かしてるんですね、大体(笑)。別の世界である地域に戻って、地域の隣と何かするということが、急にできない。ずっと会社なんです。それが全部なくなるといったら、全部が空白というか、スタート地点にまた戻っちゃう。だからその落差が大きい。

外国だと、若いときから〝会社〟とは別の自分の世界をつくっていますから、老人がふえるというのは質的な問題が全然なくて、量的な問題だけだと思うのです。つまり年金の対象者が増えるだけです。日本の場合には若いときのくらし方意識までも変えてしまうという質的な問題を全部抱え込んでしまう。

だから家庭がある程度地域にまだ根づいているから、女の人の場合は続くんですね。

中川　定年がないですからね。

木下　ところが男はそれがきっちり分かれますんでね。

中川　偉い人が定年後だめになったという話がよくありますね。

木下　だめになるしかいくところがない……（笑）。

さっきの、夫婦でマンションに入っている奥さんの場合、仕事をやめた途端に毎日主人が家にいる、そうすると自分もいままでしていた地域活動とか社会的な活動を全部やめちゃうんです、それで御主人の面倒をずっと見てるわけです。面倒を見るといったって、何もすることはない、二人で顔を突き合わせている。しゃべっても旦那は「うるさい」とか「お前はようしゃべる」と言うだけでね(笑)、相手をしてくれない。ただ、そばにおれと言うだけ。それでもうかなわん、と。だからマンションに入れば、自分が食事の支度もしなくていいし、適当にしゃべる相手もいるから、入る、と。これは日本の男の問題かもしれませんね。

中川　女の人も大変なんです、面倒を見さされる立場で。年寄りの面倒から夫の面倒から……。で面倒を見てホッとしたら、もう自分も年とってますからね。だから十分自分の能力を伸ばせないというか、その辺ですごくストレスがたまってるんですね。だから高齢者の離婚がふえてるんだと思いますよ。

木下　定年の日に、とかいう話がありますね。あなたも御苦労さまですけれど私も御苦労さまでした、と（笑）。

右田　だから高齢者向けのマンションを建てても、それだけでは解決にならない。ケア付きがあっても、それだけではだめなんですよね。夫婦ともにどういうソーシャル・ライフが送れるかというそこのところを今後課題にしていかなければ……。

次代の老人のための高齢者教育を

司会　いま問題になってるのは夫婦ですけれど、とくに女性の場合、単身の方もどんどん増えると思うのです。そういう場合にまた違った意味の高齢化社会の問題が出てくるんじゃないかと思うのです。

今田　いまは、お話にも出ておりましたけれども、自立性を失ってるんじゃないかと思います。しかしこれからの人は先ゆきが予測できるんですから、備えることはできますわね。ただ、いまおあずかりしてる人は前の時代の人ですね、ですから予測も何もつかなかった、戸惑いがある。そのうえ子供には裏切られ、あるいはつれあいに先立たれというのがあるんですね。ですから、どうしていいかわからん、で、いままでおった地域で行き詰まってしまった、しかも、それを支えるだけの地域社会にまだなってないという実情がございますわね、ですからやはりおあずかりをすることになるわけです。

そうすると、どうしても自我だけが強くなって、己がないんです。日本人の特性かもしれませんがね。ですから協調性が出てこないんです。連帯感がありません。自分がないですからね、思いやりが出ませんでしょう。疎外感いうんですか、何かやられるんじゃないかとかそればっかりで、という気配が強いですね。配偶者が亡くなってやむを得ずなったという場合と、それから違った事情で単身になった場合とでは、やはり考え方が違うようですね。ですからやはりこれからは高齢教育の必要性があるなと。

司会　つぎの老人のためですね。

今田　そうです、つぎの老人です、予備軍を含めてね。何とか生き抜けるようなことを教育しておく必要があるんじゃないですか。遅きに失するかもわかりませんけれど、もう一度、これからの人生は――ということをしっかり勉強しなくてはと思いますな。

ですから私は施設の職員にも言ってたんですが、いま相手にしているお年寄りと、これから10年後に入ってくるお年寄りとは全然違ってくる。だから先に勉強せんけりゃ太刀打ちできなくなるし、むしろ職員が先取りをして一緒になって考え、一緒に行動できるようなそういう体質を身につけんとね、いかに福祉の心といっても通りませんぞ、勉強しようや、と言ってきましたですけれど、そういう必要があると思いますね。

老人は生きがいを地域に求めて……

今田　まあこれは極端かもしれませんけれども、生活パターンは千差万別ですね。子供であればかなり画一的に一つの理念ですっとできますけれど、お年寄りはそうはまいりませんね、皆違います。

右田　ですから、一定の与えられた条件であればますます自我が強くなって、そして悪く内向して、奥へ奥へと深まっていくんですね。だから見通しが全然なくなっちゃう。

今田　で返ってこずに横ばいにしますね。ほかでパッと出ます。

右田　箕面の老人ホーム（永寿園）の良い例があります。最初はボランティアが老人ホームを訪問していたのです。いわゆる訪問サービスボランティアですね。ところが最近は入所しているお年寄りが地域にボランティアとして出ていかれるんですね、そしていろんな作品をつくったり、学校の催しに参加したりで、すっかり雰囲気が変わって、この10年間に目をみはるような変わり方らしいですね。

司会　よく老人の生きがいという問題をあげてるんですけれど、木下さん、人材基金ですか、一定の収入的な面もあると思いますが、その辺、実際そういうことをやっておられて、いまの問題どうでしょうか。

木下　振興協会でやっている「人材基金」なんですが、いま、一応500人ぐらい登録がしてあって、実働が300人ちょっとぐらいです。

年間の活動が600回ぐらい、大体1日どこかで2件ぐらい活動しているという感じです。はっきり言ってお金を出した指導者に比べるとレベルの問題はいろいろあると思いますが、ボランティアのほうからするとすごい生きがいというか、自分が社会的に役に立つんだと。それは本人としてはお金の問題でないわけだから、そういうので役に立つということで喜んで行っていただいてる。だから、生きがいというか何かの支えにはなってると思います。

マンションもオープンして3ヵ月ちょっと経ってきたんですが、やっぱり何かしたい、と。さっきの入居の目的からいくと、仲間をつくりたいというか、新しいいろんな勉強をしたい、と。でいろいろ希望を出していただいておりますが、講演を聞きたいとか、旅行をしたいとか、謡曲とか踊りとかゲートボールだとかしたいというのをいろいろまとめてみまして、いまそれを整理して、それぞれのサークルをつくろうとしています。

司会　それは中でするんですか、建物の……。

木下　一応いまは施設の中だけで。

司会　前のうたい文句で、地域との交流とか……。

木下　これからどうするかということなんですが、結局その中で一つの活動グループをつくって、そのあとで今度は周辺に老人クラブとかなんかありますんで、そこと自然に交流していくような形に持っていきたいと思っているんです。

在来の場を、新しいシステムの導入で活性化させる

司会　神戸の有野台（P.43参照）とか、京都の嵯峨野（P.43参照）とか、その地域で老人アパートといいますか、あるいは戸建てでありながらそういう老人ホーム的なものをやるとかいろいろあります。そういった場合における地域との交流の仕方、あるいはそのケアの仕方というものについて、どういうふうにお考えなんでしょうか。

右田　最も重要かつ必要なのは、寝たきりになったお年寄りの問題ですね、病院と特養の適正配置と、その運営の適正化が、住民参加でオープンになされるべきでしょう。そしてつぎにはハーフウェイまたは、ショート・ステイでしょうね。こうした施設の体系とホームヘルパーなどのソフトウェアの援助のシステムをどう組むかということになると思いますね。そのためには老人の居住形態、家族と同居なのか、独居か、また、独りでも体力や活動能力がどれだけあるかということを、ハードウェアに反映させる必要があると思うのです。それが、日本の場合にはまだ細かく分類できてないのじゃないか。単にADLだけではなくて、もう少し社会生活を送る上でもカテゴライズできるんではないか。そこがまだあいまいですね。

司会　いわゆる施設系の話もそうですけれども、たとえば本来そこへ入らなくても、家族と同居すれば十分いける人がわざわざ入ってくる、それはなぜかということ、何も公立でつくった施設に入らなくても、できるシステムが本来違う形であるはずだのに、それが全然展開していないということもあると思うのです。

右田　それは公営住宅についても同じことが言えるでしょうね。いま公営住宅の入居者の中にはかなり高額所得者がいる、極端な例を言えば、強制立ち退きをしてもらってもいいぐらいの方もいらっしゃる。それについて行政はもう少し毅然とした態度でもって、そこにケア付きのイギリスのシェルタードハウジングのモデルを作ってほしいものです。案外中途半端なままで放置されている住宅行政施策がむだを生んでいるところもあるのではないかと思います。

司会　福祉のマスタープランではどうなってますか、考え方は。

木下　神戸の市民福祉計画は10年ぐらいのタームで考えられているのですが、基本はやっぱり在宅福祉という、いままで住んできた住宅なりいままで住んでいた場所を中心にして、いろいろなサービスを実施する、あるいは在宅の状態を前提に、必要なときにショート・ステイを利用するとか、デイ・ケアを受けるとかいうのが将来の一つの方向だと思いますね。それは間違いないと思うのです。

ただ、うちがやっているような老人マンションというのは、そういう意味では一つの過渡的なものだと思います。現状で、在宅で給食サービスや入浴サービスを個別にやっていたらすごく非能率的だし、費用もかかる。といって、そういうシステムが出来上がるまでには時間がかかる。結局、ある程度経済的な負担能力のある人には、一つの建物の中に来ていただいて、そしてそこでこれだけのサービスをします、それについてこれだけの負担をしていただけますか、という格好になってるわけですが、老人だけが一つの建物の中に何百世帯も入っているという状態はやっぱり異常というか、あるべき姿ではない。だけどいまは一つの便法としてやらざるを得ない。だから将来的には各地域に、いまうちがやっているのと同じようなシステムを全部つくっていくことが必要だと思います。そのためには、たとえば市営住宅など公的なところで、住宅局というハードをやるところと、それからうちみたいなソフトをやるところが一緒になってそういうシステムをつくって、何百戸もある住宅の中でサービスを受けたいという人が手をあげれば、その人たちだけに月何万円かの負担でサービスをします、と。ただ、いつ言い出してもいいように、最初からその住宅にたとえばナースコードとか、障害を持っている人でもだれでも使えるようにあまり段差のない設計にしとくとか、そういうのを組み込んでおいて、使うときだけそれを開く、で

●「ハンディキャップ者配慮住宅」の開発
（P.32参照）



若いときにはそれはクローズしておけばよい、と。

司会　最近は建築の住宅設計の技術として、たとえば通産省でも老人・障害者をファイルしたシステムの住宅を開発してますが、集合住宅においても戸建て住宅においても、エレメントとしてそういうものを開発していく技術というのはやはりベースに要ると思うのです。ただそれを運用するソフトというんですか、いま木下さんがおっしゃったような考え方は行政もからめて今後もっと考えていかないといけないと思うのですね。

ヤング・オールドを生かすまちづくり

司会　先ほど今田さんから老人の楽園のお話があり、そして木下さんのお話では「しあわせの村」、何がしあわせかと（笑）。なんか村とか楽園とかあるいはアメリカのサン・シティ、老人のまちとか、これからまちづくりをやるときに、そういうあるエリアとか施設をまとめることがいいのかという話もあると思うのです。どんどん分散していくという、施設系においても分散する考え方もあるし。

今田　守口の駅前に来年できますわね10月ですか、あの施設なんかこれからの姿を示しているんじゃないかと思うのです。（P.39参照）あれに、そこに住んでる人だけじゃなしにその地域の人がサービスを受けられるようなそういうスペースをもっと用意してほしいなと、クリニックもそうですね。友達の医者と話をしとったんですが、おれもだんだん年いって、目もおかしい、だから実際の仕事より健康相談とか健康指導をやるほうが向いてくるように思う、と言うてましたがね、そうすると自宅開業をやめて、そういうところがあれば……半分ボランティアですね、しかもそれが自分の生きがいと収入を含めてあればいいわけです。ですからそういうものがふだんそこにあって、お年寄りが、その地域の人が使えるようなもの、そういうようなサービスを提供できるようなスペースがあればいいんじゃないかなと思いますね、これからのまちの姿としては。

中川　老人が役に立たないという思想をかえて、斎藤茂太さんの本なんか読んでも、前頭葉ですか、あれは使うほどよくなるという話ですね、創造力や考える能力は。だから、老人は現役だという考え方のほうがいいんじゃないかなと思うのです。その途中で倒れる人はやっぱりどこかで面倒を見ないといけないけれど、倒れずに80、90までやってられる方もたまにいらっしゃいますでしょう。全員がそうなる方向でやれるシステムをつくるほうがいいと思うのです。

私

堀江ゑつ

水の上をふわりふわりと浮かんだり
海の底に沈んだり
荒波に打ち寄せられてもまれながらも悠々としてあしたの夢をみながら行く
吹き上げられて松の根元にねむったり
又風に追われて飛んで行く
木の葉のような私

（大阪市在住・詩誌「若葉頃」同人・82歳）

司会　オールド・オールドとヤング・オールドとよく言われますね、いかにヤング・オールドをたくさんつくるかということによってそれだけ社会的な負担も軽くなりますし、もっとヤングの、いわゆるヤング・ヤングのほうも恩恵を受けるわけですね、いろんな経験とか。そういう意味ではやっぱりまちづくりをやる上でもそういった方が都心に住める、絶えずフレッシュな文化活動を、創作活動をやれるようなことで都心をもっと基盤整備していくとか、いろんなそういう基本的な話が出てくると思うのです。

特性を生かして建築家も市民の中へ

司会　ところで私、前に兵庫県建築士会の女性部会の会に出させていただいたんです。高齢の建築士さんもおられて、かなり意欲的に女性の立場でそういう自立の問題を考え、いろいろやっておられると思うのですね。その中で個人として、組織として、この問題にどういうふうに取り組んでいきたいかをお聞きしたいんですが……。

中川　女性部会の会員の中には、60歳を越してらっしゃる方もいますが、その方は昔、神戸女学院を出ていらして、建築の勉強をしたいということで60前ぐらいから３～４年勉強なさって二級の建築士を取られています。もう一人の方は47歳ぐらいの方ですけれど、その方も大学は英文科だったと思いますが、やっぱり建築に興味があるということで、神戸大学の研究生になりまして、二級を通って一級建築士を取っていらっしゃる。会員は、市役所や設計事務所に勤めている人は三分の一ぐらいで、あとの人は主婦であり、なおかつ自宅で設計事務所を開いたり、建築の勉強をしながら将来にそなえているというグループです。この方たちと一緒に行動してましてね、自分が年とったからだめだでなくて、一緒になってやろうという姿勢さえあれば、年齢に関係なくどんどん伸びていくなと思いました。

私自身が開いている事務所は女性が４人、男性が４人で、経済的自立と精神的自立を求めて、良い建築を創り出そうとがんばっていますが、経済的にはなかなか大変です（笑）。でも、いい設計をしようという目標で、全員楽しく仕事を続けています。だから生き方の姿勢みたいなのを通していくと80歳ぐらいでもがんばれるんじゃないかと、私自身は楽天的に考えています。

司会　今田さんの友人は医者をやめて健康相談などをしたいと言われたんですが、建築家にとっても、何も図面をひくだけが仕事じゃないですからね、いろんな住宅の形式があり、住宅を改造する問題もあり、そしてまちづくりの大きな話も。市民の中に溶け込んで、女性の立場、建築士の立場で相談に乗るという、自分も一生懸命、住まいを考えていくという、そういう活動を期待したいんです。

中川　ええ、どんどん特性を生かした仕事をしたいという気持ちがあります。身障者や老人の住みやすい美しいまちづくりへの提案や、住宅の改造などの相談に応じていきたいと思います。

右田　それは私ども使う側としてもぜひお願いしたいですね。本当に使う立場になってこたえてくださってるところはほとんどないですね。それからマンションも中途半端なんですね、使う立場から言えば。これから一生住むんだからと思っても、帯に短したすきに長しで、なんかぴったりじゃないんですね。「都住創」などの発想は

非常に賛成ですが、ただ少し高過ぎるという点があります。

司会　その辺を公共がアドバイザーなり、コンサルタントを派遣するとか、そういう面で、何かもっとシステムがあればいいですね。

右田　そうですねえ、これぐらいのお金で何人か集まって何とかなりませんかと、信頼関係で話し合える場があればと思いますね。

中川　使う立場というのは女性が多いですね、住宅にしても。学校とか保育所にしてもそうですが、でも建築士の中では女性の数が少ないので、なかなか設計者として意見を出す場が少ないということがありますが、女性部会として力が出てきますと、使う立場であり設計する立場であるということで意見を出していきたいと思ってるんです。とくに老人も女の方が増えますので、その人たちが住みやすいような快適なまちづくりへの提案、住宅や公園、子供の遊び場、学校等に対して、細やかな提案や設計をしていきたいと思います。

イン・ザ・コミュニティでなくバイ・ザ・コミュニティを

右田　地域福祉とか在宅福祉とか言われる、これはケア・イン・ザ・コミュニティ、それからケア・バイ・ザ・コミュニティという、インとバイの違いが非常に重要だと言われます。イン・ザ・コミュニティの場合は、お年寄りをその地域社会の中に置いておくにすぎないとすると、昔から孤老がさびしく生活していたのとかわらんじゃないかと。それでは何も新しい福祉のあり方を求めていることにはならない。そうじゃなくてバイ・ザ・コミュニティ、その地域社会の中のいろんな資源や、ソフトウェアや、マン・パワーや、お話に出た女性部会の方の努力なり、そういうものを全部その〝バイ〟という形で組織化し、生活している、または援助を必要としている老人たちの自立を可能にするために活用し、ネットワークさせていくことが、地域福祉・在宅福祉のあり方であるとつけ加えておきます。

先ほどネットワークというふうにおっしゃってましたけれども、だからインとバイの違いが非常に重要だということですね。

木下　いま言われたバイ・ザ・コミュニティをどんなにしてやるかというのが、どうしても行政の発想では、イン・ザ・コミュニティになっているわけです。つまり地域の中にいる状態で行政が何かするとか、システムをつくるとかね。やっぱりバイ・ザ・コミュニティというか、地域でみんなで扶助するというか、見てあげる、そういう状態に自然となるようにもっていかなあかん、そういう条件をつくるのが行政の仕事だと思うのだけれど、何かしてくださいと言われると、ダイレクトに行政がホームヘルパーを派遣しましょうとか憩いの家をつくりましょうと、ついそういうふうになってしまう。

右田　大阪南部の泉佐野に良い例がありますが……。老人ホームにいたお年寄りを自宅に帰らせて、給食サービスにかかわっていたボランティアや近所の人たちが最後まで面倒を見て、お骨まで拾ってお葬式を出してね……。その地域では、こういうことがやれるのかと、地域の相当の人たちが目覚めたというんです。それから、こういうふうに老後を、一生を送りたいということで、30代の主婦までドッとボランティアの仕事をしようというふうに、自分たちで見たからやろうという気持ちになったらしいんですよ。

やっぱり目の前にあるいろんな問題が、やがてひとつ間違えば自分の問題になるんだという、現代社会における人間の置かれている状況認識の共通性が要るのでしょうね。現代の社会が生み出す問題、それへの共通認識があればずいぶん変わってくると思うのです。

司会　最初の話に戻ってしまいますね。

生き方を問われる―高齢化社会への転換期

今田　高齢化の問題だけは、避けて通ることはできないみんなが通る道ですからね。そういう意味で、やはりこの問題はこれから重要性を増してくる、ということは共通認識できると思うのですよ。問題はその努力を行政なりがやっていかなきゃいかん、そういうきっかけをつくる。それからまちにおる人たちのためにいろんなサービスが受けられるような、いろんな力がそこへ集約化されるようなそういう場をつくっていかなければいかんと思うのですよ。それが仕事だと思うのです。だからいまは先ほどおっしゃったように御用があれば飛んでいきますでは、ね。公もそうですし民間の力も分散化してしまって、だめです。ですから、ある意味で私は子供の場合と同じように、老稚園的なものが設けられておって、利用したければ行けるようになる、そこでまた違ったサービスもあるのでみんなが行けるようになる、そういう老人のためのスペースがこれから必要になってくるんと違うかなと思うのです。

木下　そういうことからいくと、高齢化社会が来たら何ができるかとか、何をするかということでなしに、逆に高齢化社会になると、日本人のこれまでのいろいろな考え方とか意識が変わってくるんじゃないか、だからむしろ高齢化社会になって生み出されるものを期待するような感じがちょっと出てきますね。

〝個の確立〟みたいなやつもそこから出てくる可能性がありますね。これまでと違う社会がくるのではないか。そこで自分が変わっていく、全体が変わっていく……。

今田　で自分が実現できるという……。

右田　先ほど、他の国との違いを質問されたときに、長くかかってつくり上げてきたと言いましたけれど、やっぱりいま教育の段階でこれを取り込まないとね、若い人に……。広い意味での教育でも、そして学校教育ももちろんですね。福祉教育というような形で義務教育段階にそういうものを単元として入れたり、「副読本」方式を導入していくということですね。教育の領域で本格的なとりくみをし、国民的課題を国民的コンセンサスによって解決していくことを考えないと、将来は一層暗くなりますね。

木下　だから年とったらどうするかとか、どんなにしたらいいかじゃなくて、もともと生まれて死ぬのは人間……人間としてどうするのかというのをきちっとしておけば、高齢化社会になろうと何になろうとうまくいくんと違うかなという……。

右田　人間らしくするということは何なのかということ、それが男女の差の問題なんかもなくすことになりますし、そういう意味で生き方を問われているということで一つの大きな転換期だと思います。

司会　お互いこれから年老いていきますけれども、今回の座談会はこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

アンケート・A

高齢化社会の住環境整備を考える〝16の鍵〟

高齢化社会における住環境整備のあり方について考えるため、有識者16人に対してご見解をいただくことにした。その構成は、建築学、住居学、社会学等の大学関係者５、行政関係２、官庁研究所関係２、設計事務所１、建設会社１、施設関係２、住民関係２、医師１となっている。予め回答者に対しては、その立場から期待されるテーマを編集委員会で設定し、執筆を依頼した。

今後の高齢化社会における住環境整備のあり方について、示唆に富んださまざまなご意見をいただいたが、大きく分けてつぎのような論点に分類できるのではないかと考える。

(1)高齢化社会における家族、コミュニティ等の人間関係に対応した住環境整備のあり方

(2)高齢化社会における人間生活空間としての住宅、施設、まち等の住環境整備のあり方

(3)高齢化社会における人間関係や空間系をつなぐ管理、運営、ケア等のサービスシステムのあり方

(4)高齢化社会における福祉と医療の役割・分担を含めた高齢者の自立システムのあり方

(5)高齢化社会における住環境整備にかかわる建築家の役割・使命およびそのあり方

等々であろうか。厳密にいえばこれらの軸にあてはまらないというべきものもあるし、いくつもに関係するものもあるといえる。

いずれにしても、今日問題とされている高齢化社会における住環境整備については、狭義の建築的アプローチだけでは語れなくて、もっとマクロな、境界領域的な協力、支援体制の中でアプローチする必要があろう。今回のアンケートに回答を寄せていただいた16名の方のご意見はまさにこのことを実感させる含蓄あるものであり、今後の手掛かりを求めるわれわれに対して、つぎなる展開への〝鍵〟を与えてくれるものといえよう。そう、それは、高齢化社会の住環境を考える〝16の鍵〟といえるかもしれない。

（田中直人）

1 「家族としての生活」をとらえる

髙田真治

高齢化社会の進行は、内在するつぎの要因によって、家族形態の多様化を促進させるであろう。すなわち高齢者自身の身体的・心理的・社会的特性、男女の寿命差、核家族化や扶養意識の変化にみられる伝統的家族制度の崩壊、社会福祉施策の進展などである。家族形態は、ひとりぐらしや老人夫婦のみの世帯などいわゆる別居世帯と、配偶者のいる子・いない子との同居あるいは孫を含めた三世代家族などいわゆる同居世帯とに大別される。このほかに、老人を含まない世帯のあることはいうまでもない。今日、同居世帯は６割余に減少してきており、別居希望の漸増しつつあることが示されている。

したがって住宅は、基本的に、多様化していく家族にふさわしい規模と位置を配慮した選択肢を用意することが望まれる。しかし住宅は、単に物理的な居住施設、閉鎖的な住空間としてではなく、生活の場、開放的な居住環境として、「家族としての生活」を全体としてとらえる視点が必要であろう。老人夫婦であれ、三世代家族であれ、家族としての力動性があるし、成員それぞれが生活の場をもち、環境とのかかわりをもっている。この事実からさまざまな生活上の要求が生ずるわけであり、これらを充足するという視点から住宅を位置づけ、居住環境の整合性や総合性を考えることが重要であろう。この視点は、社会福祉の今日的課題である「在宅福祉」の推進にとって不可欠なのである。

（たかた　しんじ　関西学院大学教授・社会学部）

2 千客万来の住まい—客間づくりのすすめ—

荒木兵一郎

高齢者は〝ニューレジャークラス〟と呼ばれるほど時間的な余裕があるし、話し好きでもある。現在はテレビだけを〝来客〟としている人が多いが、ゲートボールで仲良しになった友達を招き入れ、一緒になって遊んだり、勉強をする。そこで得た知識をもとに、チビッ子たちには日本昔話を、主婦たちにはおふくろの味を伝授する。こんな関係ができたら、寝込んだり、万一のことがあっても、みんなが心配してくれる。それも、お見舞いだけでなく、客間に泊り込んで、看病さえもしてもらえることだろう。

要するに、高齢者たちの住まいは、みんなが集まりやすい街の中央で、しかもそれぞれの家の中心に住み、家全体も足腰の弱った人でも、安全、便利、快適に使用でき、さらに一人暮らしになっても、お客さんが招き入れられるほどの余裕がほしい。

だれでも、長生きすれば高齢者となるし、高齢者となれば、長い生活経験の違いから、個性が生まれてくる。いろいろな個性のある人たちが、いろいろに変化しながら住める住宅が必要となる。若いうちなら好みの住宅に移り住めるが、老木は植えかえにくい。定住しながら変化に耐えるには〝ゆとり〟があれば何とかなる。客間は生活にゆとりをもたせ、そのゆとりが隣近所との交際を円滑にし、失われたコミュニティさえもを復活させ得よう。たぶんそこから円熟した高齢化社会の文化の花が咲き匂うことだろう。

（あらき　ひょういちろう　関西大学教授・工学部建築学科）

3
シェルタード・ハウジングとコミュニティ・ケア

高阪謙次



ハノーヴァー住宅協会の設立したシェルタード・ハウジングのひとつ。ロンドン郊外

イギリスの老人住宅の典型は、シェルタード・ハウジングと呼ばれている。老人向けに設計された（多くが）低層の集合住宅で、ウォーデンと呼ばれる住み込みの〝舎官〟が一人ついている。多くが中高年の女性である。仕事は、入居者への一般的な援助や建物・敷地のマネージメントなどである。彼女に与えられた住宅部分や事務室と入居者の各住戸とは、インターホンなどの通信・通報システムでつながれている。規模は30から50戸ほど。この規模の主な決定要因は、ウォーデン一人の〝守備範囲〟にあると思われる。

ところで、たとえ入居者が自立的であるとはいえ、50人からの老人に対してウォーデンが一人では少なすぎる、あるいは「冷たいのでは」という意見もある。確かに、北欧などの老人住宅に比較しても、老人住宅そのものに注目する限りでは、少なすぎると言える。

しかし、視野を少し広げて、イギリスのコミュニティ・ケアの中にウォーデンの役割を位置づければ、決して「冷たい」ものでないことが分かる。

周知のように、イギリスではコミュニティ・ケアの基盤をなす地域サービスのネットワークがよく発達している。医療・救急体制、ホームヘルプ、給食サービスなどがそれである。ほかに各種のボランタリーな運動が、豊富で創意に富んだサービスを提供している。ウォーデンの最も大切な仕事は、これらのサービスを、入居者個々人のニーズに応じて入居者に結合することである。

すなわち、ウォーデンのバックには地域ケア網があることを理解しておくことが肝要である。極論かもしれないが、豊富なサービスとマンパワーが老人住宅の中に組み込まれている北欧型の老人住宅は、それ自体がコミュニティ・ケアの中核施設の役割を果たすよう位置づけられているのに対し、イギリスのシェルタード・ハウジングは周囲を取りまく豊かなコミュニティ・ケアに包容され、規定されて、こうした形態になっている、と言えよう。

（こうさか　けんじ　山口大学助教授・教育学部住居学研究室）

4
地域で生きる人の汗と匂いの空間化

川村雅憲

健康なお年寄りや、寝たきり老人などの高齢化問題を口にすることは多いが、脳性マヒ者をはじめとして、生まれながらに障害をもつ人たちのそれは、さほど大きな問題となっていない。

いま、私たちは東京の武蔵野市を中心に、障害者の高齢化問題と親亡き後の介護・住居問題に取り組んでいる。遠くの施設で生活するのではなく、生まれ育った地域社会で暮らしてきた在宅障害者は、現在、年による身体機能の衰えと、彼らを介護する親の高齢化との狭間に立って苦しんでいる。重度障害者の親亡き後、互いに助け合って生活できる場を求めてこの会（重度肢体障害者共同生活寮を作る会）は発足し、6年がたった。だが重度の障害者が15人前後で共同で生活できる小規模施設は、わが国では制度化されていない。ニーズの絶対的重要度にくらべ、市民の絶対的少数に位置するこの人たちへの理解と情報は少ない。

大規模施設や建築には目を向ける建築家にとって、地域との関わりはあるのだろうか。すべてのお膳立が整ってから登場する建築家から、利用者の本当の声が聞こえてくるだろうか。いま、われわれに問われているものは、その地域で生きる人たちの汗や匂いを、どこまで空間化し、具現化できるかであろう。そして、そのための計画と解決へのプロセスを提示し、方向づけを行うと同時に、その責任をどこまで全うできるかに建築家はあると言えよう。

（かわむら　まさのり　武蔵野美術大学講師・造形学部）

5
老人と団地生活

馬場昌子

現住地にずっと住み続けたいという老人の願いは強い。古い団地ほど老人率が高いのは（6割を越す例もある）、この現れであろう。私の行った調査で、そこに住む老人達を地域融和という観点から分類してみると、①地域無関心現役型、②無職広生活圏地域無関心型、③健康地域融和型、④病弱住戸内閉じこもり傾向型、⑤家族依存病弱型に大別でき、ニュータウンのイメージから①や②の老人が多数だと思いがちであるが、現実には各型ともに一定数存在している。

子供は教育施設と住戸を核に、加齢とともに生活圏を拡大していく。老人はその逆で、退職、歩行困難の二つの節目を経て生活圏を縮小していく。この場合、友人形成が老人クラブばかりでなく、買い物、通院、趣味の会など地域に散在する多様な施設利用を契機としている、住戸を中心に中ぬきのドーナツ型の圏域に友人を求め、近所とは一定の距離をおいてつきあう傾向が強い、および先の④と⑤型の老人がより濃いつきあいを望んでいる、などが注目された。

この点を考えると、老人が団地で自主的に生活を持続していくためには、買い物、食事・喫茶施設、集まり施設などの顔あわせ空間の狭い圏域での充実、老人向き集合住宅、歩行を容易にする階段、段差・坂への対応、などといった団地づくりの視点が必要である。

戦後の団地計画の中で切り捨てられてきた部分、とくに共同生活要素に対する再考を、高齢化団地は訴えているのではなかろうか。

（ばば　まさこ　関西大学工学部建築学科助手）

6
高齢者を配慮した住空間の開発

岩井一幸

新住宅開発プロジェクトによるエンジニアリングモデル住宅6棟が、今春完成した。この一つに、高齢化社会の出現に焦点を合わせ、日常生活における自立と、介助者の負担の軽減を目的とした「高齢者・身体障害者ケアシステム技術の開発」がある。ハンディキャップ者配慮を含む住宅の性能レベルを4段階に整理、技術開発目標(性能仕様)として確立し、水平トランスファ、上下昇降装置、トイレ・バス・キッチン・重度障害者用居室等のユニット、開口部・間仕切システム、情報・環境制御コントローラ等の部品化、および、住宅にまとめるシステム化技術を開発したもので、実験住宅の形に建設している。

工業生産によるオープン部品化を目指し、ごく普通の機器にさまざまの配慮をし、さらに重度者用も現在の部品の延長上で位置づけるため、住宅関連メーカーによって開発が行われた。これはＩＳＯ(国際標準化機構)ＴＣ136(家具部門)で椅子の寸法測定法を車椅子と普通椅子と共通の方法で行う提案(スェーデン)、ＴＣ59(建築部門)でキッチンの高さを車椅子者も背の高い人者にも可変とし定めないとする提案(デンマーク)、などの動向とも対応している。

他方、老人住宅等のプロトタイプ住宅そのものを開発対象とせずに、これらを支えるハンディキャップ者住宅共通基盤技術の確立を目標としたのは、個人と地域ニーズ密着型の住宅開発から、先進技術を生かすシーズ型の部品開発へ力点を変えようと試みたからである。高齢化社会は、先進各国共通であり、日本の住宅事情の延長上の部品開発だけでは閉じない。

ハンディキャップ者配慮の住宅、住宅部品の開発は、特別設計の段階から、配慮の質的変化と範囲の拡大によって、システム的思考による総合的に地についたものとする段階になったように思われる。

(いわい　かずゆき　通産省製品科学研究所)

7
高齢化社会の企業戦略

平世真一

老人のニーズは多様であり、各人のニーズも変化する。一方、高齢社会への急速な移行の中で、こうしたニーズも経済的に効率良く満たす必要がある。収容中心の老人福祉への反省も、多様性と経済性の認識が背景にある。

近年、いわゆる有料老人ホームや老人マンションが注目されているが、これは公的な福祉にはなかった。自立的で快適な老後というコンセプトが、多くの老人の共感を呼んだためである。米国のサンシティのような都市スケールの老人コミュニティも、近い将来に導入されるかもしれない。しかし、これらも立地、価格、入居資格、事業の安定性などに多くの問題を残しており、急速に普及するとは考えにくい。

現在、市街地再開発事業の保留床利用、信託事業との共同など多くの試みがなされているが、市街化調整区域の利用、公的資金の導入、税制上の優遇などに関し、行政の支援も期待したい。

さらに重要な課題は施設における生活の質である。各施設は種々の医療や生活上のサービスをＰＲしているが、過度の依存は入居者の虚弱化を促進する傾向がある。むしろ、老人が自らの生活の意欲と能力を十分に発揮し、誇りと充実感を持って暮らせるようなきめ細かいサービスと、それを可能にする管理運営の仕組みを研究していきたい。

(ひらせ　しんいち　株式会社竹中工務店医療福祉本部専門役)

メモ

ＡＤＬ(Activities of Daily Living　日常生活動作)

家庭を中心とした日常生活、仕事、遊びなどに固有の日常動作で、日々の生活、社会生活を行っていく上で不可欠のもの。

8
「スープのさめない距離」と隠居のよさを生かす

宮田芳彦

厚生省統計情報部の発表では日本人の平均寿命は男女とも世界一になった。高齢化社会の到来は予想を上回って早いように思われる。

さて昨年12月の住宅需要実態調査により、親と子の住まいの状況をみると、同居18.3%、敷地内または同一住棟内11.3%、歩いて10分以内 9.2%となっている。また子供夫婦との将来の住まい方では、同居したいが27.9%、すぐ近くに住みたい(同一敷地内を含む)が40.8%を占め、別居したいはわずか31.3%で$\frac{1}{3}$を下回っている。これらのことを考えると、将来、老人同居住宅の供給がいかに重要であるかは自明であろう。

すでに住宅金融公庫では、老人同居住宅の場合、135㎡と、25㎡広く融資上の優遇策を論じている。私達もこの制度を活用し、本年2ヵ所の団地で133㎡の老人同居住宅(工業化)を3戸ずつ販売した。結果は好評で、3戸に対し50世帯の申し込みがあった。老人同居住宅の間取りは、縁側、6帖の和室(床、押入付)に3帖の厨房である。老人住宅は本来「スープのさめない距離」、西日本に多い隠居といったものが理想だと思うが、土地の高い都会では無理があるように思う。そこで私は、同一棟でありながら、できる限り「スープのさめない距離」と隠居のよさを生かした設計はできないものか、またこんな住宅をぜひ供給したいものだと考えている。

(みやた　よしひこ　神戸市住宅住宅供給公社専務理事)

9
地域と老人活動

石田一一

わがまち北須磨団地は、住宅生活協同組合方式によって造成され、昭和42年12月より入居をはじめたまちである。連帯と信頼を主んずる労働者が兵庫労働金庫を中心に労金運動を展開してできたまちである。

保育園、幼稚園二つを自治会運営とし、揺かごからはじまり、小中高（2校）と医療技術短大がまちの周辺をとりまく環境で、墓場がないだけで、四囲緑に囲まれたまちである。

このような環境の中で、96歳（女）2名を最高に、90台9名、80台64名、60台以上700名、この人たちが北須磨老人いこいの家を拠点として親睦と友愛をもって生きがいを求めている。

ラジオ体操、茶道、民踊、カラオケ、詩吟、ゲートボールと日割を決めて活動し、また端午および桃の節句では、在りし日を偲び郷愁にひたり、忘年会、新年会にほろよいとなれば「花散る野辺に日は落ちて」と円舞がはじまる。おじじとおばばの抱擁、その一瞬が続き、若々しく肢体は伸びて青春再来に花は咲く。ほほえましき一幕。

10年前、提案された老人職業指導所の設置。アンケートで必要なしの声多く抹殺。老後の自主性尊重が大切と判断をしても指導性がなかったとの反省もあり、おしいことと思っている。

いま、年金受給者で年金友の会を結成、健康に留意し、近代工場の見学。健康教室を催し、予防医学に徹し、給食サービスを執行、地域養護ホームの構想を練る昨今である。

（いしだ　かずいち　北須磨団地自治会会長）

10
地域分散型ホームとコミュニティ・ケア

木下淳子

有馬温泉に近い神戸六甲山系の北側に、人口2万の有野台団地が開発され、地域医療の担い手として神戸アドベンチスト病院が誕生してから11年、構内には病院のほかに、心の拠り所としての教会と、病気以前の健康教育を目指す三育センターがある。

キリスト教の一派セブンスデー・アドベンチスト教会の信徒の手による〝エリヤ会地域分散型高齢者ホーム〟は、団地内の一戸建住宅3軒と、公団住宅（2DK）2軒に、現在8名（84歳～67歳）が自立した生活を営んでいる。これは全信徒への老人施設に関するアンケート結果を大別し、①医療の整った、②若い人々と共に過ごせ、③年をとっても何か役立ちたい、との要望に応えたテストケースである。

住宅の1軒をセンターとし、メンバーの状況を毎日電話で把握。必要なときにはヘルパーやボランティアの助けが得られる仕組みで、健康はアドベンチスト病院によって管理され、高木謙三副院長はエリヤ会会長でもある。

中古住宅を購入して2、3名の共同住宅に改造するには、各自の台所、トイレ、収納部分の増設、浴室の手すり、難聴者には福祉電話（相手の声が拡大される）とフラッシュベルの設置、非常ベルは消防署に申請し、市の予算で取り付けていただいた。

センターには、自動車、車椅子、福祉に関する本棚を置き、地域で必要な方にも役立てていただいている。

民生委員、福祉事務所、ボランティアを志す地域の人々との連携が年々深まってゆくことは喜ばしい。

徐々に自立不能となるメンバーのために、ミニ特養兼世話ホームの設立が目下の急務、多くの制約を受けつつ努力中である。

（きのした　あつこ　エリア会地域分散型老人ホーム施設長）

アンケート・B

高齢化社会到来にむけた生協組合員の意識と生活

大阪府下の12の地域購買生協は加入世帯が25万世帯をこえており、大阪府全世帯の9.0％（昭59年3月末現在）を組織し、食料品を中心に年間400億円を超える商品の共同購入を行っている。近隣地域のグループや班活動による商品の共同購入を通じて、それぞれの地域に根をおろした活動を行っている。

大阪府生活協同組合連合会が12の地域購買生協組合員に対して実施したこの調査は、組合員の意識と生活実態を把握し、かつ、せまりくる高齢化社会における生協活動の進むべき方向をあきらかにしようとするものである。今回対象となったある地域購買生協では「コープ助け合い」制度を設け、まず家事代行などからはじめて、組合員の自主的な相互扶助を制度化し、地域コミュニティ活動にとりくんでいる。高齢化問題を地域社会で解決していこうという萌芽がみられるのである。

この調査結果は、「生協組合員の生協活動に関する調査」より一部抜すいしたものである。なお「生協組合員の生協活動に関する調査報告書」は、大阪府生活協同組合連合会により昭和59年7月にまとめられている。

□調査対象者のプロフィール

調査対象者は、団塊の世代を中心とする30代主婦である。居住地は、大阪市と府下都市が1：6となっており、その家族は、30代後半から40代前半の世帯主と2人の子どもで、末子はまだ学齢に達していないホワイトカラ

11
老いと女性のかかわり

井 上 チイ子

日本の人口高齢化は、人類がいまだ経験したことのないほどの猛スピードで進行している。昭和59年の老年人口比率は 9.8%、それが30年後には65歳以上が５人に１人の、21%にも達すると人口白書は伝えている。しかも高齢者のうち女性の占める割合は男性の 1.5 倍になっており、今後高齢化が進むにつれてその差はますます開いていく。まさに21世紀は〝おばあちゃん〟の社会到来である。

「日本型福祉」や「家庭基盤充実」の呼び声の中で、伝統的な性役割分業の固定観念をひきずったまま、女性と老いとの関わりは、女性の肩に重くのしかかっている。女性は老親を、夫をと、家族の老齢化にも対処していかねばならず、さらにそのあとに長く、孤独な自分自身の老いと出合う。

近年、女性も自立や自己実現を模索し、就業や社会参加をめざし、精神的にも経済的にも自立した人間として生きたいと願っている。女性の就業機会も年々拡大していくなかで、女性にのみ老いの看とりや福祉充実の役目を押しつけることはむずかしくなっている。にもかかわらず、介護を必要とする老人は飛躍的に増大し、子供との同居を望み、心身の機能が衰えたときは家庭で家族に面倒をみてもらいたいと望んでいる。

老いのにない手を女性だけでなく、家族の一員として男性も子供たちも、ともに分かち合うことのできる生活的自立をするとともに、家庭外の援助、地域社会の受け皿の充実を考えなければもはや問題は解決しないだろう。個人の自助努力はもちろんとして、この家庭外の援助とは何か、それはだれがするのかを具体的に掘り下げて、近い将来、自分もまた高齢化社会の一員になる事実の上に立って、いまなにを用意しなければならないかを考えなければならないだろう。

（いのうえ　ちいこ　ウイズＷＪＷ代表・千里山生協理事）

12
老人の〝家庭〟

道 井 忠 男

近年、特別養護老人ホームなどの老人ホームにあっては、入所期間が長期化する傾向にある。今後、高齢化の進行に伴い、この傾向はより顕著になると思われるが、このような状況のもとでは、施設を、単に要援護老人を入所させ必要な介護等を行う場というより、入所老人の家庭の延長、生活の場であるというとらえ方をすることが必要であり、そのような観点から、居室をはじめ施設全体について家庭的な雰囲気を出すような工夫が重要である。実際にも、そのような努力はなされてきている。

しかし、老人の生活面を重視すれば、寮母等が働きにくくなるといった一面がある。たとえば、寝たきり老人等を世話する特別養護老人ホームでは、通例、居室にドアはないが、プライバシーの面からドアをつけると老人の安否を気遣いにくくなるといった面である。老人ホームは、多くの老人の世話をしなければならず老人の処遇の向上のためにも、寮母等の働きやすさといった配慮も重要であり、現実にはこのような問題に直面することがある。

こういった問題も含め、これまで、住宅等と比べ、生活の場としての老人ホームのあり方についての専門的な研究は十分ではなく、今後の研究成果に待つところが大きいが、これからの施設整備にあたっては、まさにその名の示すとおり、老人のホーム（家庭）であるといった視点が求められているのである。

（どうい　ただお　大阪府民生部社会課推進係）

メモ

ＯＴ（Occupational Therapeutist　作業療法士）

リハビリテーションの医学的手段である作業療法を、医師の指示のもとに行うもの。

一サラリーマン世帯が中心である。今世紀末の高齢化のピーク時には当事者となる年代層ではあるが、老後を考えるのはまだまだ先のことという年代層でもある。

ちなみに主婦の就業率は39.2%で、全国平均50.8%（昭和57年就業構造調査）に比べ低い。また65歳以上の高齢者同居率は12.2%で、全国平均23.7%、大阪府平均18.2%（昭和55年国勢調査）に比べ低く、年代の若い核家族世帯に偏っている。

□調査項目

高齢化に関する項目は、世帯主の定年退職を60歳として、60歳未満の世帯と60歳以上の世帯に分けて、核家族化がますます進むなかで、同居・別居の状況、老親の介護の現状、および考え方はどうなのか、さらには日常生活に影響の大きい社会保障や社会制度のあり方についても、質問した。

□調査結果

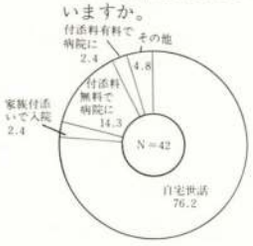
世帯主が60歳未満の世帯への質問

あなたと配偶者のご両親についてお聞きします。

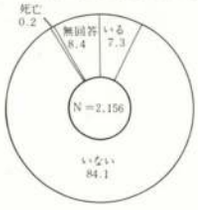
①あなたはご両親と同居なさっていますか、同居なさっている親御さんで介護を必要とする方がおられますか。



①'「介護を必要とするものがいる」とお答えの方にお聞きします。どのような介護をされていますか。



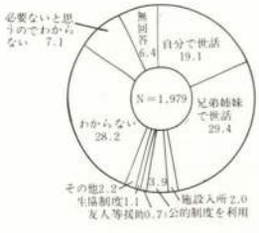
②別居している親御さんの中で介護を必要とする方がおられますか。



②'「いる」とお答えの方にお聞きします。現在どうなさっていますか。



③現在介護中以外の方にお聞きします。将来あなたのご両親が寝たっきりになって介護を必要とする場合、どうなさいますか。



13
施設は地域社会に開かれたものへ

斉藤幸子

高齢化社会において、施設は、常に意識して老齢人口に対するあるべき姿を追求することが必要である。

現在または今後の社会において、福祉の対象者は限定された人達だけでなく、すべての市民が自分達自身の問題として福祉を考えはじめている。施設の役割として、社会化がとりあげられる。施設の社会化は、地域福祉という新しい概念で変化してきている。その変化の中でとらえるべき問題である。地域福祉全体の中で、施設の発揮すべき機能は何であろうかを問いなおしていくところに、今日の施設のあるべき姿が生まれるのではないか。施設は地域福祉の中の重要な一つの部分を構成する要素としてとらえるべきであろう。

これからの福祉は、原則的には在宅処遇が中心になる。必要なときに施設を利用し、よくなれば地域社会、家庭に帰ることが、理想的な高齢化社会の姿ではないだろうか。施設は、①各種の専門家がそろっている（医師、看護婦、ケースワーカー、ヘルパー、栄養士、ＰＴ、ＯＴ等）、②専門的機具、設備がそなわっている、③人間と人間の交流の場が保持されており、集団生活の場が確保されている、等の機能をそなえていて、在宅ケア一資源として利用できるように地域社会に開かれたものになるべきであろう。また地域関係機関、住民を育てていくことに力を貸していくことが、高齢化社会における施設の役割であろうと私は思っている。

（さいとう　ゆきこ　済生会吹田特別養護老人ホーム高寿園生活指導員）

メモ

ＰＴ（Physical Therapeutist　理学療法士）

身体障害者の基本的動作能力の回復をはかるため、医師の指示のもとに理学療法を行うもの。

14
情報のネットワークを組み込む

大国美智子

高齢化社会になると困ることの一つに、ねたきり老人、痴呆性老人、ひとりぐらし病弱老人など要援護老人の介護がある。

「日本型福祉社会」として、在宅ケアが推進されようとしているが、急速に高齢化社会を迎える我が国には、地域ケアを展開できる仕組みがまだできていない。住についてみても、個々の住宅や地域全体のハード面において、老人向けの細やかな心づかいが足りない。たとえば、段差のないこと、手すりのあること、滑りすぎない床材や路面、視力や聴力の低下を補える照明や音響、車椅子が通りやすいこと、緊急時の連絡システムなど、従来からの問題点のなお一層の改善がのぞまれる。

また建物としての住居やまちばかりでなく、その中での住まい方をも含めた「まちづくり」が大きな課題となる。旧来の我が国では、大家族制や地区組織が老人問題を潜在させてきたが、それらが崩壊した後の孤立核家族では、老人を家庭内で支える力は弱く、わずかな刺戟によっても家庭崩壊が起きる。そこでは、どのような「まちづくり」が要援護老人を抱き込み得るかが課題となろう。

たとえば、徘徊し迷子になる痴呆性老人に対し、「24時間つきそって歩きなさい」と家族に強要することもできないし、鍵をかけて行動制限を強いることもためらわれる。身近な距離に「ロの字型廊下」の施設を建て、一日中迷子にならずに歩く一方、家族の面会もできるようにするとか、まちの人々が気をつけていて報せ合うとか、本人に発信源をつけておき、コントロールセンターで探知するといったようなニューメディアを利用した地域での情報ネットワークの工夫が、「まちづくり」に組み込まれる必要が生ずるであろう。

（おおくに　みちこ　近畿大学助教授・医学部）

④あなたの生活に影響の大きい老後の社会保障、社会制度、生活環境のあり方についてどのようにお考えですか。（２つの複数回答）Ｎ＝2,156

- 自分で守るけれど足りない分は社会保障をあてにしたい。そのための少々の負担は我慢する……51.0%
- 老人が安心して快適にすごせる生活環境を整備していく……39.4%
- 今住んでいる地域社会の中で安心して暮らせるよう、介護とかの老人向社会サービスのシステムをつくり出していく……27.0%
- 負担は重くなっても年金などの社会保障は充実させ、将来は安心して暮らしたい……26.1%
- 子どもたちと同居して老後をみてもらえるような生活条件をつくっていく……13.5%
- 自分の生活は自分で守るべきで社会保障はあてにしていないから、保険・年金負担はできるだけ少ない方がよい……10.4%
- その他……0.7%
- わからない……3.9%
- 無回答……27.4%

計 199.4%

④－1 主婦年代別社会保障等への考え方（２つの複数回答）　①～③は回答順位を示す

	20代 N＝210	30代 N＝1071	40代 N＝497	50代 N＝134
自分で守るけれど、足りない分は社会保障をあてにしたい。そのための少々の負担は我慢する。	①47.2%	①51.0%	①55.2%	①46.3%
老人が安心して快適にすごせる生活環境を整備していく。	②44.3	②41.6	②35.9	③32.8
今住んでいる地域社会の中で安心して暮らせるよう、介護とかの老人向社会サービスのシステムをつくり出していく。	③25.5	③26.9	③28.3	29.1
負担は重くなっても年金などの社会保障は充実させ、将来は安心して暮らしたい。	22.6	24.6	28.1	②34.3
子どもたちと同居して老後をみてもらえるような生活条件をつくっていく。	10.8	11.3	18.1	20.1
自分の生活は自分で守るべきで社会保障はあてにしていないから、保険・年金負担はできるだけ少ない方がよい。	10.8	11.6	9.0	8.2
その他	2.4	0.6	0.6	0.7
わからない	6.6	4.2	2.4	1.5
無回答	28.8	28.0	22.5	24.6
計	199.0%	199.8%	200.0%	197.6%

15
欧米の高齢者対策から感じること

児玉桂子

欧米の老年学者は、先進国で顕著な人口の高齢化現象を寿命革命と呼び、現代社会のさまざまな面への挑戦であると深刻に受けとめている。今世紀人類の平均寿命は25歳伸びたが、これまでは5000年の年月を必要としたことを、たった一世紀で実現したわけである。

その結果、高齢者といえども、できる限り依存しない自立した社会生活を営むことが重要になってきた。しかしヨーロッパのように成長の止まった社会では、もうパイを大きくすることはできず、停年制を60歳から55歳へと引き下げたり、若年男性、社会進出めざましい女性、そして高齢者がジョブシェアリングをする動きも出てきている。一方、アメリカのように成長する社会では、停年制を70歳からやがて撤廃へと向け、高齢者の社会的活躍の機会を保障しようとしている。

経済成長の可能性からみれば、日本はアメリカ型社会である。社会構造を柔軟にし、高齢者の自立と社会的活躍を進めていくべきである。

生活環境整備の面では、たとえば6畳一間を増築するような老人室整備資金援助などケチなことはやめにして、成人に達した大人には、玄関・便所・浴室・台所・居室がワンセットある住戸が必要である。子供の数の減少により、同居困難な高齢者の増加も確かである。現在は、地域の一般住宅と老人ホームとの間の、建築条件・生活の各種条件の格差が大きい。将来は、高齢者に必要な一定水準の居住条件を備えた一般住宅・高齢者用集合住宅・老人ホーム等多様な居住形態を用意して、高齢者が同居にしがみつくことなく、自分で堂々と自由な選択が可能になることが望まれる。

21世紀が高齢者等要援護人口の増加により、低福祉・低医療の時代とならぬよう、もっともっと知恵を絞っていきたいものである。

（こだま　けいこ　東京都老人総合研究所研究員）

16
医療と福祉の狭間から

辻野純徳

1971年、訪れたナッカ老人病院（スエーデン）は、ニュータウンの中心部ショッピングセンターに並び、買い物ついでに見舞う家族や老人の生活に便利で、その第一の見所は霊安室であった。

1973年の老人医療法の無料化以来、国民医療費は4倍、うち老人医療費は6倍20%と急増（ＧＮＰは 2.5倍）、老人は病院のよいお客様となった。点滴づけ、おむつづけ、ベッドに寝さしたサービスは金になるが、回復をめざしての点滴より介助しての食事、おむつの不要な看護をと、人力をつかっての積極的な Care は金にならない。したがって採算効率のよい収容施設としての老人病院が、地価の安い大都市周辺部に急増、家庭からはみ出た老人の恰好の居住の場となった。しかし、昭和58年2月に老人保健法が、医療から福祉までのトータルな見通しのないまま高騰する医療費抑制策の一環として施行され、一転不採算化した老人医療は、老人の行き場を塞いだ。

老人福祉としての特別養護老人ホームは、'84年3月11万床（ 9.5床／人口1万）をこえ、それに過剰とされる病院の140万床（120.5床／人口1万）を加えると、人口万当たり130床、ノルウェーの142床（うちナーシングホーム60床―'77）、米の128床（うちナーシングホーム64床―'77）と大差がない。削減より、医療と福祉の枠をはずした再編成が必要である。

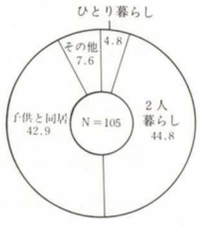
近年、病院建築は病院管理学の進歩とあいまって、著しい質の向上をみた。そこで、Care（看護）とCare(治療)が論じ研究された。一方、特別養護老人ホームや高齢者マンションなどの需要も活発であるが、高齢者のライフサイクル（ＡＤＬの低下や痴呆を含めた）と Care、施設との関係の研究は未だ十分でない。医療と福祉の枠をはずした研究からスタートすべきであろう。

（つじの　よしのり　株式会社浦辺建築事務所）

世帯主が60歳以上の世帯への質問

①あなたは今どうなさっていますか。 N＝51

「ひとり暮らし、配偶者と2人だけの暮らし」とお答えの方にお聞きします。将来、お子さんと同居される予定がありますか。



▼

- 元気なうちは同居するつもりはない……41.2%
- 子供はいるが同居するつもりはない……25.5%
- ひとりになったら同居するつもり……25.5%
- 将来同居する予定である……25.5%
- 子供がいないのでこのままの状態…… 9.8%
- 子供はいるが遠く離れていたりで同居できない… 7.8%
- 一緒に住める住宅が整えば同居したい…… 3.9%
- 将来は老人ホームに入る予定である…… 2.0%
- その他…… 5.9%
- 無回答…… 5.9%

計 153.0%

②現在の生活の中で何か心掛けていることがありますか。（２つまでの複数回答）N＝105

- 健康でありたいと気をつけている……77.6%
- 家族やまわりの友人・隣人との人間関係をよくしようと努めている……39.7%
- 趣味や文化活動などを通じて生きがいをもつよう努めている……27.6%
- 健康である限り働き続けたいと思っている…16.4%
- 将来の生活費や病気になった時の費用、葬式費用などのため蓄えをしている……11.2%
- 生協運動を通じて社会との関わりをもちたいと努めている…… 1.7%
- その他…… 1.7%
- 特に考えていない…… 1.7%
- 無回答…… 9.5%

③あなたは毎日の生活の中で不満や不安に思っていることがありますか。（３つまでの複数回答）N＝105

- とり立てて不満・不安はない……47.3%
- 貯えが目減りしていく……19.6%
- 病気になって家族に世話ばかりかけ負担になるのではないか……13.4%
- 病気がちである……11.6%
- つれ合いに先だたれ、ひとり残されたらどうしようかと思う…… 9.8%
- 気がねなく入れる老人ホームなどの施設が手近にない…… 8.9%
- 医療費がかさむ…… 6.3%
- 自分にあった社会的役割がない…… 5.4%
- 現在失業中で適当な就職先がない…… 3.6%
- 病気になっても世話をしてくれる人がいない 3.6%
- 体が不自由になってきて身のまわりのことも思うようにできない…… 3.6%
- 話し相手がおらず、ひとりっきりになってしまったように感じる…… 3.6%
- 収入が十分でない。収入がとだえてしまう… 2.7%
- 定年後の就職先がみつかるかどうか…… 2.7%
- その他…… 2.7%
- 無回答…… 3.6%

計 148.4%

④あなたの生活に影響の大きい社会保障、社会制度、生活環境のあり方についてどのようにお考えですか。
（２つの複数回答）Ｎ＝105

- 年金をもっと拡充すべきだ……37.9%
- できる限り老後のために自衛してきたが、限界がきている。もっと社会保障を充実すべきだ……24.1%
- 今住んでいる地域社会の中で安心して暮らせるよう、介護や給食などの社会サービスのシステムをつくるよう働きかけたい……23.3%
- これまでがんばって働いてきたのだから全面的に社会保障されるべきだ……20.7%
- 老人ホーム等、老人施設をもっと充実すべきだ……14.7%
- 子どもたちと同居して老後をみてもらえるよう、子供に相談する……13.8%
- 老後のため自衛してきたので社会保障はあてにしていない……12.9%
- その他……1.7%
- わからない……2.6%
- 無回答……47.4%

計 199.1%

〈世帯主が60歳未満の世帯〉

●今回対象世帯の多くが核家族であることがあきらかになっているが、世帯主が60歳未満の2156世帯のうち、対象者もしくは配偶者いずれか一方が、老親の年齢にかかわらず同居する世帯は432世帯20%であった。そのうちの10分の１の43世帯の家庭が、介護を必要とする老親と同居している。介護を必要とする老親を自宅で介護する世帯は76.2%と多く、病院へ入院させているのはの19.1%である。

●また別居している老親で介護を必要とする世帯は157世帯、7.3%である。うち無回答の４世帯をのぞいた 153世帯は別居している老親の介護をどうしているかというと、「離れていて何もしてやれない」28.1%、次いで「経済的援助をしている」22.9%、「兄弟姉妹で分担して介護をする」11.8%となっている。

少数ではあるが、老親と同居し、自宅で介護する、あるいは別居する老親をも兄弟姉妹で助け合って介護する現状が伺える。

●今回対象者の多くはまだ「老後のくらし」の問題を現実のものとはしていないが、将来避けて通ることのできない老親の介護について質問した。

３割弱の人は「まだ先のことでわからない」28.2%である。「自分で世話をする」19.1%、「兄弟姉妹で世話をする」29.4%であり、あわせて家庭内で介護をしたいという人は48.5%、５割弱である。社会制度を利用して解決していきたいと考える人は１割である。現状の社会制度やシステムでは頼りにすることもできないことを反映している。にもまして、５割近くの人は老親と同居し、兄弟姉妹の手を借りて老親を看とりたいと考えている。

●さらに加えて対象者自身の「老後のくらし」について、質問した。半数の人が「自分で守るけれども、少々の負担はがまんするので足りない分は社会保障で」と考えており、自衛を第一としつつも、社会保障制度に期待している。とりわけ20～30代の人は生活をとりまく環境そのものを変えていこうと志向しているが、40～50代と年代が高くなるにつれ、年金の充実など、より具体的な問題をあげており、「老後のくらし」に対して切実な関心を示していることが伺える。

●世帯主が60歳未満の世帯の多数は核家族世帯である。しかし、老親の介護が必要となったら、同居し、自宅で世話をしたい、兄弟姉妹で助けあってと考えている。それは少数ではあるが、老親の介護中の43世帯の現状にも、示唆されている。

〈世帯主が60歳以上の世帯〉

●調査対象者の中で世帯主が60歳以上の世帯は105世帯と少ない。そのうち単身もしくは夫婦のみの世帯は49.6%５割弱である。65歳以上の単身もしくは夫婦のみの世帯は、昭和55年国勢調査では全国平均26.1%、大阪府平均は33.5%である。今回調査では60歳以上であるものの高齢核家族世帯49.6%は大阪府平均を上回る高い率と予想される。

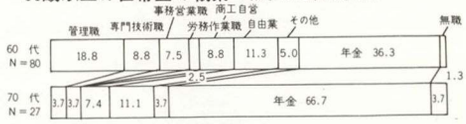
●３割弱は将来も子どもと同居することをまったく考えていない。しかし残りの７割強は「元気なうちは同居するつもりはない」「ひとりになったら同居するつもり」となっており、家族に看とられたいという人が多い結果となっている。

●日常生活で心掛けることは８割弱の人が「健康であること」と答えている。現状に対する不安や不満では「貯えの目減り」「医療費がかさむ」という経済的問題、「病気がちである」「病気になって世話で負担をかけるのでは」という健康および介護の問題があがっている。また「つれあいに先だたれたらどうしよう」「適当な老人施設がない」という不安不満もあがっている。

●一方では「とりたてて不安や不満がない」という人が半数近くを占めている。安定した老後のスタートをきった人たちではと想像されるが、反面、社会保障のあり方に対しては、複数回答ながら、回答総数の６割は「年金の拡充を」「自衛しかねるので社会保障の充実を」という要望である。

●ちなみに60歳以上の世帯主の職業は、60歳代の４割弱が年金受給者、次いで管理職サラリーマン２割、医師など自由業１割で、さらに自営業、一般サラリーマンと続く。70歳代では７割弱が年金受給者で、１割強が自由業、さらに自営業である。現状では年金への依存度が高い。年金を主軸に「働くこと」で補完するなど経済的基盤の充実が望まれている。

60歳以上の世帯主の職業　数字は比率%を示す



●世帯主が60代以上の世帯は５割弱が単身もしくは夫婦のみの高齢核家族世帯である。「子供と同居」の世帯にも一部未婚で世帯分離していない層も含まれるため、高齢核家族世帯率はさらに高いものと推測される。現状は別居世帯が多いが、健康を害したり、つれあいに先だたれたときは同居したいと考えている。

□調査をまとめて

伝統的な家族制度のもとでは、子どもは老親と同居し、「嫁」が老親の介護をすることが当然のこととされ、「老後」の問題は個々の家庭内で解決されてきた。しかしながら、このような家族制度も都市化の進展とともに崩れ、核家族が増大し、核家族が家族の基本単位となっている。全世帯に占める核家族世帯は大阪府87.2%である。（昭和55年国勢調査）

核家族化に加え、住宅事情や主婦をとりまく生活条件や環境の変化等もからんで、「老後のくらし」を家庭内で解決することは困難なこととなりつつあるのが現状である。調査対象者の多くを占める、30代を中心とする生協組合員の主婦は、老後の生活基盤を自らの手でつくりたいと考えているが、個人の力では限りがあるので、社会保障制度によるバックアップを切望している。そのための少々の負担はがまんすると考えている。

個々の自立を促しつつ、自立をバックアップするシステムづくりが望まれている。家庭機能の一部の社会化を近隣地域社会の中ではかることも考えなければならない。商品の共同購入を通じて、地域コミュニティ活動をになう生活協同組合が、高齢化社会の到来を見込んで、このような領域をも視野に入れようとしている。

ライフサイクルは「人生50年」から「人生80年」へと変化していく。その変化に対応できる新しい社会システムを構築していかなければならない。広範な論議が待たれる。

まとめ：**杉本章子**（都市生活研究所）

高齢者を対象とした生活空間の事例

今後の高齢化社会における生活空間のあり方を求める際に、まず私たちは、現時点までにみられる高齢者を対象とした生活空間の実情に着目する必要があるだろう。

高齢者の生活空間としては、〝住宅〟のみならず、いわゆる〝施設〟と称されている「老人ホーム」が、代名詞のように言われてきた。「老人ホーム」には、老人の福祉(幸せ)を図る目的で昭和38年に制定された老人福祉法によって、特殊なハンディキャップをもつ老人を対象とする措置施設としての養護老人ホームや特別養護老人ホームと、一般の老人が低廉な費用で利用できる契約施設としての軽費老人ホームA型、B型などがあるほか、社会福祉施設以外の老人ホームとしての有料老人ホームがある。

これらの「老人ホーム」については、事例も多く、内容に関する資料も多いので本事例では割愛することとしたい。そこで、私たちは高齢者を対象とした生活空間のあり方として、いわゆる〝施設〟に定義されない領域において試みられている事例について紹介することとした。

すなわち高齢者の〝住宅〟空間として個々の家族のケアに依存するのではなく、高齢者自身の自立的生活を展開するコミュニティ、あるいは程度の差異はあるが多少のケアを施すシステムを備えたコミュニティの事例である。その形態としては、いわゆるアパート、マンション形式になった集合体から、ある地域に病院を核として分散する形式のもの、さらに一つのタウンとしてまとまってコミュニティを形成するアメリカの事例も含まれている。

そしてさらに、今回の事例紹介の趣旨から多少はずれるが、いわゆる老人ホームという〝施設〟でなく、地域のコミュニティセンターとして、複合化された施設（老人福祉センター＋公民館＋図書館＋運動広場）として、計画された事例も紹介してみたい。これは、高齢者を特殊な階層として社会から隔離するのではなく、より社会の中へインテグレーション（統合化）していく実験としての意味をもつからである。今後の高齢化社会の問題は単に高齢者の問題というより、高齢者をとりまくすべての人々の問題であるという点が指摘される方向に対応しているといえよう。

さらに私たちは、事例としてはやや古いが、いわゆる〝施設〟の群よりなる四天王寺悲田院の例をあえて取り上げてみた。この事例においても従来の施設のもつ排他性を乗りこえて、地域とともに生きづくコミュニティ空間の創出に努力する姿をみることができるからである。

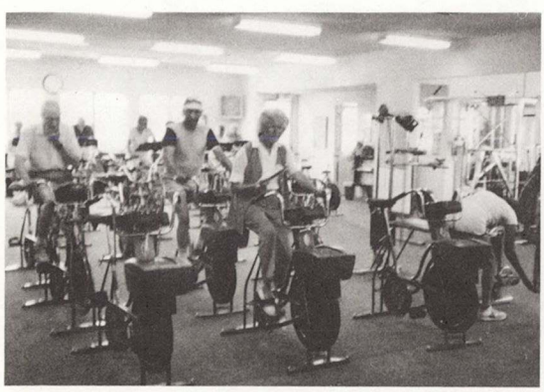
そして、今回、比較的事例数も多いのが、民間のケア付き有料マンションである。事業として、かなり大規模に各地域の立地特性等を考慮した生活空間を提供しているものである。このような生活空間を享受できる高齢者は経済的に自立能力の高い階層であるともいえるが、従来の家族体制にとらわれず自立を志向する高齢者に対し、すぐれた居住空間と高水準のケア—環境を提供していく方向は、今後の一つのあり方を示すものではないかと思われる。また同様のマンションでありながら、地方自治体という公共側より、この方向を実験しつつある神戸市の事例も紹介してみた。

以上、事例として数ある中で私たちの取り上げたものはごく一部にすぎない。

今後の高齢者を対象とした、いや高齢者をとりまく生活空間のあり方を探る上で、私たちは多くのメニューを用意すべきである。そしてそのメニューは単なるハード面ではなく、ソフト面もからませて考えてゆくべきであろう。今後、広範な方々の協力のもとに〝住宅〟と〝施設〟の境界を充実させることも大切である。

最後に、今回の事例紹介に際し、貴重な資料提供やご協力をいただいた各施設関係者の皆様に厚く感謝する次第である。

（文責・田中直人）







ゆうゆうの里―神戸ゆうゆうの里、大阪ゆうゆうの里―　1・2

●神戸ゆうゆうの里
所在地　神戸市北区鳴子３－２
開設年　昭和58年９月13日
交　通　神戸電鉄粟生線西鈴蘭台駅より徒歩10分
入居方式　終身利用権
入居条件　・60歳以上、夫婦は一方が60歳以上
・契約時に身の回りのことが自分でできること
・寝たきり状態、過去に精神障害のあった人は不可
総戸数　291戸（専用住居面積32.2㎡～64.4㎡）
共用施設　有床診療所、大食堂、大浴場、集会室、談話室、図書室、ホビールーム、外来者宿泊室、ゲートボール場、菜園、花園その他
設計施工　東急建設
規　模　ＲＣ造　５階
敷地面積80,773㎡　延床面積22,589㎡

●大阪ゆうゆうの里
所在地　大阪府守口市河原町
開設年　昭和60年10月予定
交　通　京阪電鉄守口市駅より徒歩２分／地下鉄谷町線守口駅より徒歩７分
入居方式　終身利用権
入居条件　・60歳以上、夫婦は一方が60歳以上
・契約時に身の回りのことが自分でできること
・寝たきり状態や精神障害があり共同生活を営めない人は不可
総戸数　172戸（専用住居面積29.3～68.1㎡）
共用施設　有床診療所、大食堂、大浴場、集会室、談話室、外来者宿泊室、洗濯室、庭園ほか
設計監理　久米建築事務所
施　工　鹿島建設・大林組共同企業体
規　模　ＳＲＣ造　12階　延床面積12,583㎡
（再開発ビルの３階はゆうゆうの里共用施設、５～12階が専用住居）

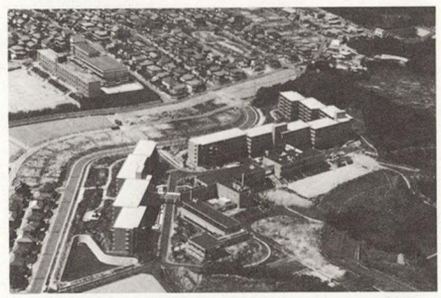
経済的に自立能力のある高齢者に良質の居住空間と高水準のケアー環境を提供すべく、㈱日本老人福祉財団が厚生省年金局より設立認可されたのは、福祉元年といわれた昭和48年12月であった。以後10年間、当財団は〝平均的退職金で入居可能で、年金の枠内で生活できる生活環境創り〟をスローガンに、公的融資の活用と受益者負担を前提としつつ〈ゆうゆうの里〉設置運営事業を推進し、合わせて有料老人ホームに関する各種調査研究を行ってきた。

〈ゆうゆうの里〉設置に当たって財団が標榜した原則的思想は、①救済型福祉より自立、共助福祉へ、②収容型施設よりコミュニティー施設へ、③私的所有空間より共同所有空間へ、④物的、機能的建築建設より総合的生活環境創造へ、といったものである。この思想の背景にあるものは、現状の水準における家族、宗教、国家、要するに幻想共同体内の人間関係の崩壊とそれに伴う伝統的な相続―扶養構造の行き詰まりに対する徹底的な反省であった。人は関係の元に生まれ、関係を背負いながら労働し、関係の内で老い死んでいく。このあまりにも当たり前な自然過程を復権し、自立を志向する老人に対し家族―国家に代わる豊かな人間関係と、開放された社会空間が準備され、新たな扶養―相続システムが確立されねばならぬというわけである。

以上の思想を背景とし、財団は過去10年、従来の弱者救済型福祉施設と営利的老人マンション施設の双方を批判しつつ、一歩一歩手探りで〈ゆうゆうの里〉建設を行い、平行して、より困難な課題としてのコミュニティー運営に試行錯誤を重ねてきている。

第一号実験プロジェクトとしての浜松施設は完成後８年、第二号の伊豆高原は５年経過し、その苛烈なる運営の実績を通してすでに70数名の入居者を天国に送った。働く者たちと、生活する者たちの心のうちに、コミュニティーのイメージが少しずつ暗示され始めてはいるが、「死は類の個に対する冷酷な勝利のごとく表現される」現実はいささかも変わっていない。同時代を共に生きる者同士が助け合い、笑いのなかで個としての生を全うする、そのような共同体を創る作業は本当に今からなのである。

神戸〈ゆうゆうの里〉は浜松、伊豆高原の実績を踏まえながら、関西在住の高齢者を対象として建設された財団の三番目のプロジェクトであった。地価の高い都市近郊地域に、低額でしかも高水準の施設を建設することは、一般にきわめて困難であるが、行政当局の適切な協力による市街化調整区域の一部使用並びに290ユニット規模によるスケールメリットによって、ほぼ従来の入居金、管理費水準を維持することが可能となった。



マスタープランは、都市計画的側面より大きく制約を受けたため、必要以上に明解なものとなったが、調整区域側に構内道路にそって展開する各種の共用施設はその規模、機能において、財団の思想を十分表現し得る内容を持つものとなった。

大阪〈ゆうゆうの里〉は財団による第五番目の施設で、都市型コミュニティーを指向する初めての試みである。確かに都市部は地価も高いし、自然環境も好ましいものではない。だがそれは現状の社会制度がもたらす人為的悪の問題であって、社会的弱者としての老人を追い立てる理由とはなり得ない。都市で生活し、仕事し、老いていった人々を、それまでの人間関係と文化風土より切り離し、他に移植させることは、たとえそれが風光明媚な場所であっても社会的暴力に違いないのである。老人を都市の人間関係よりはじき飛ばす代わりに、都市そのものをコミュニティー化しなければならない。都市空間の再開発という課題は、本質的に老人問題という人間の再開発に結びつく必要があるのである。



以上のような観点より、財団は守口市行政当局との深い協力関係のもとに、高齢化社会における一つの都市モデルの作成と、高層高密度老人コミュニティーの創造に着手したのである。

大部分の共用施設を３階に集中させ、機能的合理化を計っているが、これは当該建物の外部に、より広い共用施設としての地域コミュニティー空間が設定されており、入居者一人一人は地域社会の無名の一員として自由にそこに参加できるという大前提があって初めて可能なものである。

当コミュニティーの試みが現在都市に生きる高齢者の潜在的ニードに十分答え得るものであるかどうかは今後の募集結果を見なければ不明であるが、少なくとも今後の老人福祉施設のあり方に一つの方向を与えるものであるのは確かなことである。

（村山宏治／財団法人日本老人福祉財団計画部長）

サン舞子マンション　3

所 在 地　神戸市垂水区五色山７丁目12番38号
開 設 年　昭和59年５月１日
交　　通　国鉄舞子駅・徒歩15分／山陽電鉄霞が丘駅・徒歩５分
入居方式　入会金方式（利用権）
入居条件　・満60歳以上
　　・健康で独立して生活できること
戸　　数　120戸
共用施設　食堂、健康管理室、浴室、大広間、娯楽室、和室、洗濯室等
設　　計　環境再開発研究所
施　　工　明和・大木・林共同企業体
規　　模　ＲＣ造一部Ｓ造　地上３階一部４階
　　延床面積　8,838㎡

公的団体が直接関与した全国初の有料老人ホームとして、注目を浴びている「サン舞子マンション」は、単に倒産の心配がないというだけでなく、老人マンション固有のサービスの面においても公的団体ならでは、の特徴を持っている。

まず、食事の提供は、専門の給食業者に任せ、決まり切った献立の定食方式ではなく、いくつかのメニューの中から自由に選択できるカフェテリア方式を採用して、一日1,100円以内でしかも自分の好みにあった食事ができると入居者から好評を博している。

つぎに、健康管理面においてもマンション周辺に一般の診療所が多いという地の利を生かし、地元医師会の協力を得て地域ぐるみの健康管理体制をとっていることである。つまり、マンションの健康管理室で定期的に内科・外科・耳鼻科・眼科・婦人科の医師が健康相談・健康指導を行い、病気になった場合は、適当な医師を紹介し、通院または往診により治療にあたる。また、入院加療が必要なときは区内の病院にベッドを確保することとなっている。

高齢者の大きな不安の一つに、自分で自分の身の回りのことができなくなったときどうするかという心配があるが、そのようなケースに対応するため家庭婦人を中心としたボランティア組織に依頼し入居者も会員となって、いざというときに掃除・洗濯から入浴・排せつの介助まで心のこもった介護サービスがわずかな利用料で受けられる態勢が整っている。

「終身介護」を唄い文句にしていないため、一部に「サン舞子マンションに入ると、ねたきりになったら追い出される」といった誤った世評が流れているようだが、決してそんなことはなく、むしろ以上述べたように入居者の経済的負担を最小限度に押さえかつ質の高いサービスが提供できるシステムができたのではないかと自負している。（木下敏郎／財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課長）





サン舞子マンションのパースと現況



ＶＩＶＩ有馬　4

所 在 地　神戸市北区有馬町石倉406－３
開 設 年　昭和59年３月
交　　通　神戸電鉄有馬温泉駅より徒歩５分
入居方式　・健康施設つきメンバーズホテル（利用権）
　　・健康施設つき分譲マンション（所有権）
総 戸 数　・メンバーズホテル（２階～５階）90室
　　・分譲マンション（２階～７階）48戸
共用施設　浴室、トレーニングルーム、物療室、大宴会場、バー、娯楽室、麻雀室、会議室、レストラン
設計施工　竹中工務店
規　　模　ＲＣ造　地下１階、地上７階
　　敷地面積 5,111.13㎡　延床面積 10,945.27㎡

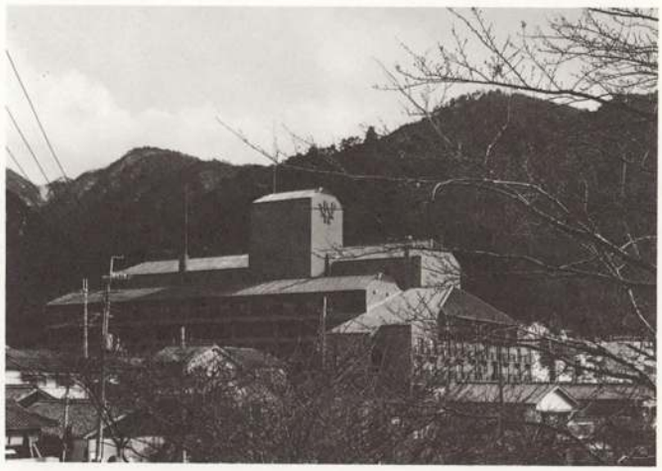
近年、わが国では「高齢化社会」が論議の的となり、社会的ニーズも大きく変化してきている。当社では、こうした情勢に適した新規事業を展開するために、調査研究を続けてきたが、「高齢化社会」の担い手である熟年世代を対象とした新しい事業として、阪神間の奥座敷といわれる名湯・有馬の地に健康施設付きの分譲マンション・会員制ホテル〝ＶＩＶＩ有馬〟を建設し、今年３月オープンした。

職場であるいは家庭で中心となって活躍する熟年世代の、もっとも関心のあるところは「健康」である。働きざかりが見舞われるストレスの増大、運動不足、また栄養過多という健康を阻害し成人病の原因となる環境に置かれている熟年世代は、その多くが半健康、未病の状態であり、その健康増進に寄与する事業展開こそ、もっとも時代のニーズに合ったものとして〝ＶＩＶＩ有馬〟を具体化させたわけである。

ＶＩＶＩ有馬は単なるリゾート・ホテルではなく、そこには、日本古来の湯治を現代に生かした７種類の多目的天然ラドン泉大浴場をはじめ、ＳＳＰ療治室（疼痛治療・自律神経失調症の治療、大阪医大より施術士が常駐）、健康増進のためのトレーニングルーム（指導員が常駐）などの充実した施設を完備している。それは、熟年世代のための保養施設であり、健康増進のためのトレーニング施設である。

ロングステイを希望する人のためには分譲マンション、ショートステイで気軽に利用する人のためには会員制ホテルという二つの形式を採用したのも、都市近郊という地の利と合わせて、より幅広い層にアピールすることを狙いとしたものである。

（鳴谷正浩／新栄開発株式会社専務取締役）



中銀ライフケア熱海〔梅園台〕16号館　5

所 在 地　静岡県熱海市熱海1812－282
開 設 年　昭和58年４月
交　　通　熱海駅より車で約８分（４km）、熱海駅よりバス21分・伊東線来の宮駅よりバス８分、相の原入口下車徒歩１分
入居方式　分譲方式
入居条件　55歳以上、健康状態の通常な方
ライフケア施設　温泉大浴室（男・女）、大食堂、茶室、ランドリールーム、乾燥室、ビリヤード室、手芸工作室、図書室、健康管理室、売店、ロビー、小会議室、体操室兼集会室、陶芸室、予備室、他
総 戸 数　294戸（住居専有面積44.37㎡～57.39㎡）
設計施工　安藤建設
規　　模　ＳＲＣ造　地上14階、塔屋２階
敷地面積 18,877.27㎡、延床面積 21,945.49㎡

中銀ライフケアは、中高年齢者のための健康管理付き専用住宅であり、分譲方式（土地・建物の区分所有権）で提供される。長寿はわが国でも永年の願いであったが、その願いがほぼ達成された今日、永い退職後の生活をいかにハッピーに暮らせるかが最大のテーマとなってきた。安心な老後・豊かな老後を、立地的にも恵まれたわが国の代表的な保養地〝熱海〟において実現してもらうための専用コミュニティでもある。

中銀ライフケアは、中銀マンシオン（株）が企画・募集し、管理運営はグループの（株）中銀ライフケアが担当する。健康管理は熱海医師会の協力により日常の医療ケア外に緊急時の受け入れ体制が用意されている。入居者は区分所有権者ないしその関係者で構成され、その生活は自主的に行われる。健康管理や日常のケア運営は管理会社により実施されている。円満な管理運営を計るために、各居室の設計条件は基本的に一定させ、居室の面積や各住条件が著しく異なることなきよう配慮している。

老後のコミュニティ施設は、何よりもその運営維持が安定していなければならず、その運営費収入が基本的に安定するのが分譲方式の大きな特色の一つである。また現在静岡県熱海市において８施設1500戸の運営規模により規模の利益を計り、入居者に経済的な費用負担で、明るく充実した生活を送っていただけることを目標にしている。　（木下幹郎／中銀マンシオン株式会社第一営業部長）



逗子ヘルス・ケア・マンション　6

所 在 地　神奈川県逗子市小坪３－２－１
開 設 年　昭和59年３月１日
交　　通　国鉄横須賀線逗子駅下車バス13分
入居方式　分譲
入居条件　・満45歳以上で、心身とも健康な方
・管理費、食費等毎月の経費を支払える方
・管理委託およびヘルス・ケア契約を締結できる方
戸　　数　分譲部分204戸（住居専有面積41.48～76.14㎡）、ゲストルーム３戸
共有施設　エントランスホール、体育室、大浴室、健康相談室、食堂、和室、会議室、工作室、サークル室等共有スペースは全体の45％
クリニック　診察室、処置室、検査室、Ｘ線室、特浴室、理学療法室、病床ほか
設計監理　国建築事務所
施　　工　鹿島建設
規　　模　ＲＣ造　５階　３棟
敷地面積　マンション部分13,480㎡、　クリニック部分800㎡
延床面積　マンション部分17,862.32㎡、クリニック部分1,267.11㎡

高齢化時代の一つのあり方として、これまでの、子供や国・福祉に頼る、面倒をみてもらう姿勢から、自分のこれからの人生を実り豊かなものにしたいという積極的な生き方を求めている方々のために、熟年から生涯にわたり安心して快適に暮らせる環境や施設づくりを目指しているのがヘルス・ケアであり、その条件として、われわれは、つぎのことを提唱している。

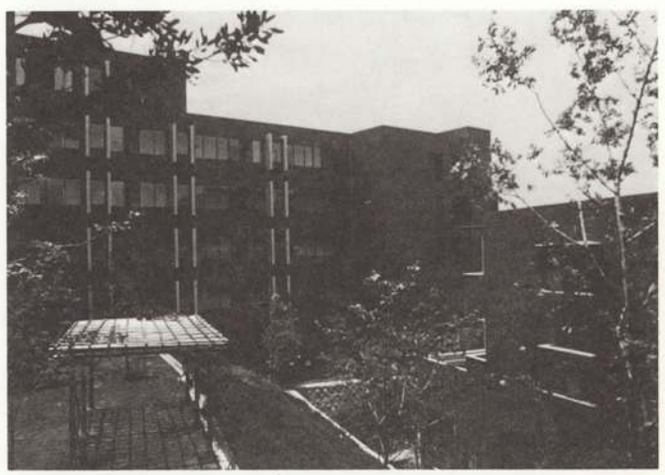
① 恵まれた環境の中に、家族や友人ともあまり離れていない場所にあること。
② 医・食・住が完備され、生活に安心であること。
③ 地域社会との交流が保たれていること。
④ 軽いスポーツが楽しめる場所が確保されていること。

とくに中高年齢者においては、日常の健康管理は重要かつ不可欠のものである。逗子ヘルス・ケア・クリニックでは、同一敷地に病床を持つクリニックを併設し、生涯にわたり充実した体制をとっているのが特徴である。

また現役の中高齢者には、充実した日常生活の場として、落ちついた雰囲気と、高級感が漂う中に贅沢さえも感じさせるよう、全体の空間をまとめている。個々の生活の場所である住戸については、プライバシーが十分確保されているのは言うまでもない。

安全管理については、経験と最新の機器を導入駆使し、24時間体制を敷いている。

今後確実に増え続けるであろう高齢者に、充実した環境と医療が一体となった住まいを提供するのが、建築や医療に携わる者の責任と課題と思う。　（清水幸治／ヘルス・ケア株式会社取締役事業部長）



ライフイン京都　7

所在地　京都市西京区山田平尾町46
開設年　昭和61年春頃
交　通　阪急桂駅より徒歩15～20分
入居方式　生涯利用権
入居条件　・満年齢55歳以上
・入居時に身の回りのことが自分でできる健康な人
・共同生活が円満にできると財団が判断した人
戸　数　228戸(住居専有面積31.19～85.56㎡)
共用施設　ロビー、ラウンジ、企画室、ナースセンター、医務室、介護室、特殊浴室、フロント、ゲストルーム、多目的ホール、レストラン、カルチャー教室、アトリエ、オーディオルーム、その他
設計監理　若林広幸建築研究所
施　工　熊谷組・大林組・青木建設共同企業体
規　模　ＳＲＣ造　地上７階建12層
敷地面積23,800 ㎡　延床面積16,013.77㎡

京都ライフ・クリエイト事業団が計画しているシニアを対象としたホテル感覚の住居は、社会福祉法人京都桂病院（666床)の敷地の中に建設されるもので、苦節の人生を歩み続け、繁栄の日本を築きあげてきた熟年の方々に、健康と活気に満ちた場を提供するものである。高齢化時代に入り自らも活動的な自立が明確になり、そして子供には社会に対する親孝行を願い、自分のことは自分でやってゆくという考え方また生き方をされる熟年者のための施設である。

誰しも個人の中には、肉体的・精神的に老いの部分と誰にも負けない若い部分とが共存しているものであり、個々それぞれに持ち合わせている「自信と若さ」を持ち続けられる環境を創り上げてゆくことが念願である。この目標を達成することは容易なことではないが、少しでも前進できる条件として、つぎなることの実施を考えている。

①都市型で、就労やボランティアを含めた社会活動の行いやすい交通至便の地であること。

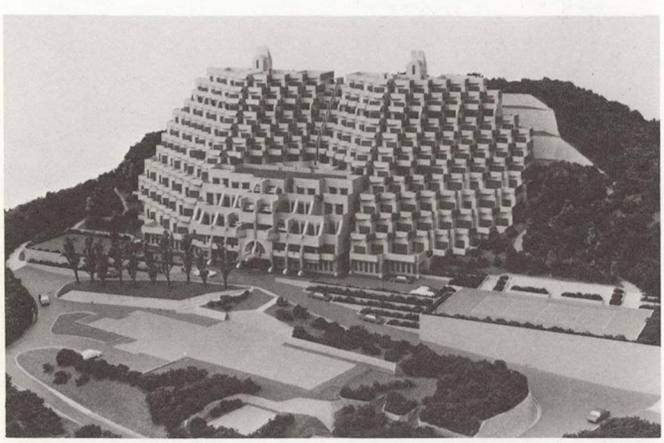
②管理された上でお膳立ての揃った「生きがい」施設でなく、十分に広い多用な共用ゾーンを設け、入居者の自立的で積極的な運用および活動を自由に行っていただくこと。

③入居者の経験・知恵・知識・技術が活かされるクラブ活動や円熟人材センターを併設し、自治的な形で運営されること。

これら入居者の自主性と創造性を尊重した「ライフイン京都」として運用にあたりたい。

この建物は、ヨーロッパのリゾートホテルを感じさせるもので、あらゆる年代層がこの建物を訪れ、地域社会に密着したコミュニティが生まれることが念願である。

（小林健士／財団法人京都ライフ・クリエイト事業団専務理事）



熱海ゆとりあの郷　8

所在地　静岡県熱海市熱海字銀山1783-2、1784-2、7、8、10
開設年　昭和60年３月予定
交　通　東海道本線および新幹線熱海駅より車で15分
入居方式　終身利用権
入居条件　・60歳以上、夫婦は一方が60歳以上
・入居時に身の回りのことが自分でできる人
・将来の管理費や食費を滞りなく払えること
総戸数　295戸（住居専用面積37.50～61.80㎡）募集戸数280戸
共用施設　クアハウス(多目的保養温泉館)、トレーニングルーム、健康管理センター、ラウンジ、大食堂、図書室、ホビールーム、ゲートボール場ほか
設計監理　協和建築設計事務所
施　工　熊谷組
規　模　ＲＣ造　地上４階～５階一部地下２階　５棟
敷地面積18,542.48㎡　延床面積21,365.52㎡

有料老人ホームが新しい観点から、いま脚光をあびつつある。しかしその実体は、ハードウェア、ソフトウェア両面で多くの問題を内包しており、ここ５年ないし10年は試行錯誤を重ねていかなければならないだろう。

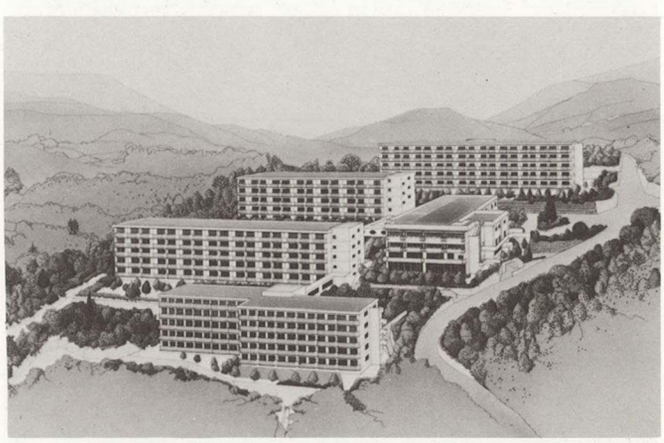
〈熱海ゆとりあの郷〉は、利用権方式による有料老人ホームである。日本人の特性である財産所有を優先するか、入居後のサービス（たとえば、寝たきりなどの無料介護）を重視するかによって、施設の運営形態は定まるが、社会福祉法人黎明会が後者を選択したのは、これからの老人のニーズが、不動産の所有ではなくて、サービスにあると考えるからである。

この事業は、いまだ未開拓の分野だけに、今後さまざまなタイプのものが建設されるであろうと予測され、したがってユーザーは自己の社会的、経済的地位や能力によって施設の選択が容易に可能となるはずである。

現在の有料老人ホームに対しては、一部の限られた有産階級だけのものといった批判もあるが、これはとりもなおさず、旧来のイメージの暗い老人ホームに対するアレルギーのあらわれでもあるわけで、今後、相当の自己負担を覚悟のうえで、よりましな老人ホームに入りたいとするユーザーは、高齢化社会の進行とともに増大の一途をたどるであろうと思われる。

将来の経済変動に一抹の不安を抱きつつも、現今の高齢者は、所得面で比較的恵まれているといえ、彼らがその安定した経済的基盤をもとに自立志向を強めていることは間違いないところである。社会福祉政策が救貧の福祉から脱却して、豊かな社会の福祉へと大きな転換期を迎えつつあるといえよう。

（平井毅／社会福祉法人黎明会・熱海ゆとりあの郷総支配人）



高齢者地域共同住宅 健光園 9

所 在 地　京都市右京区嵯峨大覚寺門前六道町12番地
開 設 年　昭和58年４月１日
交　　通　市バス㉑または㉘／京都バス㊶または㉑㉘で終点大覚寺下車
入居方式　入居金方式（毎月、長期一括、終身の３通り）
入居条件　・60歳以上の単身または夫婦
　　・自立生活を営める心身の条件
総 室 数　２棟16戸（専用住居面積　9.94㎡～26.22㎡）
構　　造　耐火、養護棟はＲＣＢ、特養棟はＳ耐火
共用施設　食堂、売店、デイルーム、浴場、リハビリ、運動場

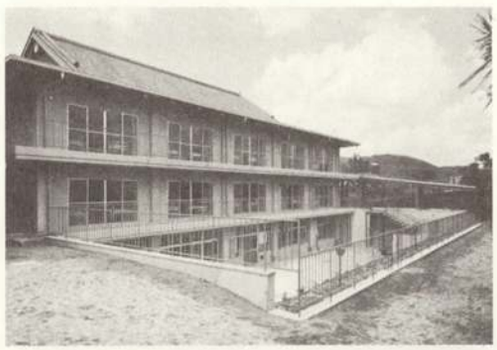
健光園の事業の中には、特養、養護の長期利用施設（120床）と短期利用施設(８床)、そして地域援助事業として、入浴サービス、食事サービス、訪問看護があり、なかでも注目されるのが高齢者地域共同住宅である。この共同住宅は「生涯自立」をめざす60歳以上の高齢者を対象としたもので、既存の学生アパートを改造し、現在は男性10名、女性11名の計21名が入居している。

主なサービスの内容は以下のとおりである。

・食事／原則として食堂を利用するが、住宅内の調理も可能。
・入浴／園の浴室を使用。
・健康管理／園の診療所で年２回無料検診。長期治療が必要になった場合には特養または市内の病院にうつる。
・緊急時／各居室、トイレにインターフォンを設置し、管理人または看護婦、寮母が対応。

以上のように隣接している同じ経営母体の施設のサービスを享受したり、レクリエーションに参加でき、居住者が安心して地域の中で生活できるメリットがある。このように、地域ケア、ホームケア付きで入居し、自活する小規模分散型の施設が、これからは必要とされる。

（文責・宗平真澄）



▶同一敷地内にある特別養護老人ホーム
▼健光園共同住宅



地域分散型老人ホーム エリア会有野台ファミリー10

所 在 地　神戸市北区有野台６－11－６　エリア会
開 設 年　昭和54年４月
交　　通　神戸電鉄五社駅より循環バス利用有野台下車
入居方式　・入居時／保証金10万円・センター費月額2,500円
　　・家賃／面積と経済状態に応じて10,000～27,000円
　　・生活費／個人負担
総 戸 数　戸建て住宅　３戸
　　公団住宅　３戸（２ＤＫ　いずれも１Ｆ部分）

キリスト教のセブンスデー・アドベンチスト（Ｓ・Ｄ・Ａ）教団のバックアップによって、信者たちの集まり「エリア会」が実施している、地域分散型老人ホームである。

普通の一戸建て住宅を改造し、センターとアドベンチスト病院を中核として老人が数人ずつまたは一人ずつ住まい、地域住民として可能な限り自立した生活を送る。言いかえれば、在宅福祉と地域福祉を組み合わせたシステムである。

老人の居室に関してはプライベートな部分を大切に考え、台所とトイレは個人占有とし、各部屋から電話がかけられるようになっている。入居者はファミリーメンバーと呼ばれ、現在は８人が住んでいる。ホーム運営のための専従者は１名だけであるが、民生委員やボランティアと密に連絡を取り、積極的な運営がなされている。

今後、このような老人ホーム設置基準に該当しない、コミュニティに根ざしたミニホームが〝手づくりホーム〟として注目されよう。

（文責・宗平真澄）



◀エリア会センター



▼アドベンチスト病院

羽曳野市立陵南の森総合センター 11

所 在 地　大阪府羽曳野市島泉８丁目96番地
開 設 年　昭和58年６月１日
交　　通　近鉄南大阪線高鷲駅下車徒歩10分
利用条件　羽曳野市内に居住する60歳以上の人
複合施設　老人福祉センター、公民館、図書館、運動広場
設　　計　内藤建築設計事務所
施　　工　村本建設
規　　模　ＲＣ造　地上２階一部３階
　　敷地面積　18,247.11㎡
　　延床面積　4,418.605㎡（公民館、図書館、老人福祉センターほか）

陵南の森総合センターは、羽曳野市として初の複合施設（老人福祉センター、公民館、図書館、運動広場）であり、建設にあたっては、個性ある地域のコミニティーセンターの拠点、市民の憩いと交流、文化、福祉、スポーツ活動の拠点として、広範な市民に利用されることを目的とした。

昨年６月オープンし、この一年間で約20万人（市人口11万人）が利用している。児童(図書館)、熟年層(公民館)、老人（老人福祉センター）と、一家揃っての利用であり、世代間の交流、憩いと交流、文化、福祉、スポーツ活動の拠点として、単独施設では想像できない複合施設のメリットが生まれている。まさに、総合センター建設の目的にそった利用と活動になっているといえよう。

当老人福祉センターは、センター事業（Ａ型）はもとより、①巡回バス（２台）による送迎、②老人の技術提供（ボランテアー）による趣味の教室の実施、③サークル、クラブの育成と他市間との親睦交流大会、④菖蒲湯、七夕まつり等、その他時節の行事、を行っている。

今日、高齢者人口は増加の一途をたどり、高齢者問題は、社会的にも行政的にも重要な課題となっている。国政の動向は、臨調、行革の推進、「自助、自立」の名のもとに福祉行政とりわけ老人福祉の見直しをすすめてきている。

このような情勢のもとで、高齢者の要望に応えられるよう事業内容の充実をはかり、老人相互の親睦、交流、健康管理と自主活動、文化、教養の向上をめざすとともに、「楽しさが生まれ、豊かな老後がおくれるセンター」に、まさに老人福祉センターが老人活動の拠点として発展し、地域社会活動に貢献できるような多様な事業を、利用者とともに創造していきたい。

（竹中良一／羽曳野市立陵南の森総合センター老人福祉センター所長）



四天王寺悲田院 12

所 在 地　大阪府羽曳野市埴生野805－１、1251－３ほか
開 設 年　昭和12年10月４日（養老施設）
交　　通　近鉄南大阪線藤井寺駅下車→バス・住宅前より徒歩12分または羽曳野病院前より徒歩12分
入居条件　●養護老人ホーム（定員300名）
　　65歳以上、身体・精神・環境・経済上の理由で居宅で養護を受けるのが困難な人
　　●特別養護老人ホーム（定員100名）
　　65歳以上、身体・精神上著しい欠陥があり常時介護を必要とする人で、居宅で介護を受けるのが困難な人
　　●デイ・センター（利用定員25名）
　　65歳以上の寝たきりおよび虚弱な人を対象に、自立的生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持促進をはかり、家族へは介護教育を行う
規　　模　敷地面積　21,087.08㎡（四天王寺悲田院全体）

四天王寺悲田院は、社会福祉施設群である。

法に定められた老人福祉施設の多くは、家族機能の代替、補完機能に重点が置かれてきたが、高齢化社会の到来とともにニーズも多様化し、わが国の社会情勢、経済状態等、諸々の福祉背景の変容の中にあって、施設収容・生活老人の福祉ニーズはもちろん、施設を取り巻く地域社会の福祉ニーズを充たすためには、法制下にある名種施設の機能を有機的に結合し、従来の施設が陥りがちであった施設の閉鎖性、排他性（施設側と一般地域社会側との両面からの）を除去し、その持てる機能を適正に十分有効活用することが望まれる。

この見地より当悲田院においては、ここ十年来、老人施設の地域からの孤立を避けるべく、近隣地域からの通園よりなる児童関係施設の併設を推進してきた。

その内容は、以下の通りである。

四天王寺悲田院養護老人ホーム、デイセンター
　〃　　特別養護老人ホーム
　〃　　精神薄弱児・肢体不自由児通園施設
　〃　　保育園
　〃　　児童センター「研徳田」
　〃　　診療所

以上の施設群である社会福祉施設四天王寺悲田院は、現在、地域にあって地域社会の必要欠くべからざる生活資源として、地域住民に対しても諸施設の正当活用の機会を開放し、また、そのようにあるべく創意工夫をこらし、利用者の老若男女、身体障害の有無等にかかわらず快適で適正な施設づくりに精進を続けている次第である。

（坂本徳雄／社会福祉法人四天王寺福祉事業団常務理事・四天王寺悲田院院長）



バプティスト・ガーデンズ老人アパート 13
(Baptist Gardens)

所在地　1011　Pine Ave., Long Beach, Calif. 90813
開設年　1975年
対　象　住所得者老人
総戸数　200戸　1寝室型（1LDKタイプ）48.6㎡
構　造　RC造　13F建
共用施設　レクリエーションルーム、図書室(ラウンジ)、食堂(多目的)、洗たく室（1F）
★診療所はなし
経営主体　ファーストバプティスト教会

バプティスト・ガーデンアパートは、カリフォルニア州ロングビーチ市内に位置し、低所得者層の自立できる老人を対象とするアパートである。
これは、連邦政府が民間の非営利団体による用地費と建設費を40年の低利で貸しつける住宅法（Section 236）の制度のもとで建設されたプロジェクトの一つである。現在、家賃は光熱費を含み月245ドルであるが、収入の30％を越える支出の場合は、その差額が援助されている。
アパートは13階建てで、市街地に位置し、買い物、教会、病院、診療所など日常生活の利便性は良い。1階にはレクリエーション室、図書室、食堂、ランドリーなどがあり、2階以上はすべて居室で、バルコニー、キッチン付きの一寝室（1LDK）である。
平均年齢は76歳と高いが、日常自立できる老人であり、自炊を原則としているが希望に応じて1階での食事サービスも受けられる。食事サービスのニーズは年々高くなっているという。
住戸数は200戸であるが、1,000名近くが、空室待ちであり、この施設の需要は非常に高い。（文責・足立啓）

バプティスト・カーデンズ全景



ロスモア・レジャーワールド 14
(ROSSMOOR LEISURE WORLD)　老人ニュータウン

所在地　23522　Paseo de Valencia, Laguna Hills, Calif. 92653
入居方式　所有権分譲方式
入居条件　52歳以上
規　模　1,700エーカー（680ha）
総戸数　約12,700戸
人口　約22,000人、管理会社職員1,100人
住戸は、戸建て、タウンハウス、中層集合住宅、高層集合住宅など81種プランタイプ
共用施設　クラブハウス6ヵ所、図書館、オーデトリウム、ガードマン付きのゲート(14ヵ所)、ゴルフ場、テニスコート、プール、家庭菜園など

ロスモア・レジャーワールドは、全米に数ヵ所ある老人ニュータウンである。なかでもラグナ・ヒルのロスモア・レジャーワールドは、約22,000人の人口を擁し、単一事業体の老人コミュニティとしては全米第一の規模である。
住戸タイプは、戸建てから高層集合住宅まで81種のプランタイプを有し、分譲価格は4万ドルから40万ドルと多様である。管理会社がすべての財産、共有施設等を管理している。
高層棟は食事サービス、ケア付きのアパートであるが、大部分は、余暇とレジャーを楽しむ中産階層以上の老人の住む住戸である。したがって、ニュータウン内でカレッジの生涯教育を受けたり、190余りものクラブがあり、種々のスポーツ活動も盛んである。
このような特定階層を中心とする老人の大規模コミュニティは、アメリカ社会固有の特性を背景としているが、高齢化社会の多様な選択メニューの中の一つとして注目に値する。（文責・足立啓）



▲ロスモア・レジャーワールドの高層棟、手前はゴルフ場　▼プール



レポート

神戸・ポートアイランドを見る（第2回）

ポートピア'81 その後……

7月7日、ポートアイランドの見学会が開かれた。ポートアイランドは周知のように、'81ポートピアが開かれた場所である。その後埋立地としては珍しい都市の機能―住み・働き・遊び・憩い・学び・集う―を持つ街として計画され、実現に向けて建設が進められており、多方面からの注目を集めている。今回の企画は、このポートアイランドを訪ね、街の雰囲気を肌で確かめ、かつ、すでに建設されている建物および完成間近の施設を見学しようというものであった。

まずポートアイランド内、みなとじま会館の会議室を借りて、神戸市開発局の方々により、ポートアイランド計画の経緯と進捗状況の説明を受け、市の全体の開発計画のマスタープランの一環としてのポートアイランドの位置付け、ポートアイランドの機能的役割等について、大まかに把握した。それによると、ポートアイランドでは、それぞれレベルは異なるが、5つの目標または試みがあるとのことである。

(1)神戸市が従来から持っていた港湾機能を一層強化充実すること

(2)都市機能―住み・働き・遊び・憩い・学び・集う―を持つ街をつくること

(3)ポートピアの時点から、将来計画を考慮に入れた公共投資を行い、基盤施設の整備を行ったこと

(4)無人運転の新交通システムのテストケースとして、ポートライナーを導入したこと

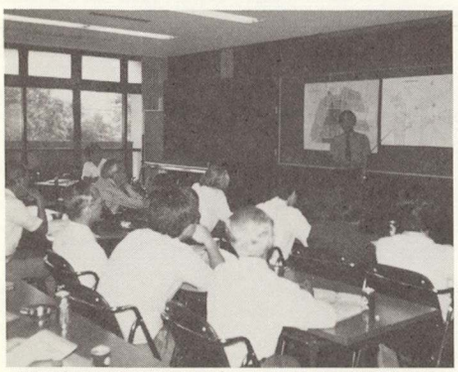
(5)経済・情報・文化の世界的拠点として、コンベンション機能をもたせること、すなわちホテル・展示場・会議場・さらに多目的ホールの建設と、ファションタウン等の魅力ある街づくりをすること

ファッションタウンとは、ポートピアの跡地部分に62年完成を目標に、35の衣料・洋菓子・真珠等を中心とした卸売団地を形成しようというものである。そこでは、建物および環境の協定をつくり、色彩の制限・形態の制限等を行い、ファショナブルで、市民が楽しめる団地をつくることを目標としている。グランドレベルをできるだけオープンな感じにし、喫茶店・カフェテリア・レストラン・ギャラリー・ホール等を設けるようにし、また、敷地境界から建物はセットバックして配置し、境界はなるべく、区画がわからないような仕様を規定しているとのことである。ファションタウンは62年完成目標で、35区画のうち現在7社が協定にのっとり建設され、操業中である。

説明のあと、実際にポートアイランド内を歩き、ワールド記念ホール、ワールドビル、シャルレビルを見学した。ワールド記念ホールは、屋内スポーツ場としてはもとより、多目的な用途に使われる予定であり、神戸ユニバシアードの会場としても使われ、神戸市がめざすコンベンション施設群の一部を占めるものである。形はドーム型で、船をひっくり返したような、もしくはアルマジロのような、大胆でユーモラスな形をしている。南隣の屋内プールと形状は異なるが、鉄・タイル・ガラスという同じ材料・色を使い、一連の建物として協調し、独特のダイナミックな雰囲気を持っている。ただ両施設とも敷地に余裕がなく、アプローチが短い。工法的には、プッシュアップ工法という新工法を採用し、大空間を機能的につくり出し、工期の短縮・施工の容易さに役立っている。

ワールドビルは、国際交流会館、ジャヴァ、ポートピアホテルと隣接した位置にあり、ファッションタウンの中で中心部に位置する建物である。前面は公道一体となり、広がりを持ち、半階分上がるアプローチ階段は広く、1階ホール部分の曲面ガラス、およびアプローチ階段横の彫刻・低木とあいまって、さそいこまれるような感じを与えている。外観は、ガラスと白いタイルの対比でシンプルで軽快である。内部は一1階と地階のみ見学できたのだが―天井照明・エレベーターホールの壁・天井など単純なデザインでありながら、材料・光・形をうまく使い、効果を上げている。この建物の地階部には、外部から直接入れる入口を持っている喫茶店が設けられており、人々が集まりやすいよう考えられている。

シャルレビルは、ファッションタウンの東端部に位置している。建物は、緑で縁取られたピラミッド状のミラーガラスと、パンチングの黒いスチールという対照的な表情を持つ2棟で構成されている。2棟の間の部分がサンクンガーデンとなっており、その上部にかかるブリッジがアプローチとなっており、自然と建物内部に引き込まれる形であるが、敷地の関係で引きが少ないのが残念である。地下1階にギャラリーがあり、サンクンガーデンからのカーテンウォール越しの先は、木立ちによって調節され、適度に明るく、快い。 ↗



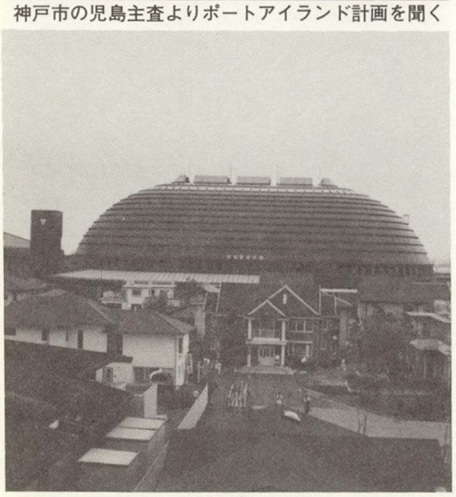
神戸市の児島主査よりポートアイランド計画を聞く



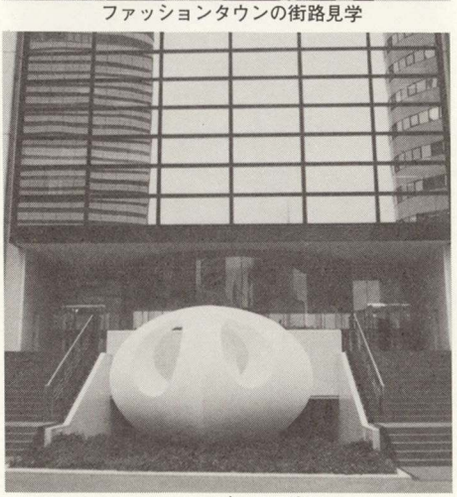
ファッションタウンの街路見学



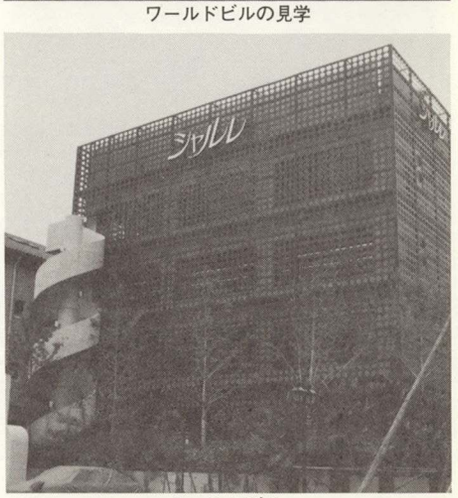
ワールドビルの見学



ワールド記念ホール



ワールドビル正面玄関



シャルレビル

書評

「近代建築ガイドブック―関西編」

門真市都市整備局参事
近野　正男



「古い街に見えがくれする近代建築を探しに行こう」という、少しでも建築に興味ある人々にとって、街の探索がグッと楽しくなるすてきなガイドブックが現れた。

大阪・京都・神戸という歴史的にも独自な強い個性をもつ3都市を中心に、近畿2府4県を対象に24コースにわけて、街や建築を楽しみ、味わう小旅行へ誘ってくれる本だ。

関西に根を下ろし、こよなく建築を愛する6人の著者達に俎上に載せられた600余の建物は、こんな所にこんな作品がと驚かされるが、いずれも歴史の年輪を経たつぶぞろいで、著者達のこの道への精通ぶりと、根気強い踏査のあとがうかがえる。

船場コース、キタコース、ミナミコースなど大阪を7コース、三条・烏丸コースなど京都市内4コース、山本通・北野コースなど神戸市内3コースがわりと名の知れた都市コースで、ほかにも滋賀、和歌山、奈良コースと広がる。

この本のユニークなのは、こうした名門コースにとどまらないところであろう。たとえば、戦前の個性豊かな駅舎を訪ねる「ステーションめぐりコース」、大正から昭和初期のハイカラ趣味に合わせて開発された阪神間の洋風住宅を訪ねる「あめりか村コース」、明治にキリスト教祖として来日し、建築設計活動に大きな足跡を残したヴォーリズの作品をめぐる「琵琶湖周遊ヴォーリズコース」など興味ひかれる素材をひろっている。

どのコースも地図入りで、各建物は写真だけでなく、設計者、施工者、構造、建設年次などに加えて、見どころや歴史的経過なども解説されており、生きた建築の教材にもなる。

この本が単なるガイドブックに終わっていないのは、「近代建築のうえにも千数百年の歴史的蓄積が重たくのしかかっている近畿では、空間的踏査行にも、常にそれぞれの場所での時間的な奥行きの深さを確かめながら進む」という著者達の視点の確かさと鋭さに裏打ちされているからであろう。

これからの建築や都市のあり様を考えてみようとするまじめな建築家はもちろん、近代建築のルーツを探り、建築に秘められたロマンに魅了されながら、街を徘徊する楽しみを一度味わってみようと思う人にとって、何とも得がたい一冊であろう。

鹿島出版会発行
A 6 判 303頁　定価 2,800円
著　者　石田潤一郎、沢田清、柴田正己、中川理、福田晴虔、山形政昭

↘当日はあいにくの曇り空であったが、多数の参加者が集まり、盛況な見学会であった。ファッションタウン、およびポートアイランドは現在未完成であり、完成後予定通り都市の機能を持ち、またファッションの町となったとき、ポートアイランドは神戸市の機能の大きな部分を分担するであろうし、新しい街づくりのシステムとしての成果を見ることができるだろう。そのとき再度、この街を訪れてみたいものである。

レポータ・庄野利博／㈱安井建築設計事務所

今、祭りから日常へ

今、ポーアイがおもしろい。かのお祭り騒ぎから三年余、仮設建築が薄っぺらさを隠しきれずも華やかさだけで十分に盛り上がっていた場所に、いくつかのいい建築が現れ始めている。

一時的な祝祭の場として成立するのであれば、そこに目論まれた反乱や詭計そして崩壊さえも、過ぎたる現象の内にすべて包み込まれてしまい、その跡の寂莫などは問題ではない。というよりも、それこそが当初から読み込まれた結果として消滅してしまうのみである。しかし、今ポーアイは祭りから日常へと移行し、そのあるべき姿が求められようとしている。都市的政策が盛り込まれ、一定の秩序が築かれつつあるが、そこに建つ建築は全く異なる解釈と意図の下にその姿を見せ始めている。

一方は、ワールドビルである。白磁のタイルと美しいカーテンウォールで纏われたこのビルは、関西でも屈指の高層ビルであるといえよう。1階のホールから半地下へと絡がる空間は一軸方向に外部へ開け放たれ、一寸の綻びさえ見せない部分が全体と緊密に連結し、見事なまでの完璧さを誇っている。このビルに求められたのは、ファッションメーカーのビルとしてのメカニズムに対して、すべての要素がその一点に収斂することであったといえよう。そして、組織力を背景としたテクノロジーの最大限の洗練がそれに完璧に応答し得たといってよい。しかし、この論理こそが資本主義社会の既存の都市を構築し、われわれの通念となってしまっていたものではなかったのか。

それに対しシャルレ本社ビルはきわめて対照的な様相を呈している。健やかに伸び育ったようなワールドビルに対し、こちらは黒く小さく、上から押し潰された揚句に地面にめり込んでしまったような形をしている。埋め立てたはずの島にわざわざ穴を掘り、その中に身を潜めているようにも見えるが、実は、自ら身を縮めたハリネズミのような建築だった。内部にも外部にも設計者の好みによるディテールがちりばめられ、それらが混沌となりながらも、対峙する者にさまざまなメッセージを送ってくる。ともすれば亀裂を生じかける危うさをその空間に漂わせながらも、ワールドビルで感じられたような中性的な完璧さとは異なって、隙をうかがって走り出るダイナミズムが存在している。同じく、ファッションメーカーをオーナーとするビルであるが、この建築のなかでは、企業のメカニズムが逆手に取られ、その戦略的姿勢がそのまま都市空間のリノベーションへの意志を発信しつづけているようにさえ思えてくる。(将来、大半は緑に覆われてしまうであろうこの建築はまさしくゲリラのようだ)

ポーアイは全く何もないところに都市空間が形成されてきた。したがって、ここに建てられる建築は空間を内包する建築そのものでありながら、都市空間のコンテクストを造り上げるものである二重現象として同時的に存在することを課せられている。先陣をきって建てられたこの好対照は、これからのポーアイをどう占っているのだろうか。

既成の都市空間への疑問がさまざまな形で問われている今日、決して新たな方向性が指し示されているわけではない。しかし、資本主義的類型が何らかのかたちで変容せざるを得ない地点に至っているのは確かである。この混沌とした状況の中で、どのようなものが優勢となり都市を形成していくのか、今、このときにかかっている。

松本　明／㈱小河建築設計事務所

日　時　昭和59年7月7日(土)　集合13：30→解散17：30
参加者　75名
行　程
13：30　「みなとじま会館」・2階大会議室集合
13：40→14：20　講演「ポートアイランド計画の経緯と進捗状況」他
講師　神戸市開発局計画課　主査　児島雄次氏
〃　田中直人氏
〃　管理課　西村幸一氏
14：40→15：50　仮称「ワールド記念ホール」見学と概要説明
㈱昭和設計　三宗司郎氏（設計について）
㈱竹中工務店　山崎義広氏（施工について）
16：10→16：40　「ワールドビル」一部見学と説明・案内
㈱竹中工務店　秦　力氏，門川清行氏
17：00→17：30　「シャルレビル」一部見学と説明・案内
㈱竹中工務店　山本裕行氏，平井一嘉氏
17：30　現地解散
（企画：見学会・若い会員の集い両小委員会）

構造の頁

121
PRCの告示とその運用

鈴木　計夫

1．PC構造に関する新告示1320号

ＰＣ構造に関する最初の告示は昭和35年に16mの建物高さ制限が規定された第223号であるが、次いで昭和48年に第949号でその制限が撤廃され、PC構造はSRC造並みの取り扱いとなった。今回の新告示は、その後の情勢の変化、すなわち、アンボンド工法、プレストレスト鉄筋コンクリート(PRC)構造、新耐震設計法を採り入れた新建築基準法の制定等の新技術の進展に呼応して旧告示を改訂増補し、昭和58年７月25日公示、同59年１月１日より施行となったものである。

主要な改正点のうち、まず構造の種類、設計法等については、(1)PRC構造が追加されたこと、(2)新耐震基準に応じて設計ルート等が整理されたが、これまで馴染んできた終局強度形の設計法もその中に存続されたこと、(3)常時荷重時の終局耐力検討用応力が緩和され、従来の1.2G+2.4Pが1.2G+2.0Pに、2(G+P)が1.7(G+P)になったこと、などである。

つぎに構造方法に関するものとしては、(1)鋼線の種類を追加したことと、(2)耐力壁以外の壁、床または小ばりについてアンボンド工法を認めたこと（ただし、プレストレス導入後に防錆剤を注入する工法は認められていない)、(3)ポストテンション工法でのPRC造を考慮してコンクリートの設計基準強度を通常の場合240kgf/cm²以上、特別な配慮をする場合は210kgf/cm² 以上としたこと（次節参照)、(4)緊張材のかぶり厚さは、原則として５cm以上であったものを、主要材は５cm以上、耐力壁以外の壁または床にあっては3.5cm以上、基礎では８cm以上としたこと、(5)その他、新建築基準法施行令の一部改正に応じた事項、などである。

2．新告示におけるPRCの位置づけと設計

まずコンクリートの強度の点からは、**表１**が規定されている。すなわち、ポストテンション工法ではPRCは通常の場合$Fc \geqq 240$kgf/cm²と規定されており、これは施工管理、品質確保のための配慮と考えてもよく、したがって特別な条件下ではこれを210kgf/cm²まで下げることができる。なお、プレストレス導入時のコンクリート強度は従来のPC同様200kgf/cm²以上となっている。

コンクリートの長期許容応力度の点からは**表２**のような位置づけとなっている。同表ではPRCに関し設計の方針の欄に、有害なひびわれが発生しないという確認の規定があるのみで、許容引張応力度については何の表示もない。これはつぎのように理解すればよい。同表に示されるフルプレストレッシングの設計では曲げひびわれ発生の安全率は普通1.3以上、同パーシャルの場合では1.15以上となっている。したがって、ＰＲＣでは、その安全率は1.0と考えるのが妥当であり、このことは、長期設計応力下ではひびわれの発生を想定した設計をすべきであることになる。なお日本建築学会のPRC指針(案)では長期応力時に無ひびわれの状態でコンクリートの引張応力を考慮して設計する“Ⅲt、Ⅲtbの状態”が示されているが、この場合も前記の考え方から曲げひびわれの発生を予測しており、その幅が有害なものとならないようひびわれ分散筋の配置等の配慮が行われる。

構造設計に関しては図１を示す。長期応力に対する設計は曲げひびわれ幅の検討が付加されたほかは従来のPCと同様である[3]。短期応力時の設計は同図にみられるように新耐震設計形になっているが、従来の終局強度形の設計法がルート3aとして残されており、これは昭和35年以来この方法で設計された建物が地震の被害を生じていないこと、保有耐力設計よりも設計が簡単であること、などの理由による。

表１　コンクリートの設計基準強度

工　法	設計の種別		コンクリートの設計基準強度
プレテンション法	———		350kgf/cm²以上
ポストテンション法	フルプレストレッシングおよびパーシャルプレストレッシング		300kgf/cm²以上
	プレストレスト鉄筋コンクリート	一　般	240kgf/cm²以上
		特別な検討をした場合またはプレスを補助的に用いる場合	210kgf/cm²以上

表２　長期の許容応力度

応力の種別	設計の種別	コンクリートの種別	長期の許容応力度	設計の方針
引張	フルプレストレッシング	——	0	長期荷重に対して引張応力を生じさせない設計
	パーシャルプレストレッシング	普通	0.1 Fc/3	長期荷重に対してひびわれを生じさせない設計
		軽量	0.09Fc/3	
	プレストレスト鉄筋コンクリート	——		引張力は鉄筋が負担し、コンクリートの引張強度に期待しない設計。ただし、長期荷重に対して有害なひびわれを生じないことを構造計算または実験によって確かめる。
せん断	——	普通	0.07Fc/3	曲げ材における斜張応力の検討に用いる。
		軽量	0.06Fc/3	

(注)　Fcは、設計基準強度を示す。

3．運用に関連して

紙数の関係でメモ程度に記述しよう。

(1) アンボンド工法は、地震力に抵抗させる部材に使用することは認めていない。

(2) 設計基準強度300kgf/cm²未満のコンクリートの場合の定着部に対しては、原則として実験により安全性を確認することになっている（住指発第 404号参照)。[2]

(3) RC部材で設計してあるが、ひびわれやたわみ制御の目的で緊張材によって計算外の10kgf/cm²以下の平均プレストレストが与えられた部材は、新告示別記1)，2)の注意事項を満たした上でRC造の扱いとする。

(4) 終局強度形設計法(ルート3a)は、PC造部分を有する建築物であれば、 RC造その他の構造にも適用できる。(文献１) p.48参照)

その他詳細は文献を参照していただきたい。

文献

1）日本建築センター：プレストレストコンクリート造設計・施工指針、1983年版

2）日本建築センター：ビルディングレター：1984・１、pp.17－25

3）鈴木計夫：PRC構造（その１、その２、その３）：構造の頁No.88、89、90、建築と社会、1981．11～1982.1

（すずき　かずお　大阪大学教授　工博）

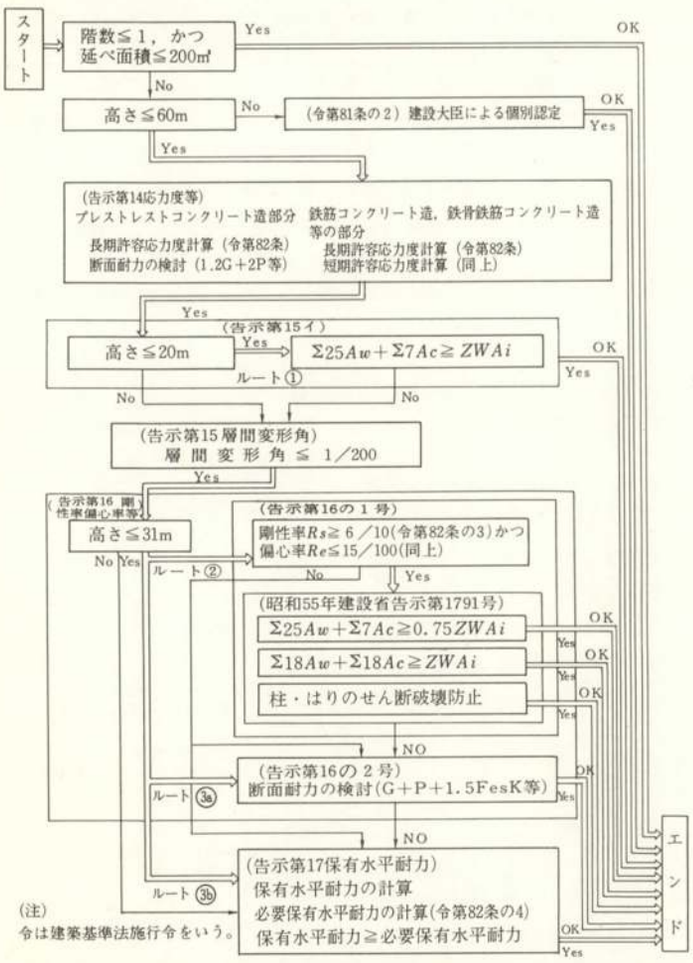
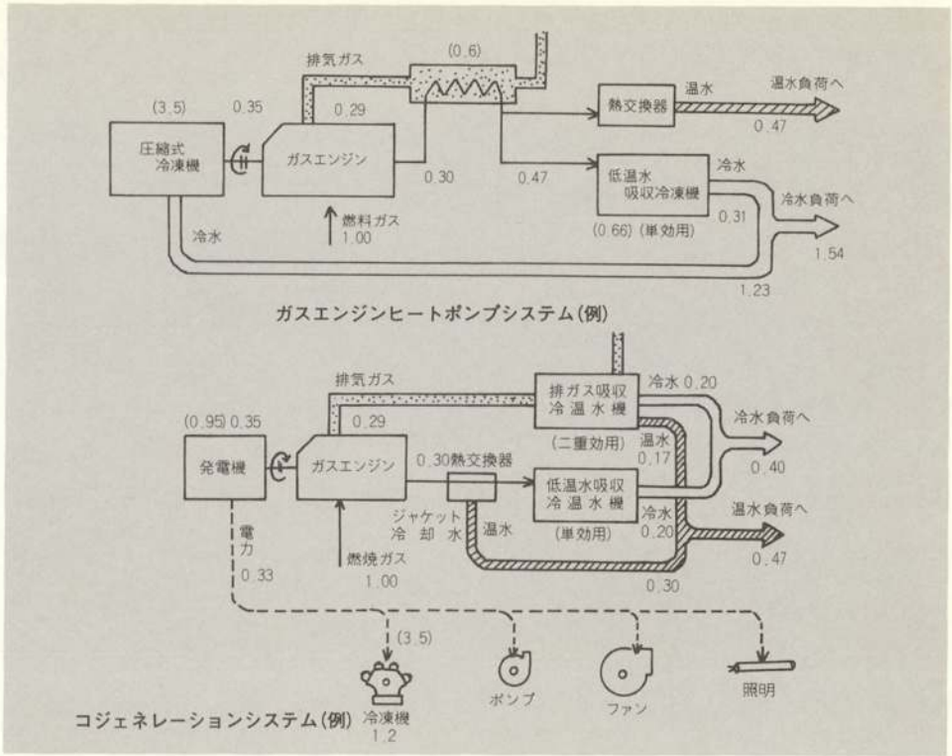


図１　プレストレストコンクリート造建築物の構造計算のルート　(文献2)より転載)

設備の頁

120 ガスエンジンを利用したトータルエネルギーシステム

中川　紀生



昨今、ガスエンジンを利用したトータルエネルギーシステムの技術開発が急速に進展し、中規模出力のものを中心に実施例が増加しつつある。

ガスエンジンの軸動力で圧縮機を駆動するガスエンジンヒートポンプシステムは、冷暖房と給湯の併需要に対して高い熱効率を発揮し、省エネルギー性を実証している。

また、ガスエンジン軸動力のほかの使途としては、発電機を回転させるいわゆるコジェネレーションをはじめ，空気圧縮機やポンプ等流体機械の駆動等にも活用され、いずれも電力のピークセービングを果たしつつ、廃熱を冷暖房や給湯に有効に利用され、高い省エネルギー性と経済性を発揮して、強い関心が寄せられている。

都市ガスを燃料とするガスエンジンの特長

(1) 都市ガスはLNGを主原料とし、燃焼性、制御性に優れ、製造、輸送効率を含め総合熱効率が高い。

(2) 同程度出力の他の燃料使用原動機（ガソリンエンジン、ガスタービン）より熱効率が高い。

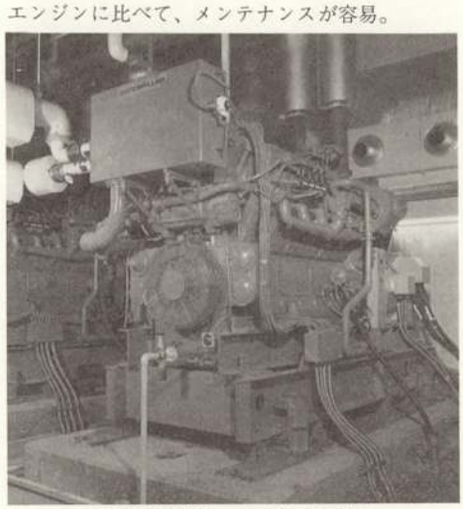
原動機	ガスエンジン	ディーゼルエンジン	ガソリンエンジン	ガスタービン
熱効率	% 30～35	% 30～40	% 20～26	% 15～33
出力範囲	kw 0.5～5,000	kw 1～30,000	kw 10～300	kw 40～100,000

(3) ガスエンジンの回転数制御により、部分負荷対応を始め、高効率運転が可能。

(4) 排気ガス中にSOXを含まず、またNOX、CO、HC等、大気汚染物質に対しては対応が容易。

(5) 潤滑油の消耗、劣化が少なく、エンジンの耐久性が向上する。

(6) ディーゼルエンジン、デュアルフューエルエンジンに比べて、メンテナンスが容易。



可変周波数ガスエンジン発電機

ガスエンジントータルエネルギーシステムのヒートバランス

ガスエンジンは、クランク軸から軸動力を取り出すと同時に、エンジンのシリンダーや燃焼室を冷却した85～95℃の温水を出力、さらに400～550℃のエンジン排気ガスを出力する。

いわば、ガスエンジンは廃熱ボイラー内蔵の熱機関であるといえる。

適合建物用途

本システムは、ガスエンジンよりの廃熱で利用可能なものが、ガスエンジンのインプット 100に対して約50ある。この有効利用が、本システムの成否の決め手となる。

したがって、廃熱を余すことなく有効に使用できる建物用途としては、給湯負荷の大きいホテル、病院、サウナ、温水プール、ショッピングセンター等があり、また電力の月別、時間帯別の使用量に大きな差があり、ピークカットをしたいときや、契約電力が 2,000kwまたは10,000kwの節目を超えて受変電設備の負担が大きいときなどには、経済的メリットを発揮することができる。

おわりに

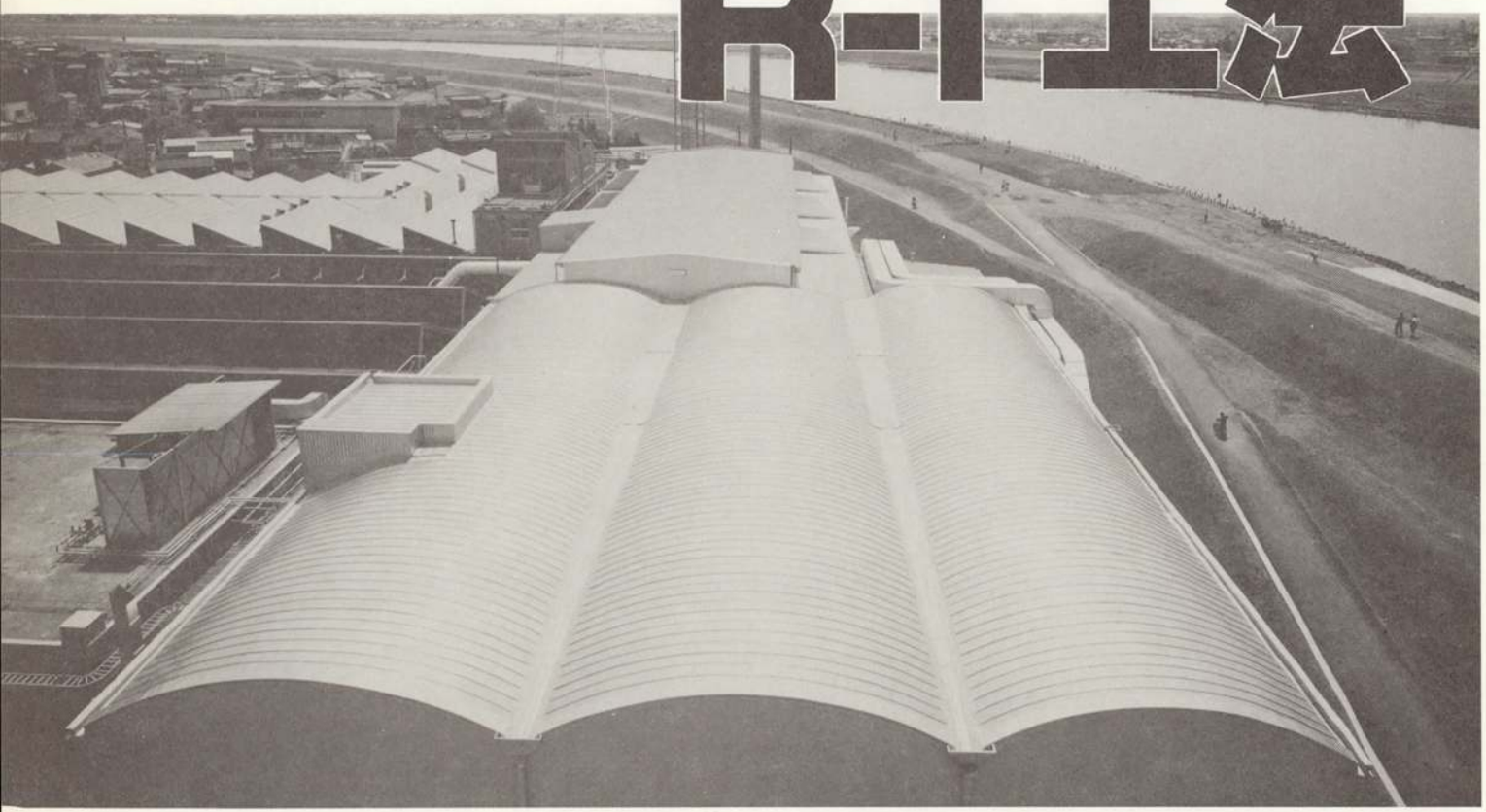
ガスエンジンを利用したトータルエネルギーシステムは、その省エネルギー性、経済性が評価され、国内ですでに数十件の実施事例があり、それぞれ所期の成果をあげている。

今後、さらに一層の普及促進を計るための課題としては、設備コストの低減化と、システムの一層の高効率化があり、ガスエンジン、廃熱吸収冷水機、圧縮機、発電機等、各システム要素および排気ガスの低NOX化等メンテナンスを含めた技術開発が急務である。

（なかがわ　のりお　大阪ガス株式会社営業部課長）

あらゆる条件下での防水性、気密性を実現しました。

R-T工法



R-T工法とは、スウェーデンで生まれたシーム工法に日本の風土、建築様式に合わせた独自の技術を加え、在来工法ではなし得なかった屋上部の完全防水、気密性を実現したステンレス溶接工法です。しかも、メンテナンス不要、寿命も半永久的。また、施工にともなう有毒ガスの発生もありませんので、安全性も抜群です。



R-T工法の主な特徴

- ●完全な水密性、気密性を実現しました。
- ●完全な透湿防止性を確保しました。
- ●ステンレス鋼板と独自の技術の組み合わせにより、メンテナンス不要で寿命も半永久的です。
- ●軽量で、しかも強度は大です。
- ●高温から超低温まであらゆる気象条件下で抜群の耐久性があります。
- ●振動、地震、膨張収縮にも万全です。
- ●導電性、電磁波の遮閉が可能です。

三晃金属工業株式会社

本社 〒104 東京都中央区京橋2-9-2 第1ぬり彦ビル ☎03-567-3551大代表
長尺営業部、Mルーフ営業部、R-T営業部、建材営業部、海外営業部
東京支店☎03-567-3551大代表／名古屋支店☎052-582-0311代表／大阪支店☎06-231-8571代表
広島支店☎0822-48-1576代表 ／ 福岡支店☎092-441-3551代表 ／ 札幌支店☎011-241-4271代表
仙台支店☎0222-25-7591代表 ／ 金沢支店☎0762-23-4980～4

施工材料の頁

119

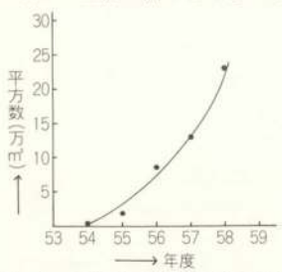
ステンレス防水の施工法と品質管理

高橋　行雄

ステンレス防水とは、オーステナイト系のステンレス薄板を、シーム溶接して一体化して皮膜層を形成したものである。

昭和54年に日本ステンレス㈱が「P＆P」工法の開発販売を始めたのが最初で、翌55年に三晃金属工業㈱がスエーデンのロストフリア・タークト社と技術提携して「R－T」工法と称して販売を始め、今年になり川崎製鉄㈱、日本冶金工業㈱ほか数社が販売を始めた。「R－T」工法は、スエーデンで20年の経験と300万㎡の実績を持つロストフリア・タークト社の技術に、三晃金属工業㈱が35年間蓄積した板金技術を加味し、日本の風土にマッチするよう改良したものである。

日本におけるステンレス防水の実績は延べ約50万㎡で、その約半分の25万㎡を三晃金属工業㈱が施工している。年度別施工実績は図－1の通りであるが、このように急速に実績を伸ばしている理由は、在来工法では「あきたらない」何らかの不満（たとえば破断、ふくれ、剝離等の原因で建物の寿命に較べ短い）を持っているところへたまたま新しい工法が出てきたというタイミング的な理由だけではなく、ユーザーの高級化指向にあいまってステンレス防水工法の技術的優秀性、品質の良さがあるからにほかならない。



図－1　ステンレス防水の施工実績

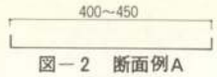
ステンレス防水の特長と材料・形状

ステンレス防水工法の特長はつぎの通りである。

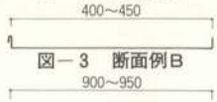
・完全な水密性、気密性の確保ができる。
・完全な透湿防止性の確保ができる。
・メンテナンス不要で、寿命は半永久的である。
・軽量で、しかも強度が大である。
・高温から超低温まで抜群の耐久性がある。
・振動、地震、膨脹収縮にも万全である。
・導電性、電磁波の遮閉が可能である。

主材料はつぎの通りである。

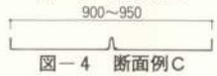
ステンレス鋼種　SUS304またはSUS316
板　　厚　0.4mm
板　　幅　914、1000、1524mm



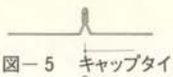
図－2　断面例A



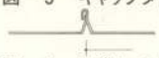
図－3　断面例B



図－4　断面例C



図－5　キャップタイプ



図－6　片馳タイプ



図－7　両馳タイプ

仕　　上　2D、2B、塗装、銅メッキ

パネルの形状はメーカーにより異なるが図－2～4のごとく3つのタイプに大別できる。溝部に小さなリブを設けたり、中央に大きなリブを設け吊子で固定したり、立上がり部の馳折りを成形時にしたり、溶接後にしたりして、作業工程も若干ずつ違っているのが現状である。

継手の形状もメーカーにより異なり、大別すると図－5～7の、3通りとなる。継手の間隔（働き幅）もそれぞれ若干異なっているが、大体450㎜と950㎜近くの寸法になっている。これはステンレス鋼板の原板の幅から決めている。

伸縮の処理

ステンレス防水は、一口に言ってステンレス板をシーム溶接するだけであるが、オーステナイト系ステンレス鋼の特性を把握し、その長所を十分発揮さすような技術的、技能的対策が重要である。

オーステナイト系ステンレスは耐食性、耐候性等々優れた性質は多いが、熱膨脹係数が、14.5～17.5×10^{-6}と鉄の約1.5倍もある。大きな1枚の層を形成する際、この伸縮をどのように処理するかが重要な要素であり、処理の仕方についての考え方は各社異なっている。「R－T」工法では、スエーデンにおける20年の経験を基本に、流れ方向は一定の長さまでスライド吊子で処理し、それを越える場合はエキスパンション・ジョイントを設けて伸縮量を吸収している。またパラペット等の取合部にもエキスパンション・ジョイントを設けている。一方、桁方向もパラペット等の取合部にはもちろんエキスパンション・ジョイントを設け、パネルの継手にもエキスパンション方式を採用しており、完全に温度差による伸縮量（夏冬の温度差80℃と仮定すると、1mにつき1㎜、25mでは25㎜伸縮することになる）を吸収し、伸縮により余計な応力が生じないよう配慮している。

ステンレス防水の施工

ステンレス防水の生命は、完全な溶接にある。溶接は機械化（自走式シーム溶接機）により、施工者の技能依存度を極力少なくしており、施工する場合、機械管理者をつけて溶接の万全を期している。またオーステナイト系ステンレス板は加工硬化を生じやすいし、取合部、突起物、端部等の加工および納めには特殊技術を伴うため、自社教育を行い、ライセンス取得者に施工させ、欠陥のないよう管理している。

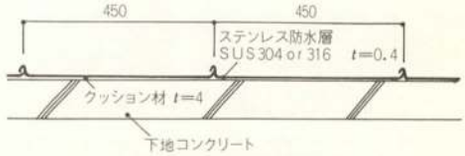
その工法を区分すると表－1の通りである。

露出工法の代表的断面は図－8に、非露出工法の代表的な断面は図－9に示す。

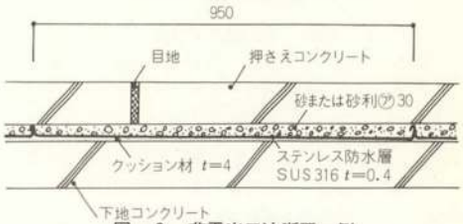
ステンレス防水のチェックポイントは、工程に従って表－2に列記する。

表－1　ステンレス防水工法区分

	種　類	下地構造	ステンレス鋼種	押さえ層
露出工法	一般屋根	木造 鉄骨母屋 コンクリート造 デッキプレート	SUS 304	
	非歩行		SUS 316	
非露出工法	非歩行 簡易歩行 重量床 テラス・屋上庭園	コンクリート造	SUS 316	砂　利 モルタル レンガ・ブロック コンクリート



図－8　露出工法断面一例



図－9　非露出工法断面一例

表－2　ステンレス防水のチェックポイント

(1)　事前調査
・事前に現場を調査し、工事内容を把握すること。
(2)　工程表作成
・関係者と十分協議の上慎重に作成すること。
(3)　施工図の作成
・割付図、納め図を作成し、承認を受けること。
・エキスパンション・ジョイントを明示すること。
(4)　施工班の決定
・ライセンスを確認すること。
・工程表、図面その他で説明すること。
(5)　資材手配
・規格、寸法、数量の確認をすること。
(6)　成型加工
・加工前に長さの確認をすること。
・成形立上がり幅の確認をすること。
(7)　吊子取付
・板幅芯々墨出し寸法の確認をすること。
・取付間隔の確認をすること。
・ファスナーの緊定度合いの確認をすること。
・吊子舌片スライド位置の確認をすること。
(8)　下葺材の敷き込み
・芯々より1㎜程度幅を縮めて切断すること。
・合わせ目に隙間が生じないようにすること。
・断熱材の下には防湿材を敷くこと。
・防湿材は100㎜程度重ねること。
・アスファルトフェルトは直接接触を防ぐこと。
(9)　成形板の敷き込み
・立上がり重ね部の不純物は除去すること。
・下地材の切クズ等を除去し清掃のこと。
(10)　スポット溶接
・成形材1枚ごと吊子にスポット溶接すること。
・両端部を合わせて配置して溶接のこと。
・成形板の高さを一定にすること。
(11)　シーム溶接
・スポット溶接後速やかに行うこと。
・ピーリングテストで溶接条件確認の上開始すること。
・溶接状態を確認しながら溶接のこと。
・不良個所はマーキングし、後補修のこと。
・冷却水の流れを常にチェックすること。
(12)　馳折り
・もらい錆は除去すること。
・水捌用として必要により馳倒しをすること。
・不良部は手工具により手直しすること。
(13)　完了時の点検
・補修個所のチェックをすること。
・もらい錆除去のチェックをすること。
・未補修の有無のチェックをすること。
・清掃、片付け、残材のチェックをすること。

（たかはし　ゆきお　三晃金属工業株式会社R・T営業部課長）

日本建築協会

月間の動き

昭和59年７月分

編　集　委　員　会

10月号「床の構工法」特集編集幹事会
3日　4時～6時半　於本会会議室
出席者　八木大児特別幹事、横井幹事ほか6名
議事　「床の構工法」特集の企画

作品作風小委員会
4日　4時～6時　於本会会議室
出席者　加藤副委員長ほか7名
議事 (1) 最近の掲載状況報告
(2) 新建築調査の状況報告と調査先検討
(3) 新企画頁の内容検討

「設計者のプロフィール」インタビューと見学
5日　1時～8時　於京都
出席者　吉村篤一氏ほか9名
見学先／島岡邸、大龍堂書店
会　場／聖護院河道屋養老

11月号「ディテール」(仮称)特集編集幹事会
6日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　加藤力特別幹事ほか5名
議事　特集編集企画と広告企画

1月号・3月号計画特集編集幹事会
10日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか7名
議事 (1) 1月号特集「大阪湾物語」の方向
(2) 3月号計画特集の方向

8月号「みどりとそれをとりまく人々」特集第5回編集幹事会
11日　6時～9時半　於本会会議室
出席者　荻原正俊特別幹事、田中幹事ほか4名
議事　特集の編集作業ーレイアウトほかー

委員会
12日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか6名
議事 (1) 7月号「消防設備のポイント」特集経過報告
(2) 8月号「みどりとそれをとりまく人々」特集経過報告
(3) 9月号「高齢化社会と生活空間」特集報告
(4) 10月号「床の構工法」特集報告
(5) 11月号「第31回青年技術者」「ディテール」特集について
(6) 12月号設備特集の企画
(7) 1月号計画特集「大阪湾物語」の企画と計画分科会報告
(8) 2月号以降の特集の企画
(9) 小委員会と分科会報告
(10) 収支状況報告、そのほか

第2回構造分科会
17日　4時～6時　於本会会議室
出席者　真塚幹事、足立直行委員
議事 (1)「構造の頁」の企画
(2) 2月号基礎構造特集の企画

11月号「ディテール」(仮称)特集第2回編集幹事会
23日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　加藤力特別幹事ほか4名
議事　特集の構成の企画

広告企画小委員会
24日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか5名
議事 (1) 8月号、9月号広告途中経過報告
(2) 10月号「床の構工法」特集広告企画
(3) 11月号「ディテール」(仮称)特集報告及び「第31回青年技術者」特集報告
(4) 12月号「建築家・安井武雄伝」出版記念特集及び「設備」特集報告
(5) 収支状況報告

第2回法令分科会
25日　2時～3時　於本会会議室
出席者　松井幹事ほか2名
議事　法令コーナーの企画の具体化

第4回投稿欄小委員会
27日　5時～6時半　於本会会議室
出席者　小林委員ほか1名
議事 (1) 8月号以降の企画
(2) 新企画シリーズ

1月号・3月号計画特集第2回編集幹事会
27日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか6名
議事 (1) 1月号「大阪湾物語」特集の具体化
(2) 3月号「情報化をめぐる建築・都市事情」特集の方向

作品幹事会
30日　5時～8時　於本会会議室
出席者　加藤副委員長ほか3名
議事　作品新企画頁の打合せ

事　業　委　員　会

若い会員の集い小委員会
3日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　福田会長、三品委員長ほか11名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 本年度・第1回「オークヴィレッジ」実施報告
(3) 第2回企画「ポートアイランドを見る」の企画
(4) 第3回以降の企画

広報小委員会
4日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか6名
議事 (1) 前回事業委員会の報告
(2) 本年度の小委員会活動

見学会小委員会
5日　6時～8時　於本会会議室
出席者　上出副委員長ほか6名
議事 (1) 前回の事業委員会の報告
(2) 6月の見学会の実施報告
(3) 7月～9月の企画と10月以降の企画の検討

委員会
12日　0時半～2時　於本会会議室
出席者　三品委員長ほか4名
議事　各小委員会の事業報告並びに事業企画

若い会員の集い「みどり学習会」
19日　6時半～9時半　於本会会議室
出席者　石川・続木・内藤・福広各委員
議事　「みどり学習会」見学先とスケジュール検討

若い会員の集い企画分科会
23日　6時半～10時　於本会会議室
出席者　山形副委員長ほか4名
議事　建築協会のラウンジ利用の企画

建　材　委　員　会

提案小委員会
19日　3時～4時　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか6名
議事　委員会活動の活性化について

委員会
19日　4時～6時　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか15名、山本窯業3名
材料説明　サンディウオール(弾性吹付材)
議事 (1) 次回の検討材料
(2) 今後の新建材紹介コーナー

出　版　委　員　会

設備トラブル研究会
19日　6時～8時　於本会会議室
出席者　舟橋副委員長、研究会メンバー
議事　「建築設備のトラブル」執筆打合せ

委員会
25日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか6名、学芸出版社
議事 (1) 選書と新シリーズの経過報告
(2) 新シリーズのテーマと執筆者選定

教　育　委　員　会

講習会打合会
18日　1時半～3時　於本会会議室
出席者　佐々木副委員長ほか1名
議事　建築技術選書講座の企画

若　い　会　員　の　集　い

神戸・ポートアイランドを見る(第2回)
ポートピア '81、その後
7日　1時半～5時半　参加者　75名　於神戸
●講演「ポートアイランド計画の経緯と進捗状況」
神戸市開発局(児島雄次氏・田中直人氏・西村幸一氏)
●仮称「ワールド記念ホール」見学と説明
昭和設計(三宗司郎氏)・竹中工務店(山崎義広氏)
●「ワールドビル」一部見学と説明
竹中工務店(秦　力氏・門川清行氏)
●「シャルレビル」一部見学と説明
竹中工務店(山本裕行氏・平井一嘉氏)

建　築　ク　ラ　ブ

朝食会
10日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
出席者　58名
長らく廃棄物の処理問題に取り組み、科学技術庁資源調査会専門委員として活躍の本多淳裕氏（大阪市立大学講師・工学博士）をお招きして「環境と資源」についてお話を伺った。

役員会
31日　0時～2時　於本会会議室
出席者　塚本、福田、松村氏ほか6名
議事 (1) 今後のスピーカーについて
(2) 講師紹介者、司会者の互選
(3) 収支状況報告、その他

在阪建築8団体午餐会

6月19日　0時～2時　於大阪ガスビル8階
出席者　正副会長、事務局併せて29名

建築防災関係法令研究連絡会

6月25日　2時～4時　於日本建築家協会(東京)
出席者　各団体より10名
議事 (1) 建設省、消防庁との話し合について
(2) 建築基準法と他の法令との重複・矛盾
(3) "適"マークについて
7月23日　1時半～5時　於日本建築家協会(東京)
出席者　構成団体各委員、消防庁担当官
提出資料の検討後、消防庁担当官と話し合う。

建築業務基準委員会

6月13日　2時～4時　於日本建築士会連合会(東京)
出席者　谷委員長ほか19名　建設省・西尾信次氏
議事　建築業務基準について(継続)
7月12日　2時～4時　於日本建築士会連合会(東京)
出席者　谷委員長ほか構成団体各委員
議事　建築業務基準について(継続)

6月・7月の入会者 (敬称略)

〔団体会員1社〕　三谷産業㈱空調事業部
〔個人会員12名〕

飯田　公夫	小川　伸夫	岡崎　善久
黒田征四郎	駒井　智弘	杉本　章子
高塚　稔	竹原　八郎	頼富　雄次
金井　弘次	小林　俊雄	中居誠之助

防火 構造認定(防火第404号)

モルタルクラックが大幅に減少
工期の短縮が図れる左官用高級スタッコ

シンコー **白モルタル**

地震に強い家をつくるモルタル下地合板

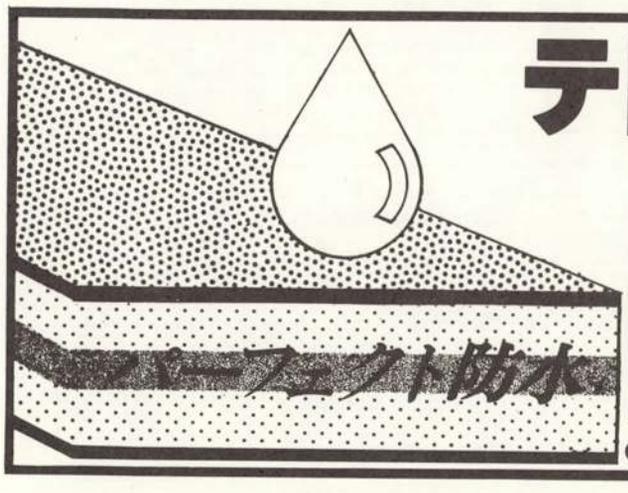
ラスカット

左官作業の近代化
一発で特殊「白モルタル」スタッコ仕上

スーパーローラー

(株)新興建材工業所

〒550　大阪市西区南堀江4丁目32−11　☎(06)538−2951(代)
営業所　明石・中国・四国・高槻・東京・新潟・仙台



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は(一層防水)施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8−4−9	電話03 (571) 2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6−1−41	電話06 (391)1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1−3−30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462 (21) 1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052 (811) 3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952 (47) 2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター販売株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号　電話大阪(06市外局番)371代表4151〜6
北陸営業所　金沢市長田町119番地　電話金沢(0762市外局番)65−5135〜6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7　電話神戸(078市外局番)611−7971
631−2021

防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シャッター

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1−12 日生ビル　☎(943)6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市

空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434）6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302）2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話（352）1131（代）
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町1-35-8　電話（667）3431（大代）
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8　電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備　設計施工

株式会社 三晃空調

取締役社長　齋藤博

本　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03−344−1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06−363−1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222−61−3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052−581−8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話0822−47−4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092−761−3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・横浜・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

本　店　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
本　社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(代表)
支　社　大阪・東京・名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・金沢・天理・岡山・広島・高松
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・千葉・横浜・静岡・豊田津・富山・長野・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州熊本・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・徳島・長崎
海外支店　シンガポール・ホンコン

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768−5031代表
メンテナンス部　大阪市大淀区豊崎4丁目5番21号
郵便番号531　電話 大阪(06) 374−0571代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2〜4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262−3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2（日本ビル）
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号（新大ビル）
電話（06）344−6031（代）
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話（03）279−5677 1(大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
取締役支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ！

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06−441−5171(大代表) 〒550

FUTABAYA DECORATORS,LTD



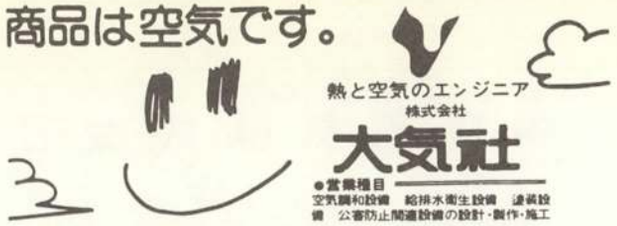
建築物船舶等造作工事、家具建具・室内装備工事
内外装飾織物・窓掛敷物壁紙類一式/設計施工

二葉屋装備工業株式会社

（創業大正7年）

大阪府摂津市東別府3丁目7番8号
電話 大阪（06)349−9193代表
大阪府知事建築業者許可(般−48)第12064号

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京支店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪支店☎06－4ﾄ－5851(代)
名古屋支店☎052－211－1535(代)　九州支店☎092－431－2147　営業所：札幌・仙台・横浜・京都
神戸・広島　出張所：新潟・金沢・大宮・静岡・豊田・岡山・松山・熊本・鹿児島・沖縄・バンコク

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

㈱西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3531番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511　(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

Carrier

冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靭本町3－1－27　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城 沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀1－6－8　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

飛鳥野瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中110750, 110751)　製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年　綜合施工卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本　社　大阪市生野区林寺1丁目5番14号　〒544
電話 06(715)0201代表～5番
営業所　大阪市平野区　工場　兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝　重要文化財　社寺・天理教教会本部　御用達

株式会社 瓦宇工業所

代表取締役　小林麻造
〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26－2901番(代表)

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島3－2－4 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル7階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番5号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202) 0325～9番
本 社 東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支 社 札幌・仙 台・丸 ノ 内・名 古 屋・福 岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

総合設備工事《設計・施工》
建築・電気・通信・送電線・プラント・計装・空調・土木

太陽工藤工事株式会社

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

本社 大阪市福島区福島7—22—8 Tel 06-452-1151(大代)
東京 東京都港区芝2－2－17 Tel 03-454-7311(大代)
支社 福岡・広島・名古屋・神戸・京都

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満2－6－8(堂ビル) TEL 06(364) 1 4 7 1
TELEX 523—3 2 8 7
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504) 0 2 3 1
TELEX 222—6 7 2 4
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991) 5 1 3 1
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881) 5 5 7 1

内外産建築用大理石 テラゾーブロック
花崗岩・其ノ他石材 テラゾータイル
ネオパリエ 各種カラー平板

株式会社 旭大理石工作所

本社工場 〒535 大阪市旭区中宮1丁目10番9号 電話(06)954-6661代表
京都工場 〒610-03 京都府綴喜郡田辺町大住 電話(07746)2-0374
岡山工場 〒709-04 岡山県和気郡和気町大字原 電話(08699)3-1365

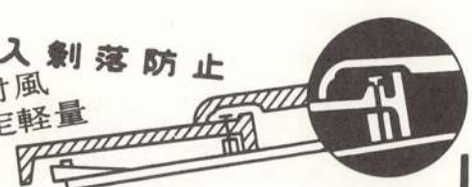
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満5丁目1番3号
TEL 06—364—3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

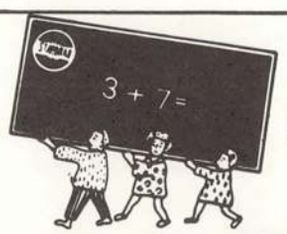
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市鶴橋元町二丁目七四 電話(771)五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ黒板

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 大阪市西区西本町1－13—33(靱本町バス停前)
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天理市丹波市町新町50

"屋根改修工事には府板ルーフ66を"

通産大臣認可 全日本板金工業組合連合会 大阪支部
建設大臣認可 社団法人日本建築板金協会 大阪支部
知事認可 **大阪府板金工業組合**

理事長 福 本 大 元

〒530 大阪市北区西天満4丁目2番4号 電話 06—364—3774(代)

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

岡田ペーパー株式会社
O.P.Co
大阪市西区北堀江２丁目５番20号
ＴＥＬ　06－531－4601(代)
06－541－2305(代)
フロアーサンディングシステム関連商品
研磨材料 & 研磨機器
布紙ペーパー & ジスクペーパー

営業種目
●防　水　工　事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹　付　工　事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建　設　業　許　可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26 ☎ 03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７ ☎ 06-202-3294

デンカCSA　デンカセメント
セキサンバイル(S M.AC.PC.RC)
カネライトフォーム.ALC.鋼材
建築材料一式
浜宗産業株式会社
代表取締役 濱岡　浩
本　社　〒629-31 京都府竹野郡網野町字網野
ＴＥＬ　(07727)2－２２２０(代)
舞鶴営業所　〒624　舞鶴市福来１６０-1
ＴＥＬ　(0773) 76－0133(代)

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
(膨張性混和材)
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
(グラウト用無収縮材)
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
(止水・補修用急硬セメント)
●デンカES……地盤補強用薬液注入
(土質安定用急硬材)
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷と
ハイモメント製造用に
(製品用超高度混和材)
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
株式会社 トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１

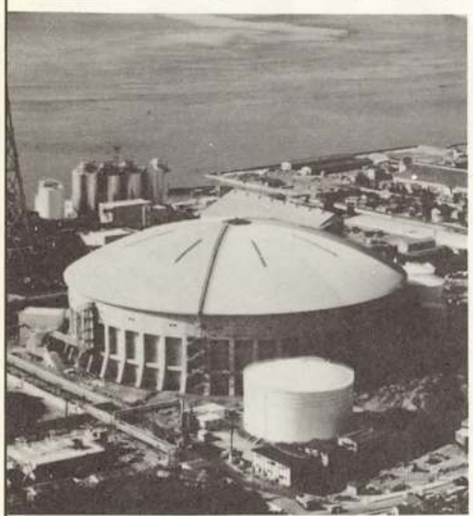
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ホーンタイト(防音壁)・其の他

※ カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
営業部　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷
姫路(東洋建材工業．株)
東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北

全国書店18日一斉発売！（最寄りの書店にご注文下さい。）

計画➡設計➡施工➡技術の総合専門誌

月刊 建築技術

No. 398　10月号予定目次　定価 1,000円

- 建物をいつまでも美しく丈夫で長持ちさせる法…塩澤　六男
- アルカリ骨材反応を防ぐには…水上　国男
- 音のトラブル対策あの手この手 —最近の防音材料，工法…編　集　部



- 建物の火災危険度を測る……森下弥三郎
- 建築非構造部材の耐震設計……高橋　茂樹
- 建設技術評価；低騒音型油圧パイルハンマの開発……安崎　裕

神戸製鋼所／三和機材／武江建設興業・セボル／日本コンクリート工業・日立建機／日本車輌製造／間組・トキワ建機／前田製管／新営鉄工所　ほか

- BEMOS 空調設計プログラム……日吉　一彦
- 研究施設の計画と設計24.……高橋　義英
- 構造計算データシート(105)……構建設計研究所

連載　建築ライブラリプログラム／研究施設の計画と設計

建築経済統計図表●フォトニュース●トピックス●建築家の良識●読者コーナー●海外の話題●建材の動向　その他

直接購読ご希望の場合の年間予約金　12,000円(送料共)

出版案内

好評発売中！

建築設備読本　井上　博著

Ⅰ 給排水衛生設備篇

月刊「建築技術」連載でおなじみの，わかり易い説明文。設計者や現場マンに，建築技術者としてこれだけは知っておきたい93項目について，自筆の挿図と写真を豊富に使用しながら説き進めた新入社員の教育と中堅社員の知識の整理に最適の書。

B５・180頁　定価3,200円・送料300円

新刊5好評発売中！　A５・340頁　定価3,800円・送料300円

建築構造問題快答集　建築技術編集部・編

好評シリーズ第五巻は新耐震設計法に関する質疑応答を実に二百二十問もあつめた労作。回答はすべて構造家懇談会技術委員会の専門家で，難問もわかりやすく回答されている。

1 A5・430頁
2 A5・385頁
3 A5・373頁
4 A5・340頁
各巻共 定価3,800円・送料300円

納まりやすく施工しやすい配筋の指導書

配筋読本　井上　博／北小路宏共著

B５・162頁　定価3,200円・送料300円

設計者と現場マンのためのわかる溶接

増補 溶接読本　井上　博著

B５・149頁　定価3,000円・送料300円

目と手で確かめた水と土の記録

増補 最新場所打ぐい工法　北中克己著

A５・325頁　定価3,500円・送料300円

〒160 東京都新宿区北新宿1-8-1 中島ビル８F　建築技術　振替口座 東京0-72417番 ☎東京03(363)4211(代)

人の、おしりを洗いたい。



マイコン制御で、洗う、乾かす、暖める…と、すべてをコントロール。しかもビデ洗浄付です。新しいウォシュレットは、マイコンによる自動温度制御方式。洗浄、乾燥、暖房便座の温度は、すべてこのマイコンがコントロールしてくれます。だから室温、水温の変化に影響されず、春夏秋冬、いつもおしりは快適。お子様、ご老人、身体の不自由な方でも、ラクな姿勢で使え、痔や便秘にも効果的です。また、生理中、妊娠中、出産後など、ふだんより一層清潔に気を配らなければならない女性のために、ビデ洗浄も設けました。カラーも3色揃っています。特に注目していただきたい、2つのポイント。1. パネル1枚にすべてのスイッチを集めた新設計。ボタンは軽く押すだけのフェザータッチです。2. 洗浄ノズルは使用時に伸び、洗い終ると縮んで便座の裏に隠れる伸縮式。用便時など汚物が付着しません。しかもノズルは43度（ビデは53度）の角度つき。理由はおしりをキレイに洗うため。60年のトイレづくりから得たTOTOの結論です。ウォシュレットGⅡ（TCF451）〔洗浄・乾燥・ビデ・暖房便座〕水道直結タイプ¥149,000（取付工事費別途）



もっと快適に、増改・取替

TOTO
ウォシュレット

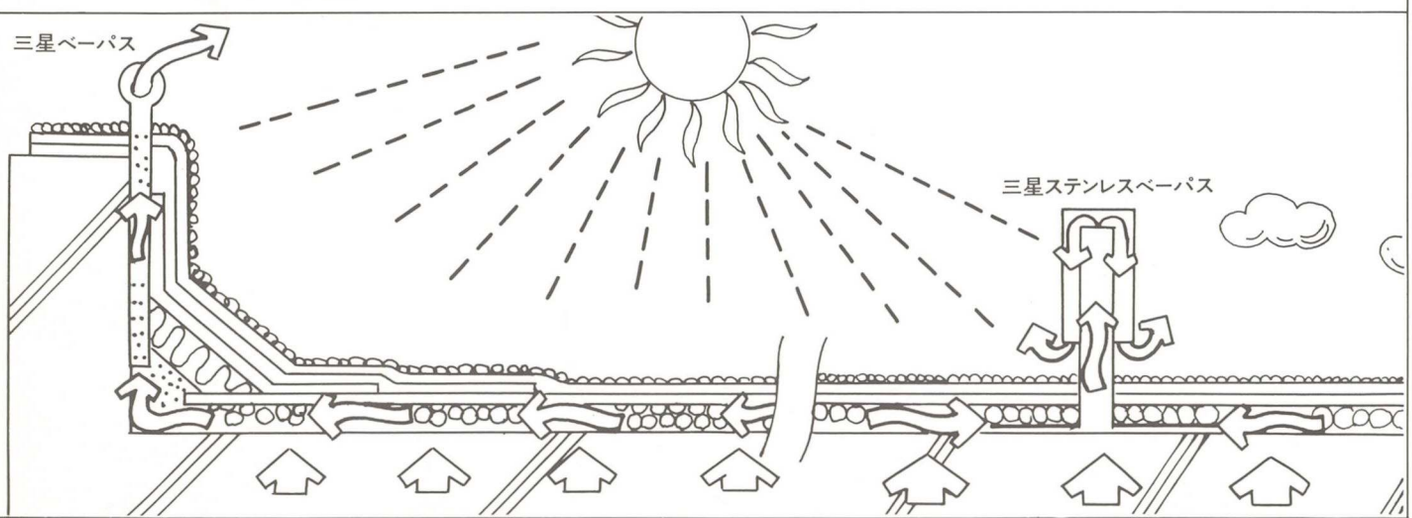
写真はウォシュレットGⅡ（TCF451）

東陶機器㈱大阪支社　〒530 大阪市北区曽根崎2丁目3番7号 梅新第一生命ビル東館
☎(06)364-1181

おしりだって、洗ってほしい。

建築と社会　第65輯第9号
昭和59年9月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可
社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1-の1-の3の2100　電話大阪06(348)0635
（表紙デザイン・濱野節朗）
振替口座大阪一三九九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九五〇円（送料共）

防水層の“ふくれ”を追放した
三星ベーパス
三星ステンレスベーパス



湿気の逃げ道をつくりました。!

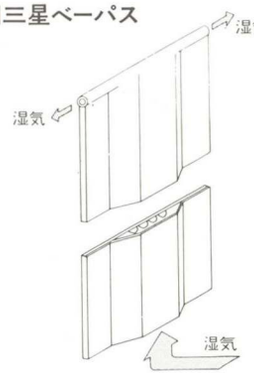
三星ベーパス・ステンレスベーパスは、防水層の立上り部から湿気抜きを行う、もっとも優れた湿気抜きシステムです。
露出防水におけるふくれ防止に取組んできた田島ルーフィングが、画期的な工法**〈絶縁工法一部分接着工法〉**を開発、さらに露出防水機能を一段と高める湿気抜き材**〈三星ベーパス・ステンレスベーパス〉**を登場させました。

部分接着工法＋	三星ベーパス 三星ステンレスベーパス

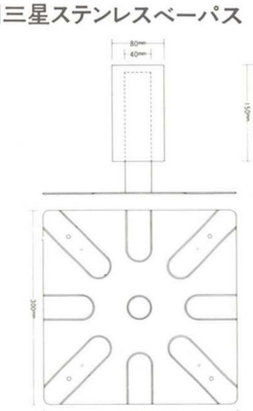
バリボード工法＋	三星ベーパス 三星ステンレスベーパス

上記工法と併用すれば、理想的な湿気抜きシステムが完成します。

■三星ベーパス



■三星ステンレスベーパス



露出防水の機能を高める、湿気抜き材料
三星ベーパス〈立上り部用〉
三星ステンレス・ベーパス〈平面部用〉

● 企画係まで資料をご請求ください。

田島ルーフィング株式会社
東京　〒101　東京都千代田区岩本町3-11-13　電話(03)862-8531
大阪　〒550　大阪市西区京町堀1-10-5　電話(06)443-0431
札幌・仙台・金沢・名古屋・広島・高松・福岡